クボタトラクタ

取扱説明書

T200・T220・T240

F-12985

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

注意マーク

火気厳禁

ディーゼル軽油

燃料（残量）

グロー

バッテリ充電異常

エンジンオイル圧力異常

エンジン停止

エンジン水温

ホーン

方向指示器

ヘッドライト（下向）

ヘッドライト（上向）

アクセル高

アクセル低

倍速ターン

水平制御

作業灯(後)(オプション)

ワイパ

ウォッシャ

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

T0421-1920-2

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。

- パワーステアリング付き ………………………… “S仕様”
- モンローマチック付き ………………………… “M仕様”
- モンローマチック・メカオート付き ………… “MA仕様”
- グライドシフト ………………………………… “グライドシフト(F)仕様”
- AD倍速ターン付き ……………………………… “B仕様”
- 倍速ターン付き ………………………………… “EB仕様”
- 大径タイヤ付き ………………………………… “J仕様”
- 逆転PTO付き …………………………………… “E仕様以外”

トラクタを安全にしかも上手にご使用していただくために，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から保守点検まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全作業をするために：**安全作業をするために必ず守るべき基本的注意事項，警告・注意ラベルの機械への貼付け位置と守るべき警告・注意事項を解説していますので熟読のうえ理解し，必ず守ってください。

動かす前に実施しましょう

2．**確認と手続き：**

(1)ご相談の際に必要な製品名称と機械番号の打刻位置を確認しておいてください。
(2)小型特殊自動車取得の届出と標識(ナンバープレート)の交付を受けてください。
(3)各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，作業前の点検内容を理解し必ず実施してください。

最初にトラクタの安全運転のための基本操作を体得しましょう

4．**トラクタの運転：**

(1)正しいエンジンの始動と停止手順を体得してください。
(2)安全にトラクタを前進・後退・停車させる基本操作を体得してください。
(3)倍速ターン，AD，デフロックの正しい取扱い方を体得してください。
(4)トラックへの安全な積み・降ろし，ほ場への出入時の注意，および旋回方法等を理解し，必ず守ってください。

トラクタの性能を最大に発揮させるため各装置の基本操作を体得しましょう

5．**上手な装置の使いかた：**

(1)油圧，三点リンク，ＰＴＯの正しい取扱いと調整方法を体得してください。
(2)モンローマチック・メカオート，およびタイヤの正しい取扱いと調整方法を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

6．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，シーズン前後・長期格納時のメンテナンス・定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

目　次

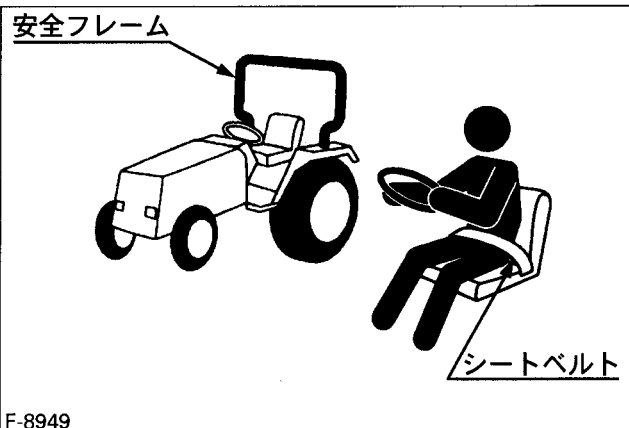
安全に作業するために

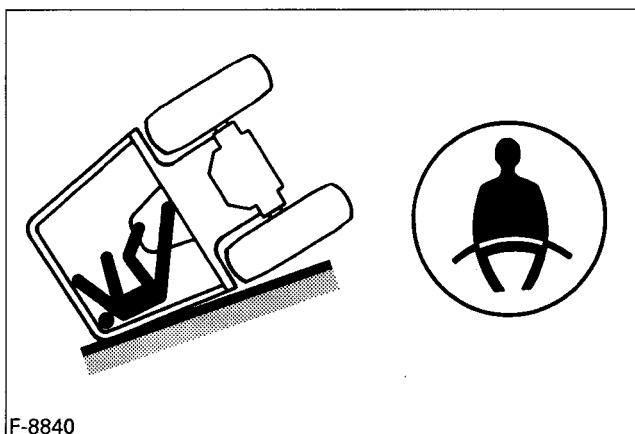
必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で▲危険・▲警告・▲注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全フレームについて

安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

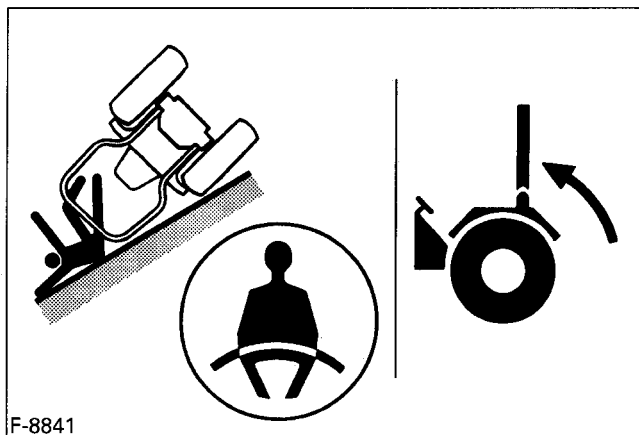
F-8949

(1)運転時は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。

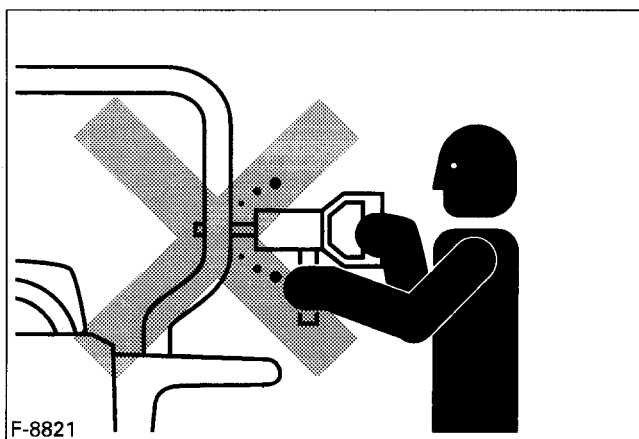
F-8840

(2)安全フレームを取外して運転しないでください。

(3)納屋の出入り等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。

(4)安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。

(5)安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行なってください。

F-8841

(6)安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

F-8821

安全に作業するために

2. 運転前に

(1)トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある▲表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。

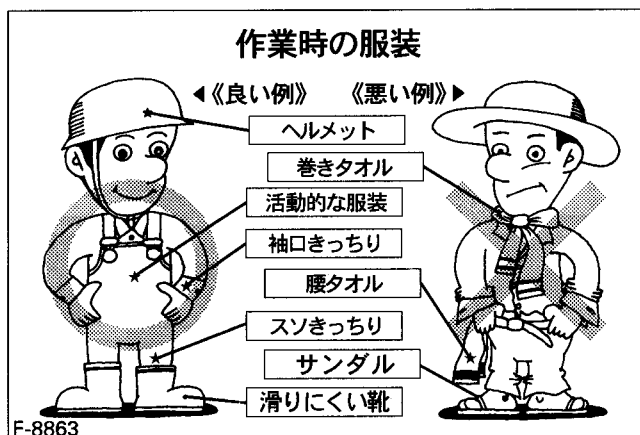
(2)トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。

(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

F-8822

(4)飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

(5)ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。

F-8863

(6)トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

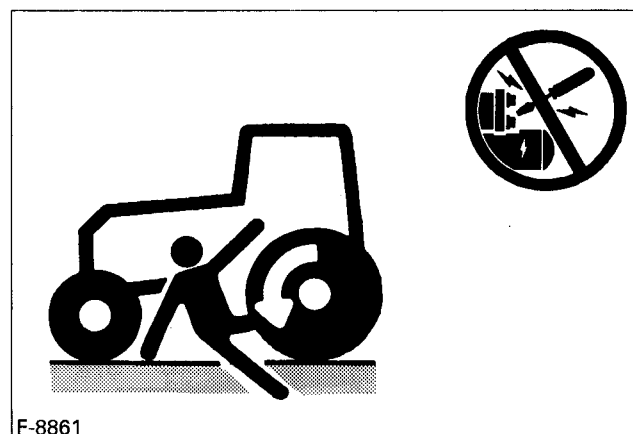
(7)安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は**"トラクタの簡単な手入れと処置"**の章参照)

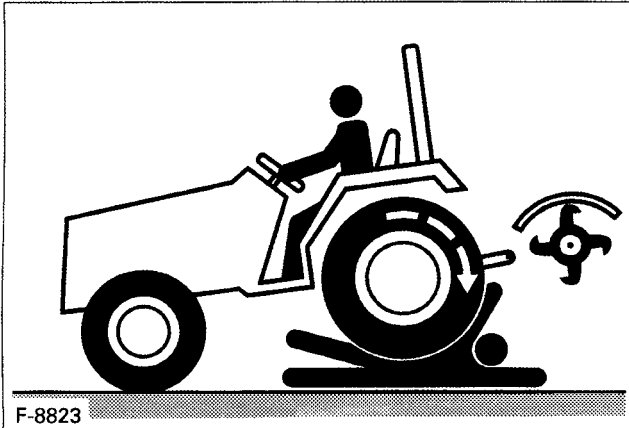
(8)トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

3. 始動時に

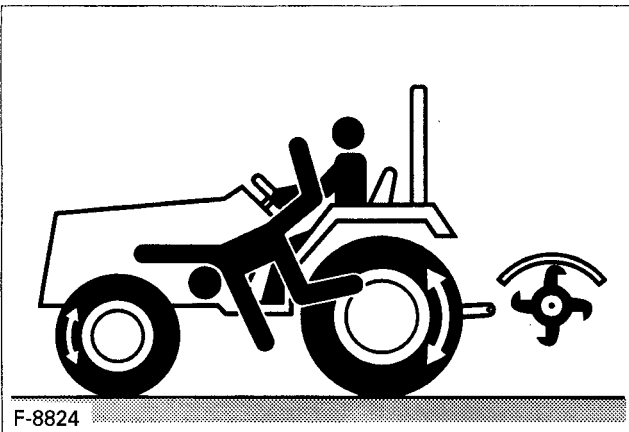
(1)エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速レバー・PTO変速レバーが**"中立"**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。

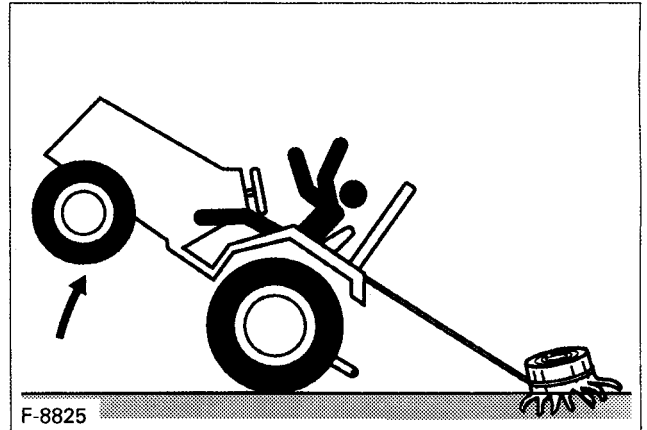
(2)地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出す恐れがあります。

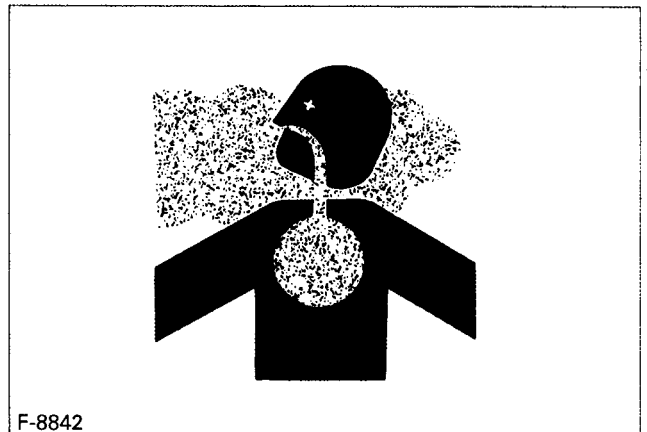
F-8861

(3)トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。又，安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

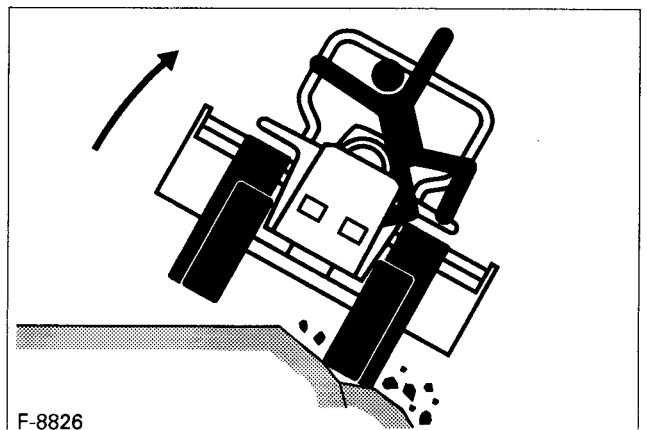
F-8823

4．運転時に

(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。

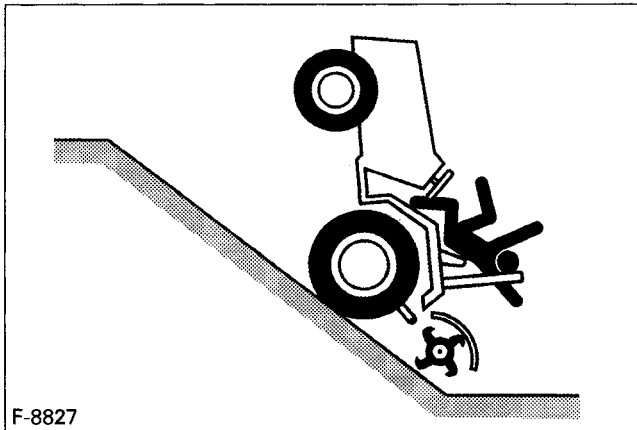
F-8824

(2)けん引作業には，けん引ヒッチ(別売)を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。

F-8825

(3)換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。

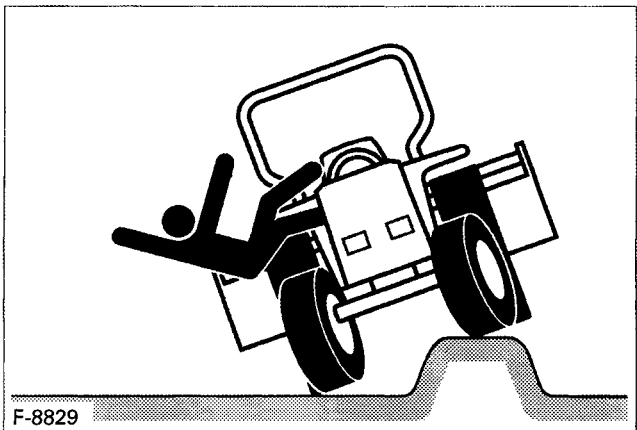
F-8842

(4)溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。

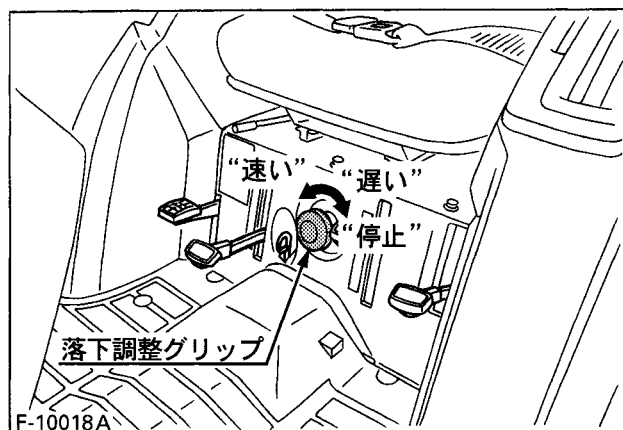
F-8826

安全に作業するために

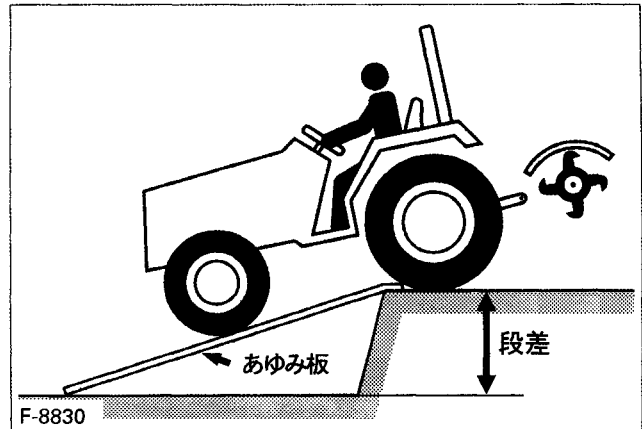
(5)溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。

F-8827

(6)共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。

(7)ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

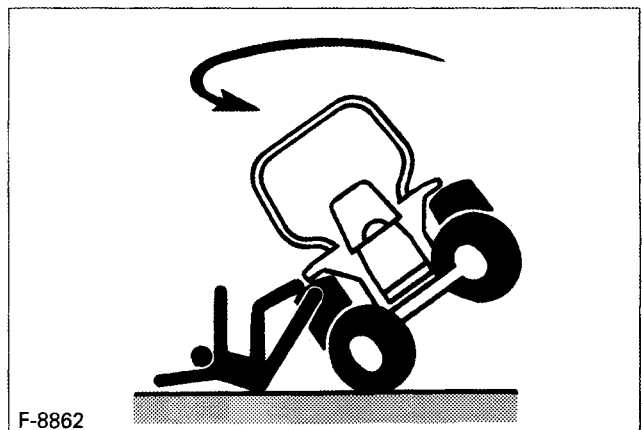
F-8829

(8)ほ場外では，油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。

F-10018A

(9)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。

F-8830

あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。

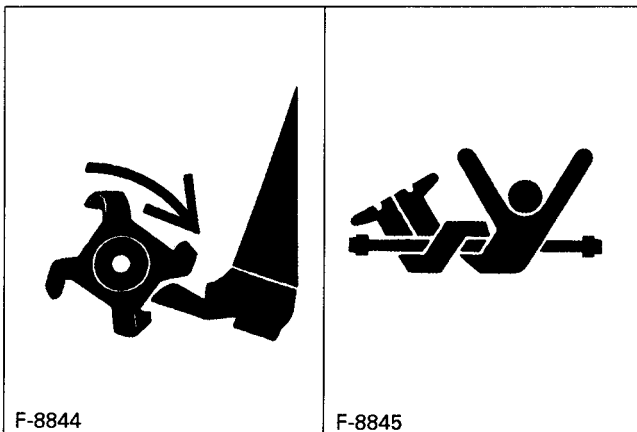
(10)急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

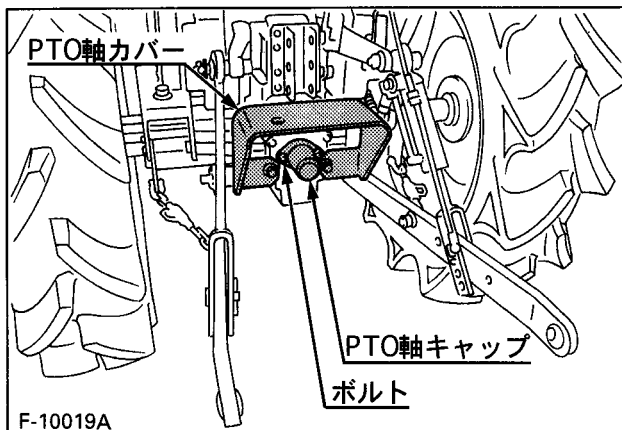
(11)ほ場以外や高速走行時，倍速ターン及びAD倍速ターンを使用すると，旋回時急に回り事故を引起こす恐れがあります。
必ずAD倍速スイッチを**"切"**に切換えてください。

F-8862

5．作業機使用時に

(1)作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。

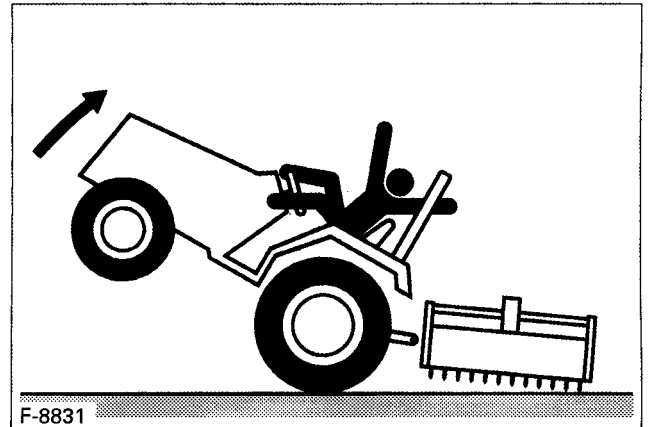
(2)トラクタから降りるときや，ロータリなどＰＴＯ作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。

F-8844　F-8845

(3)ＰＴＯを使用しないときは，ＰＴＯ軸キャップを装着しておいてください。

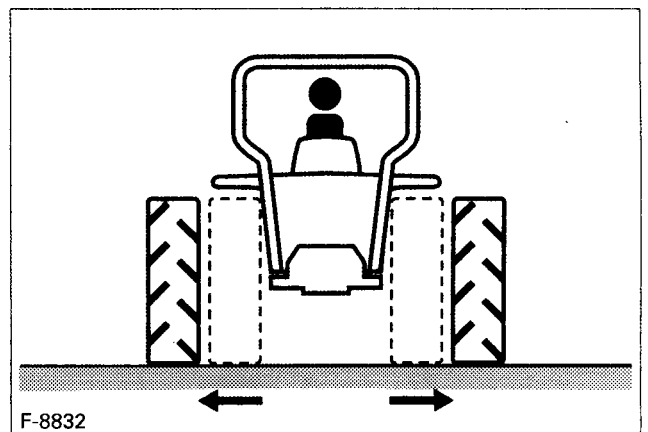
F-10019A

(4)ＰＴＯ軸カバーは常に取付けておいてください。

(5)ＰＴＯ作業機は，その作業機で定められたＰＴＯ回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故の恐れがあります。

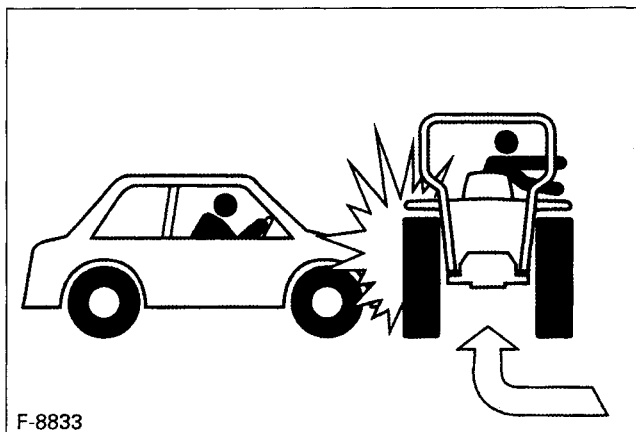
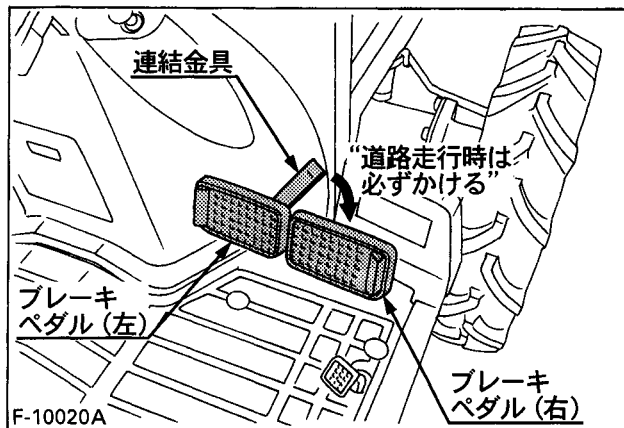
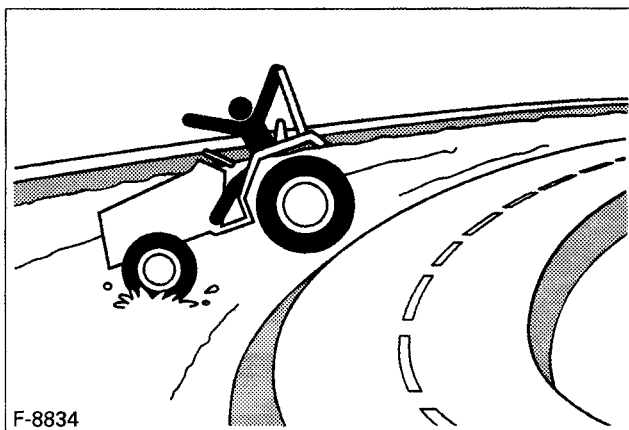
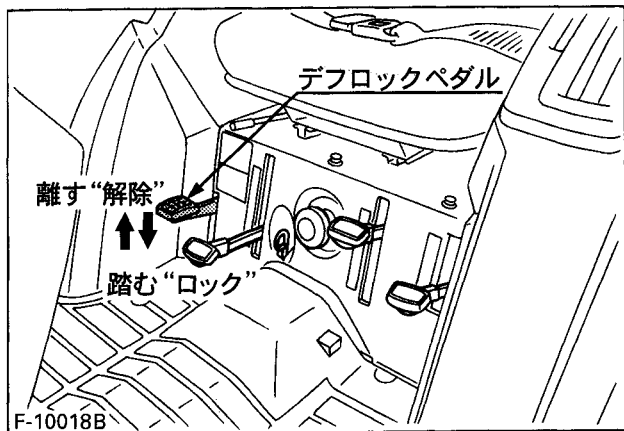
(6)トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪(前輪)にかかる荷重がトラクタ質量の20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。

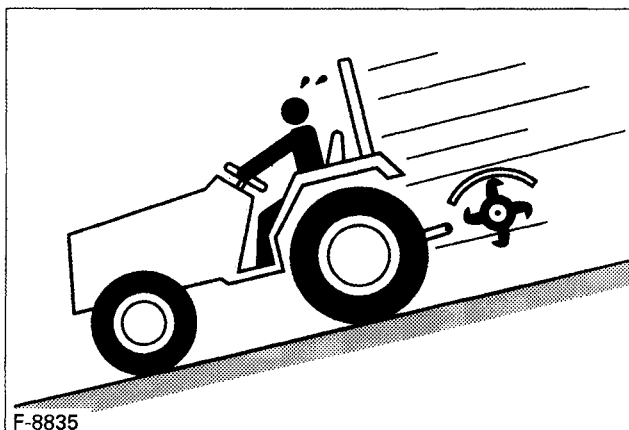
F-8831

(7)作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

(8)傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距(タイヤ中心間の距離)を大きくしてください。

F-8832

安全に作業するために

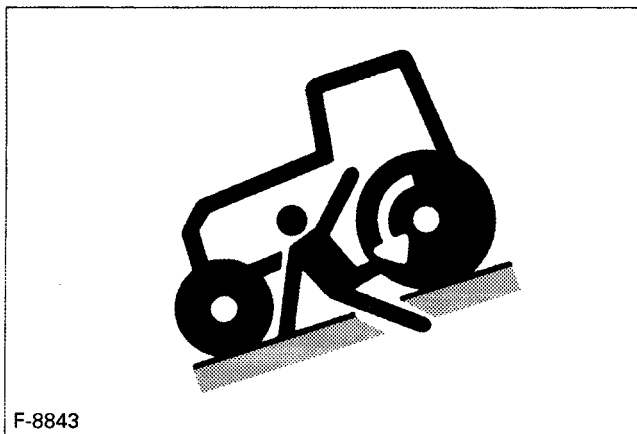
6．道路走行時に

(1)道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故の恐れがあります。

(2)道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
ハンドル操作が出来なくなります。

(3)旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。

(4)坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなる恐れがあります。

(5)トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。（道路運送車両法の保安基準）
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

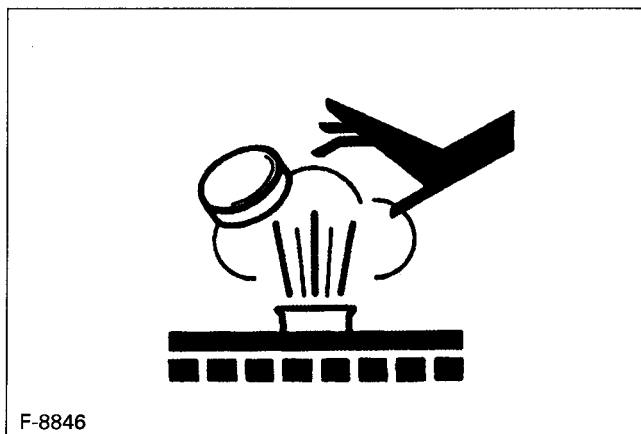
(6)交通や安全規則を守ってください。
運転免許証は，必ず携行してください。

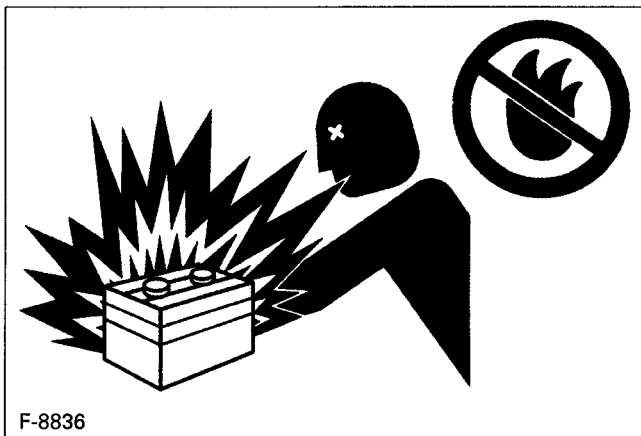
7．駐車，格納時に

(1)駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，ＰＴＯを**“切”**，作業機を**“下げ”**，変速レバーを**“中立”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，エンジンを**“停止”**してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。

F-8843

(2)乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
(3)格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行なってください。

8．点検・給油・整備時に

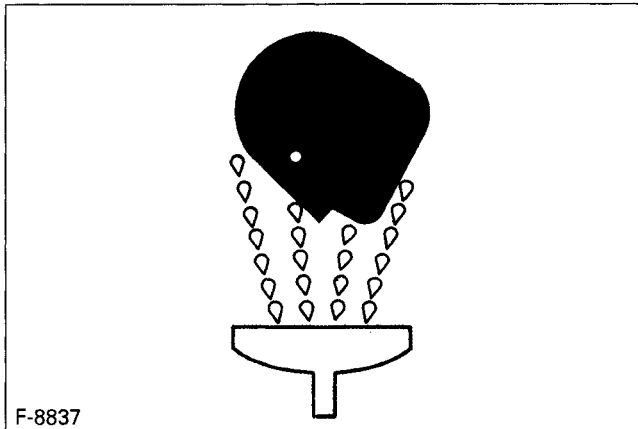
(1)平たんな場所に駐車し，作業機を**“下げ”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，変速レバーを**“中立”**にし，そしてエンジンを停止してください。
(2)エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。

F-8846

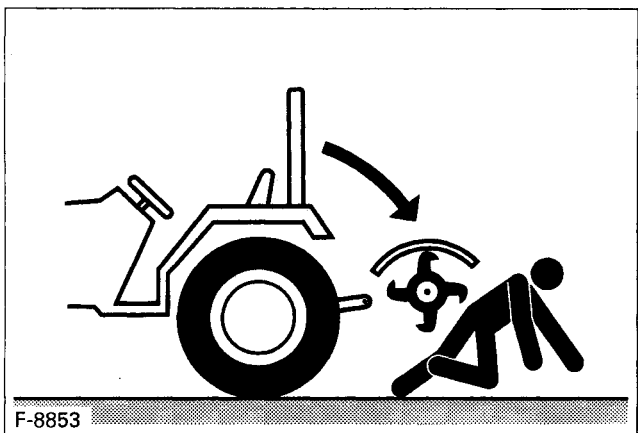
(3)燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の恐れがあります。

F-8836

(4)放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(エンジンの運転の章**“バッテリあがりの処置”**を参照)
(5)バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVEL(上限）とLOWER LEVEL(下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリ）

安全に作業するために

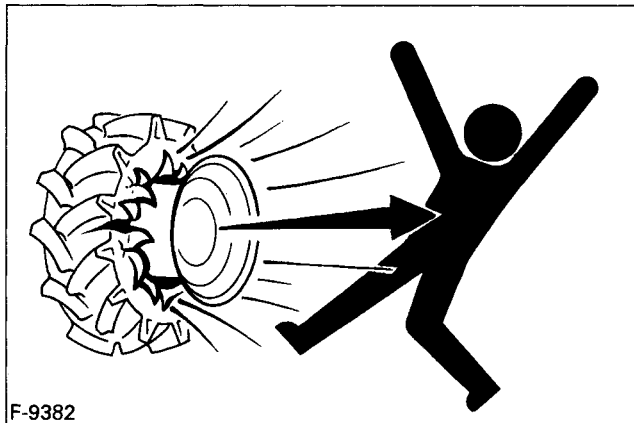
(6)バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。

(7)バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

F-8837

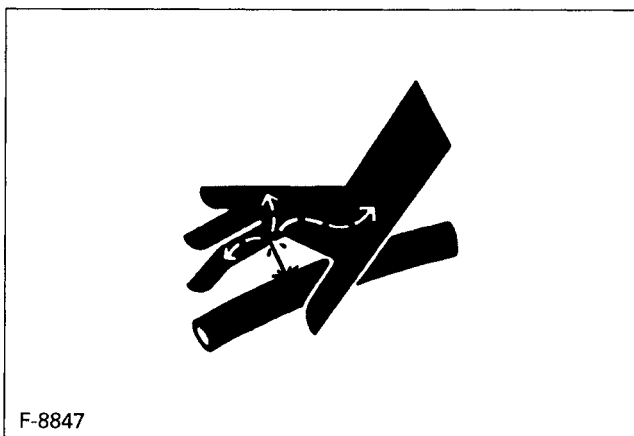
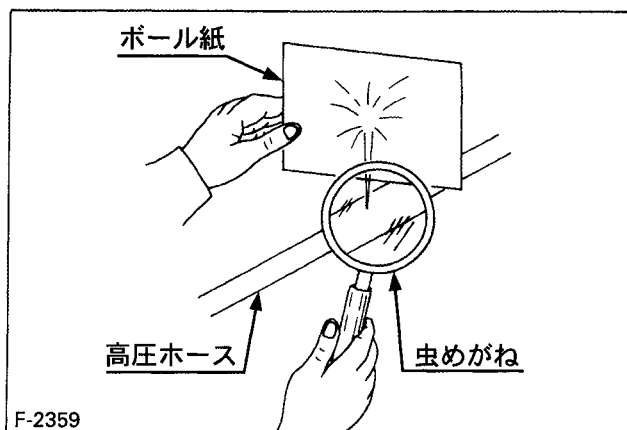
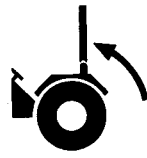
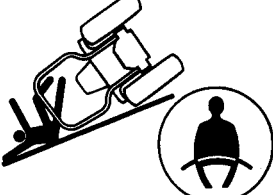
(8)３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行う場合，シート下部にある油圧ロックを締めて落下防止を行なってください。

F-8853

(9)タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。

(10)タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。

(11)タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

F-9382

(12)圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

(13)見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。

F-8847

F-2359

9. ▲表示ラベルと貼付け位置

①品番　6A100-4755-1

▲ 警告

転倒、転落による死傷事故軽減のために：
- 納屋の出入りなと安全フレームか当たる場合を除き、運転時は安全フレームを立て、確実にロックして使用すること。
- 安全フレームを立てたとき、必すシートヘルトを着用すること。
- 安全フレームを折った状態ては、シートヘルトを着用しないこと。

②品番　T0430-4945-1

▲ 注意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、PTO及ひ各変速レハーを中立にすること
- 前後左右に人かいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気カスによる一酸化炭素中毒の恐れかあるのて換気の不十分な所て使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩なと重みてくすれやすい所ては運転しないこと
- 道路走行時はテフロックを使用しないこと

運転時
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等ては遅い車速て運転し、途中て変速しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- PTO及ひ各変速レハーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車フレーキを掛け、エンシンをとめること

点検、整備時
- エンシンをとめ、機械の各部か停止してから行うこと
- 3点リンク作業機持ち上け時は油圧ロックをすること

③品番　T0180-4906-1（グライドシフト仕様のみ）

▲ 警告

駐車後にトラクタが動く恐れがあるため
必ず駐車ブレーキをかけること
本機は変速ギヤを入れていてもエンジンをとめるとエンジンブレーキはききません

④品番　6A000-4745-1（グライドシフト仕様のみ）

▲ 注意

急発進による事故を防ぐために：
・主変速レバーの急激な変速はしないこと
・前後進はN位置で一旦停止して切り替えること

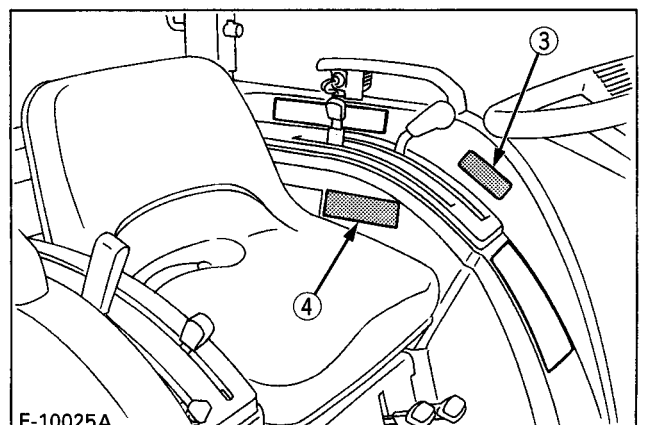
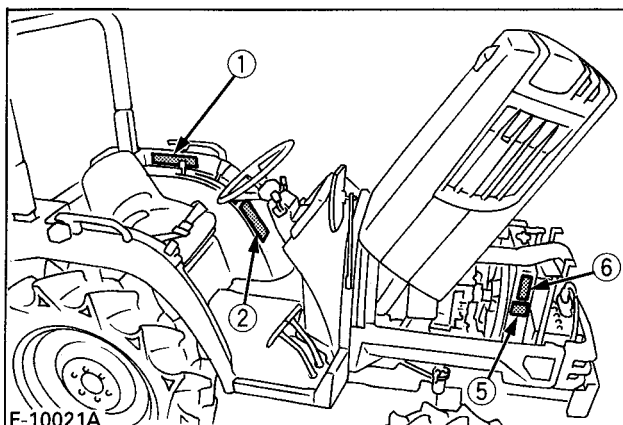
⑤品番　T0180-4955-1

▲ 注意

サイドカバーを外したまま使用すると傷害の恐れがあるので、取付けて使用すること

⑥品番　T0180-4957-1

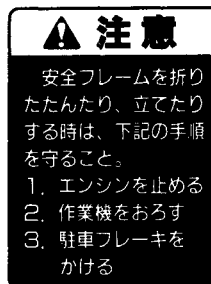
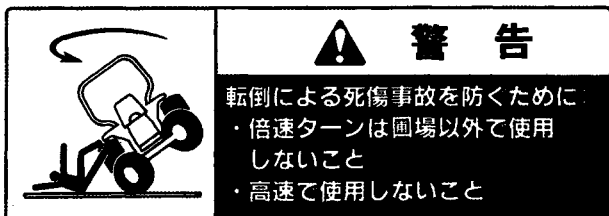
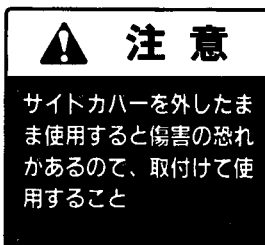
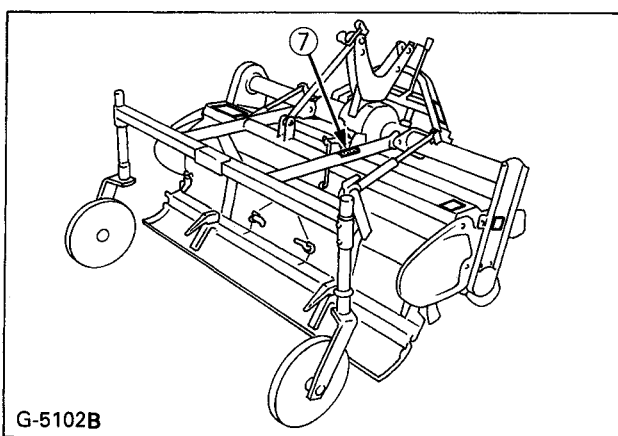
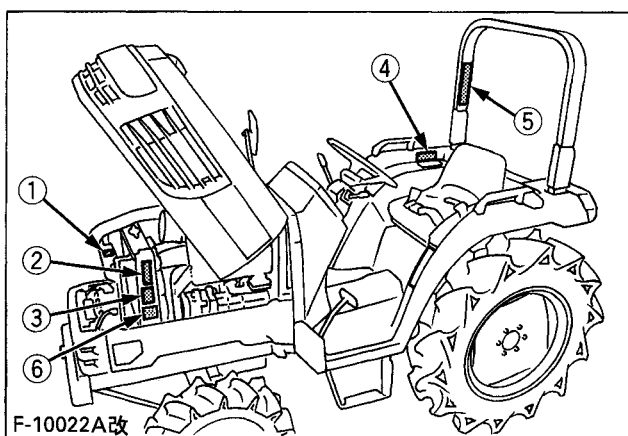
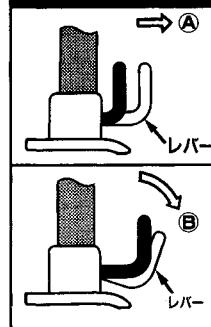
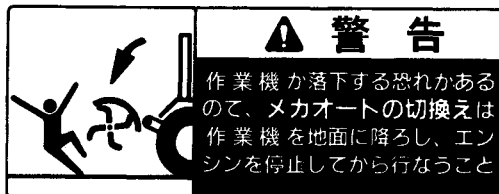
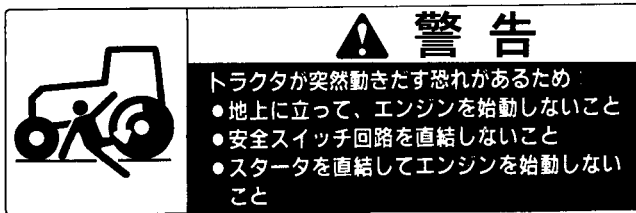
▲注意

指を切傷するのでファン、ベルトに触れないこと

安全に作業するために

①品番　67980-4737-1

②品番　T0180-4957-1

③品番　T0180-4958-1

⑤品番　T0430-4935-1

④品番　T0180-4905-1（B·EB仕様のみ）

⑥品番　T0180-4955-1

⑦品番　T0430-4397-1

F-10022A改

G-5102B

①品番　T0180-4965-2

▲ 警　告

トラクタが突然動きだす恐れがあるため：
- 地上に立って、エンジンを始動しないこと
- 安全スイッチ回路を直結しないこと
- スタータを直結してエンジンを始動しないこと

②品番　67955-4746-1

▲ 警　告

転倒や衝突による死傷事故をふせぐために、道路走行時は左右のブレーキペダルを連結すること

③品番　3F740-9828-2

▲ 注　意

- 火気厳禁
- ディーゼル軽油を使用のこと。

⑥品番　6A100-4772-1

▲ 注　意

- PTO軸カバーを取りはずさないこと
- PTO軸カバーの上に乗らないこと

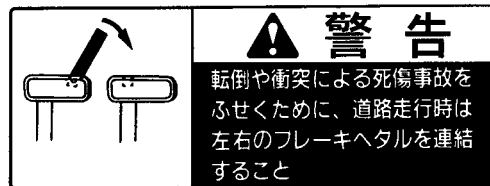
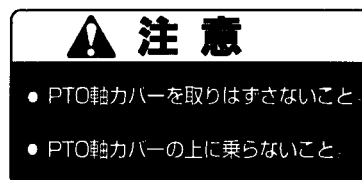
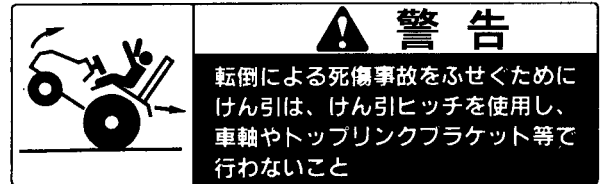
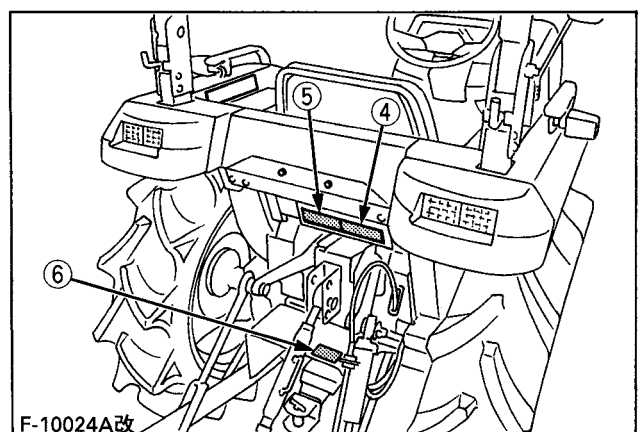
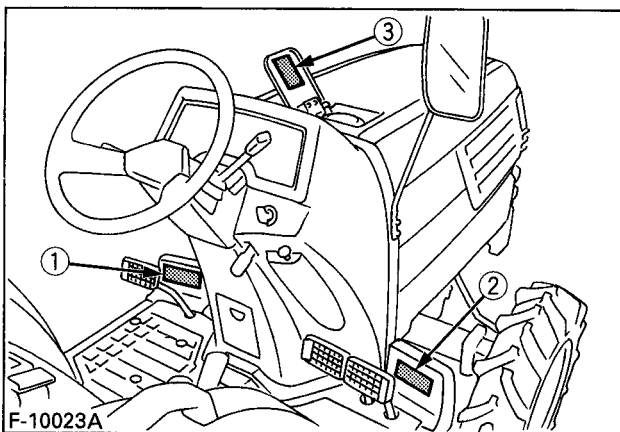
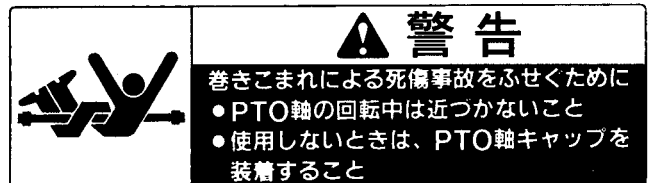
④品番　T0180-4904-1

▲ 警　告

転倒による死傷事故をふせぐためにけん引は、けん引ヒッチを使用し、車軸やトップリンクブラケット等で行わないこと

⑤品番　T0180-4959-1

▲ 警　告

巻きこまれによる死傷事故をふせぐために
- PTO軸の回転中は近づかないこと
- 使用しないときは、PTO軸キャップを装着すること

10. ▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

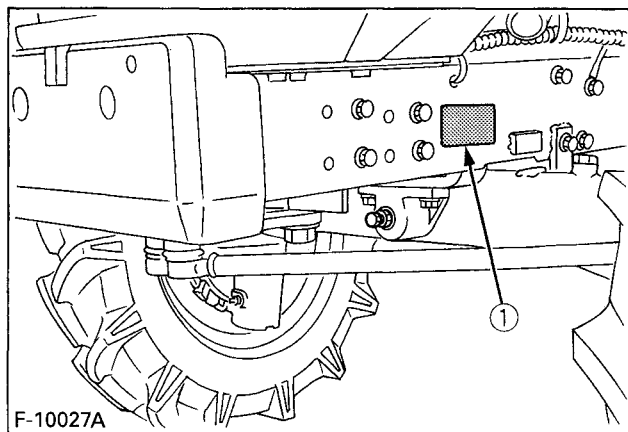
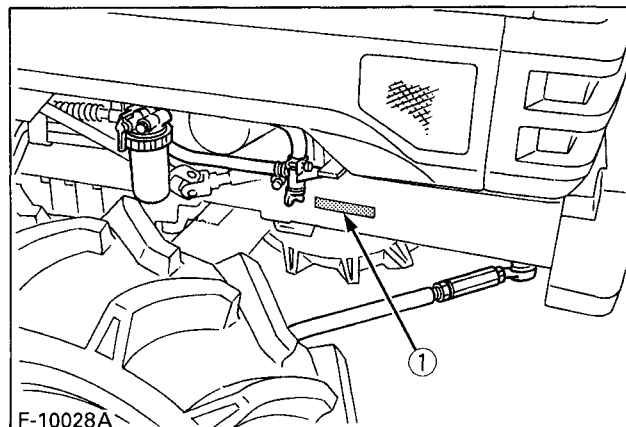
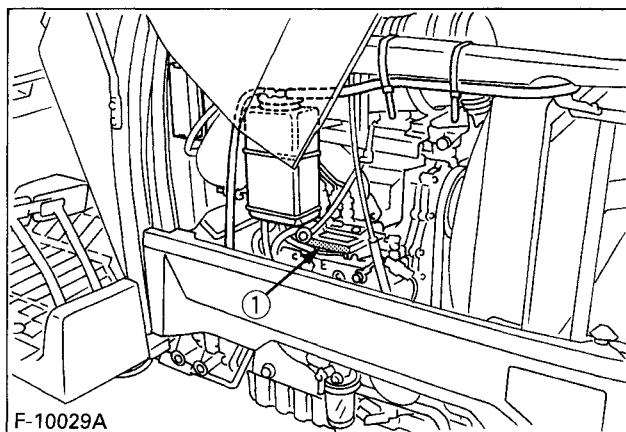
この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ“**ご相談窓口**”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 農機型式名と車台番号
2. 機関型式とエンジン番号

をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

①銘板

①車台番号

①エンジン番号

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後12年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

農　機　型　式　名	型式検査（国検）合格番号
クボタ SF-GT26S	201008

農機型式名	安全鑑定適合番号	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号
クボタ T200	26034	クボタGTD	農 2022 改造型
クボタ T200F	26035	クボタGTD	農 2022 改造型
クボタ T220	26036	クボタGTE	農 2023 改造型
クボタ T220F	26037	クボタGTE	農 2023 改造型
クボタ T240	26038	クボタGTF	農 2024 改造型
クボタ T240F	26039	クボタGTF	農 2024 改造型

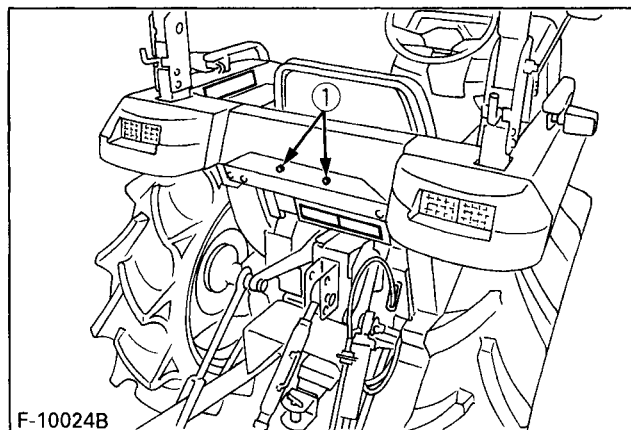
＊検査成績表は80ページをご覧ください。

小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出と標識(ナンバープレート)の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識(ナンバープレート)の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

❶小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など(購入先で発行)に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
❷届出が済むと標識(ナンバープレート)が交付されます。
❸標識(ナンバープレート)は，車体の取付け位置に取付けてください。

①標識(ナンバープレート)取付け位置

■運転免許

公道を走行する場合は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

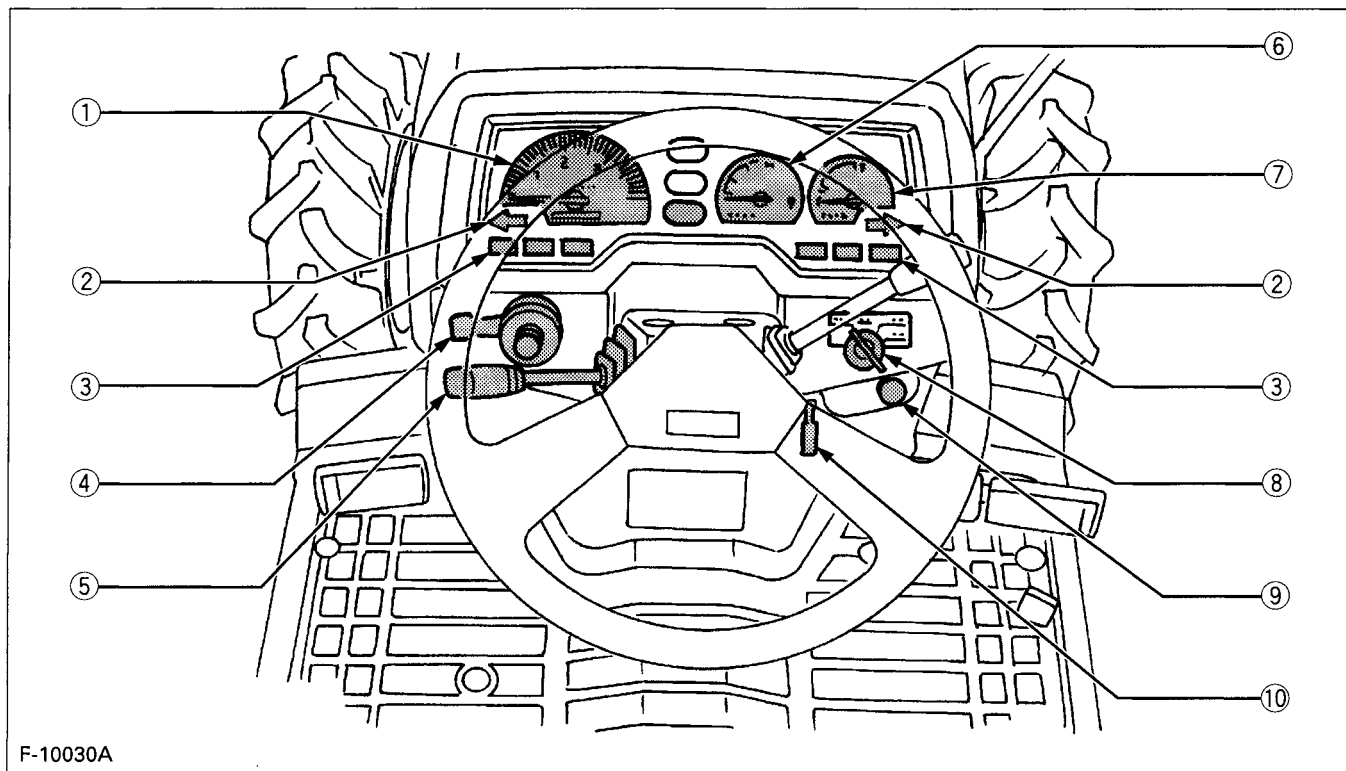
重　要

*エンジンで封印されている所はさわらないでください。(封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。)

補　足

*インプルメントを装着した状態では **“道路運送車両法の保安基準”** を満足しませんので，道路走行することはできません。
*作業灯は **“道路運送車両の保安基準”** 第42条(灯火の色等の制限)において，**“走行中に使用しない灯火”** とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

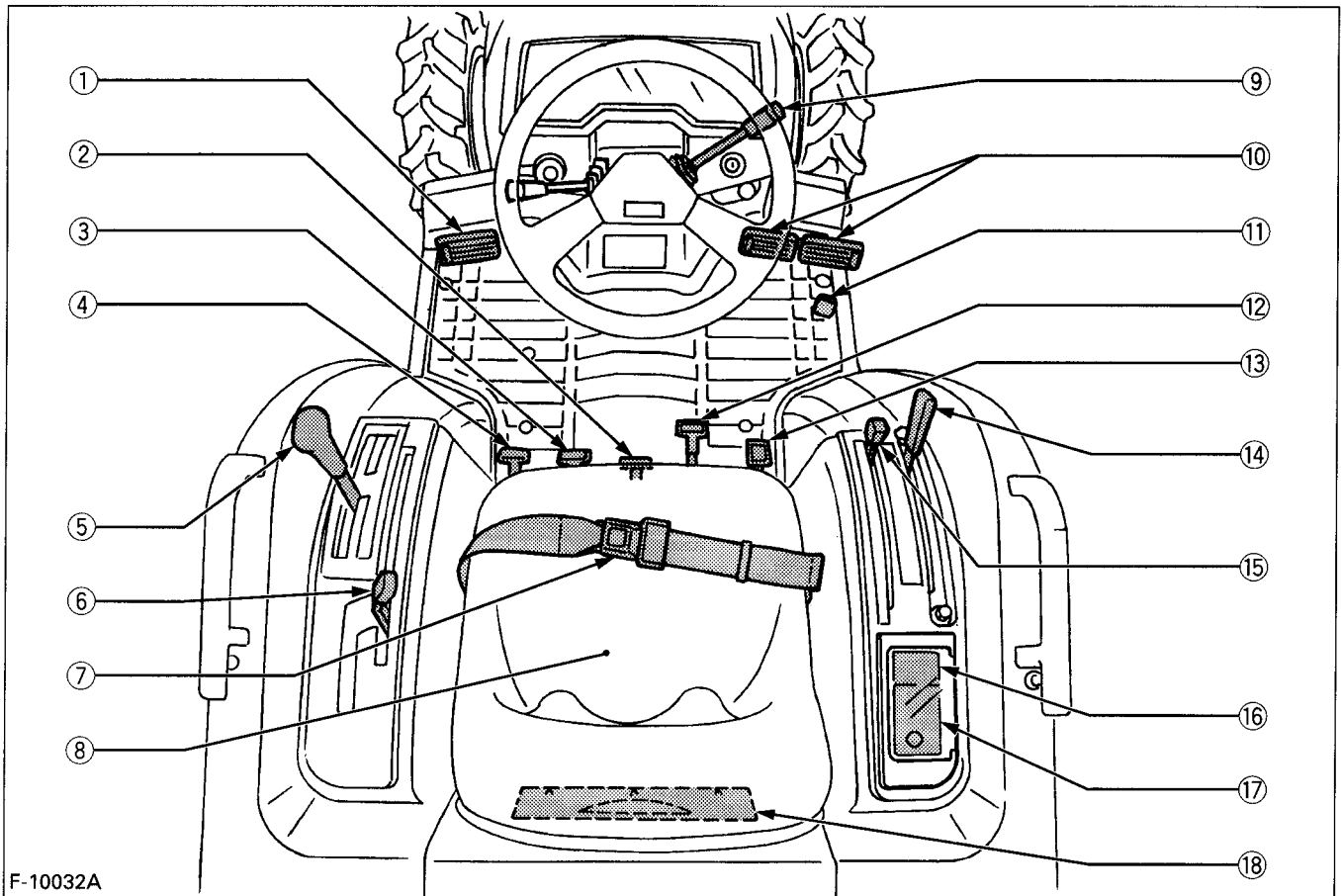
運転に必要な各部の名称

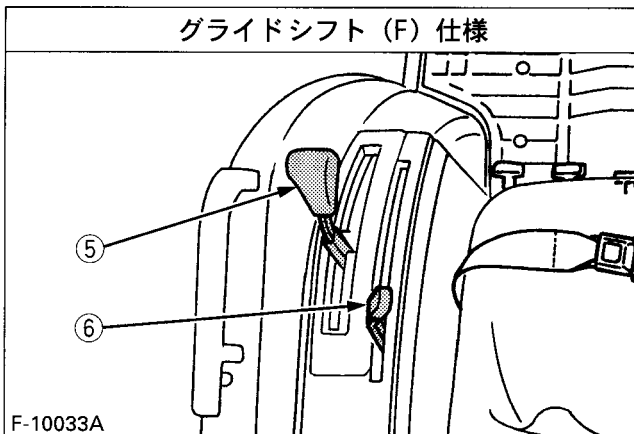
各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

参照ページ

①トラクタメータ …… 25
②ウインカパイロットランプ …… 15
③イージーチェッカ …… 4
④コンビネーションスイッチ …… 15
　ライティングスイッチ
　ウインカスイッチ
　ホーンボタン
⑤チルトレバー …… 15
⑥水温計 …… 25
⑦燃料計 …… 24
⑧キースイッチ …… 9,11
⑨エンジンストップノブ …… 7,11
⑩駐車ブレーキレバー …… 23

■イージーチェッカ

F-10031A改

	参照ページ
バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）	24
グローランプ	9
エンジンオイルランプ（エンジン油圧警告灯）	24
ADランプ【B仕様】	18
倍速ターンランプ【B・EB仕様】	18
モンローマチックランプ【M・MA仕様】	37
ブレーキ連結解除ランプ	16

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
F-10032A

グライドシフト（F）仕様

参照ページ

①クラッチペダル ………………………………… 16
②落下調整グリップ ……………………………… 31
③PTO正逆転切換レバー【E仕様以外】 ………… 35
④前輪駆動レバー ………………………………… 17
⑤主変速レバー ………………………………… 19,22
⑥副変速レバー ………………………………… 19,21
⑦シートベルト ………………………………… 14
⑧シート ………………………………………… 13
⑨アクセルレバー ……………………………… 20,21
⑩ブレーキペダル ……………………………… 16
⑪アクセルペダル ……………………………… 20,21
⑫PTO変速レバー………………………………… 35
⑬デフロックペダル …………………………… 26
⑭油圧(ポジションコントロール)レバー ……… 16,30
⑮オート耕深レバー【MA仕様】 ……………… 39
⑯AD／倍速スイッチ【B仕様】 ……………… 17
倍速スイッチ【EB仕様】 ……………………… 18
⑰モンローマチックスイッチ【M･MA仕様】 …… 36
⑱工具箱 ………………………………………… 45

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
〔点検方法の詳細は，**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の項を参照。〕

 注 意

＊運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジン停止後30分経過してから開ける。
❷点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重 要

各部への給油と交換
＊点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず指定**“クボタ純オイル”**を使用してください。

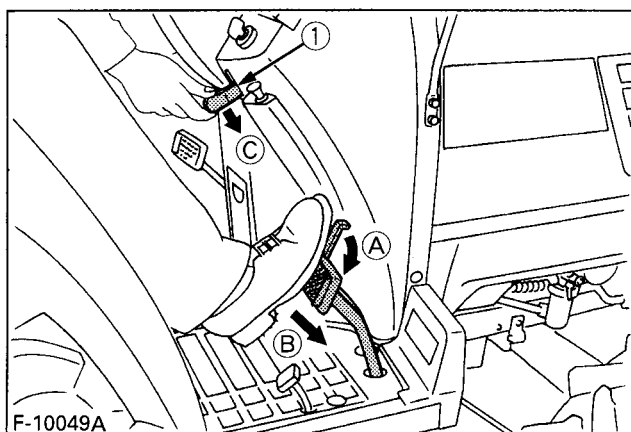
エンジンの始動と停止

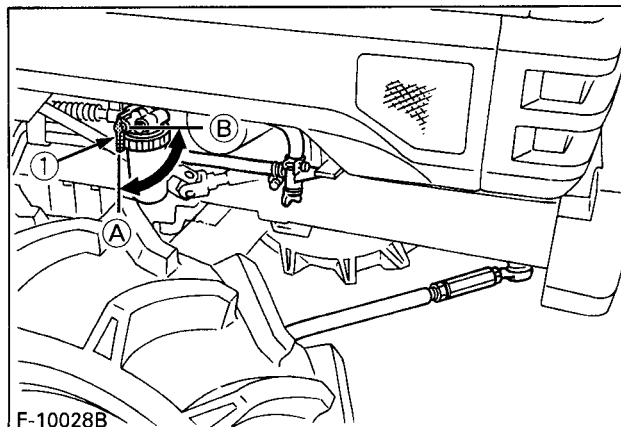
 警　告

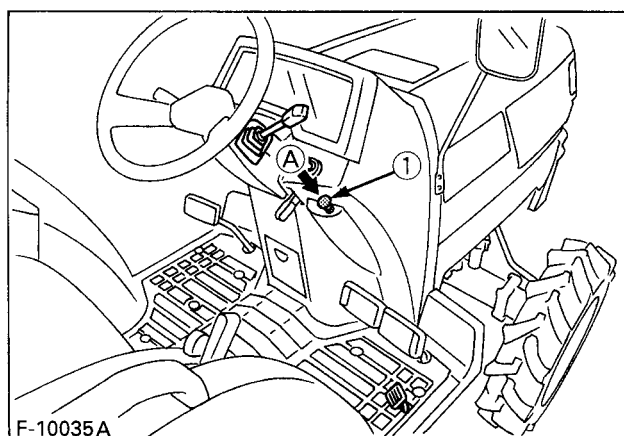
＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やPTO変速レバーが“中立”(N)かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

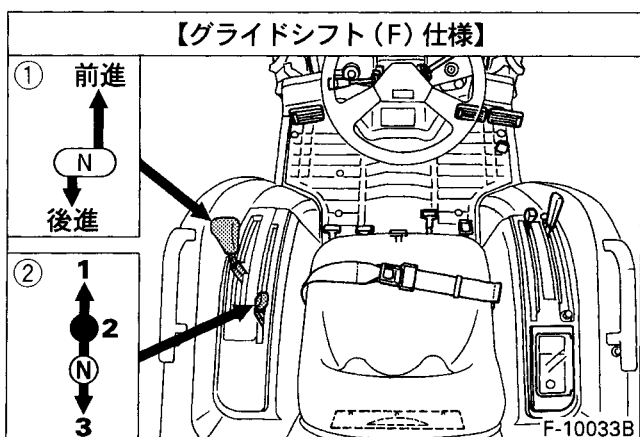
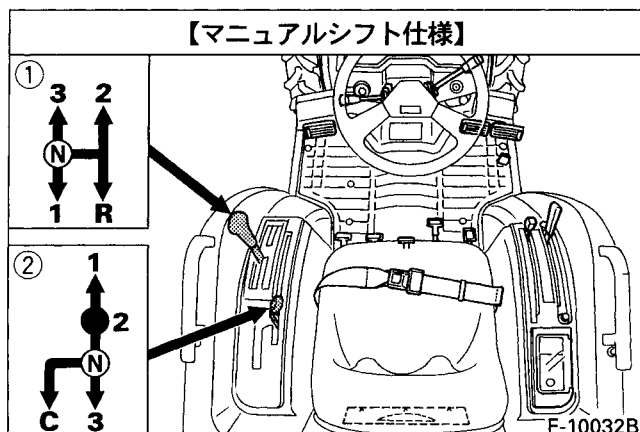
始動のしかた

1.駐車ブレーキをかけます。

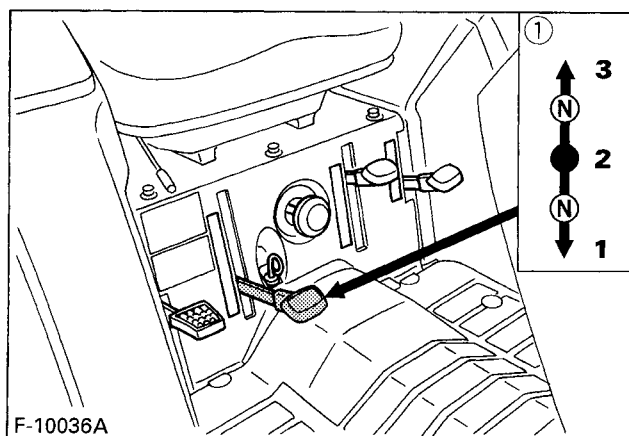
ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを“下げ”たまま足をはなすと駐車ブレーキが掛かります。

①駐車ブレーキレバー　Ⓐ“連結金具を掛ける”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“下げる”

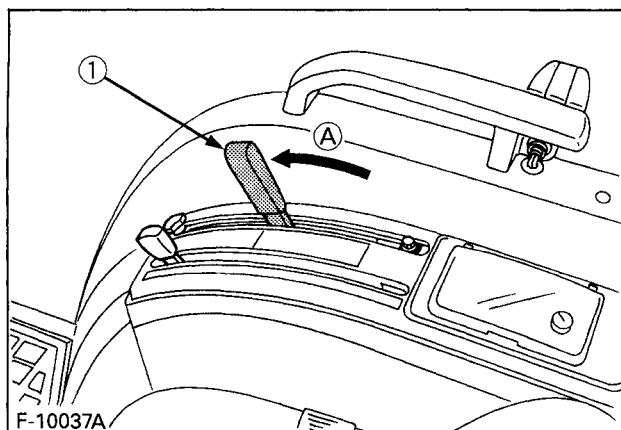
2.燃料フィルタコックを“開”にします。

①燃料フィルタコック　Ⓐ“開”
Ⓑ“閉”

3.エンジンストップノブが戻っているか確認します。

①エンジンストップノブ　Ⓐ“押込む”

4.主変速レバー，副変速レバー，PTO変速レバーを“中立”(N)にします。

①主変速レバー　　Ⓝ“中立”
②副変速レバー

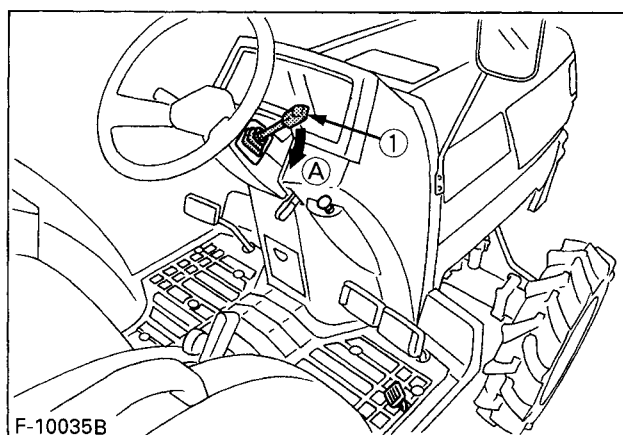
①PTO変速レバー

補　足

＊主変速レバー及びPTO変速レバーを**“中立”**(N)にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

5.油圧レバーを“前方に倒し”作業機を下げます。

①油圧レバー　　Ⓐ“下げる”

補　足

＊油圧ロックされている場合，作業機は下がりません。
〔詳細は**“油圧”**の項を参照〕

6.アクセルレバーを“中程”まで引きます。

①アクセルレバー　　Ⓐ“加速”

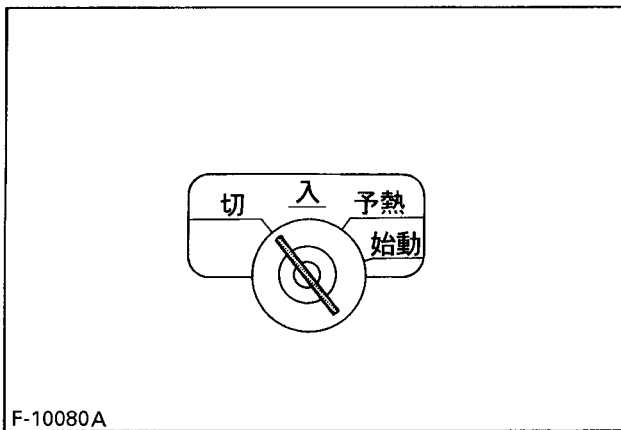
7.クラッチペダルを“踏込み”ます。

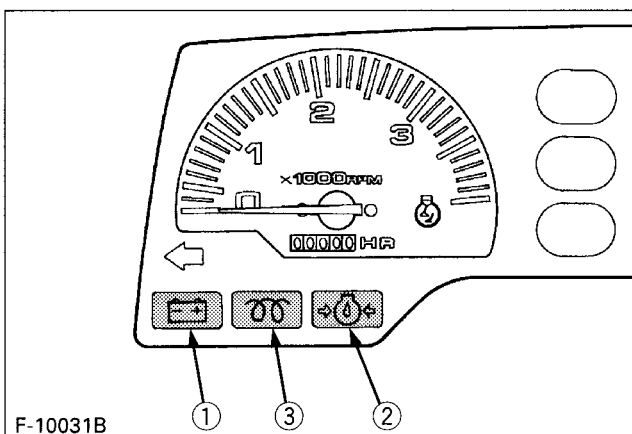
補　足

＊エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。

8.キースイッチにキーを差込み“入”位置にします。

■キースイッチ

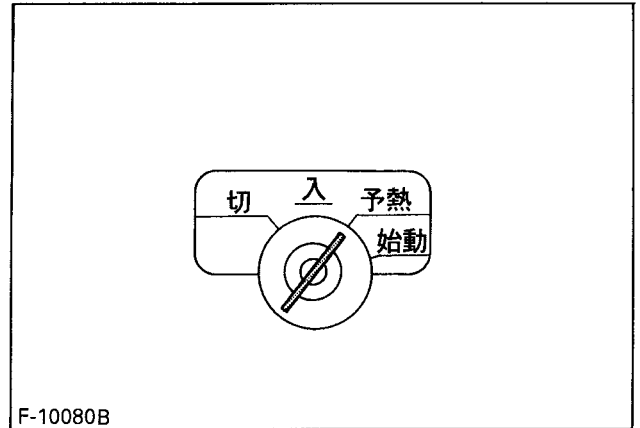
切 ……… エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。
入 ……… エンジン回転中の位置。
予熱 …… 燃焼室内を予熱する位置。
始動 …… エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に“入”に戻ります。

◆イージーチェッカランプ

キースイッチを“入”位置にすると，①②ランプが点灯します。

①バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
②エンジンオイルランプ（エンジン油圧警告灯）
③グローランプ

補　足

＊AD倍速やモンロ切換スイッチの位置により，上記以外のランプも点灯する場合があります。

9.キーを“予熱”位置に回します。

グローランプは一定時間で消灯しますが，極低温時には更に予熱位置で約5秒保持してください。
（予熱ランプに関係なく継続します。）

10.キーを“始動”位置に回します。

補　足

＊主変速レバー及びPTO変速レバーを“中立”(N)にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

重　要

＊セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

11.エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。

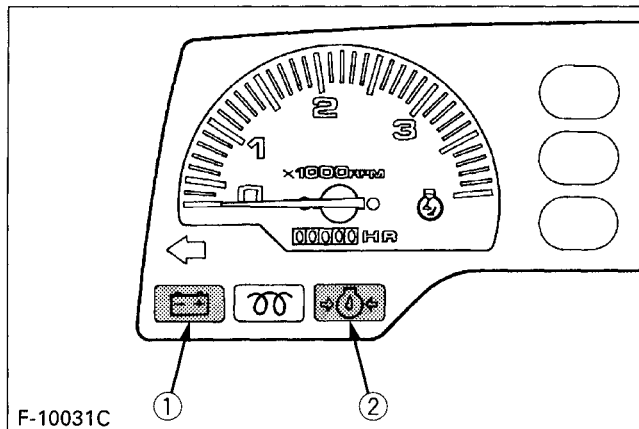
自動的に“入”にもどります。

重　要

＊エンジン回転中は，キーを“始動”位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

12.イージーチェッカランプが“消灯”したか確認します。

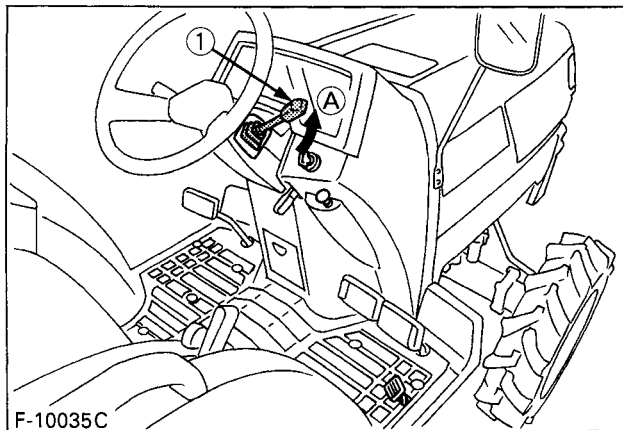
もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。

F-10031C

エンジン始動後消灯するランプ：①②

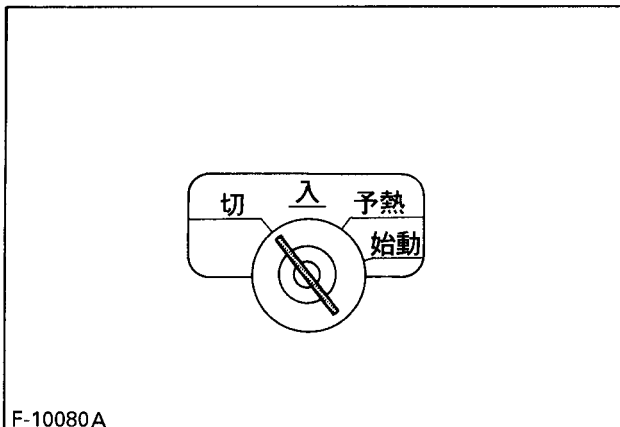
13.エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま5分程度暖機運転しましょう。

停止のしかた

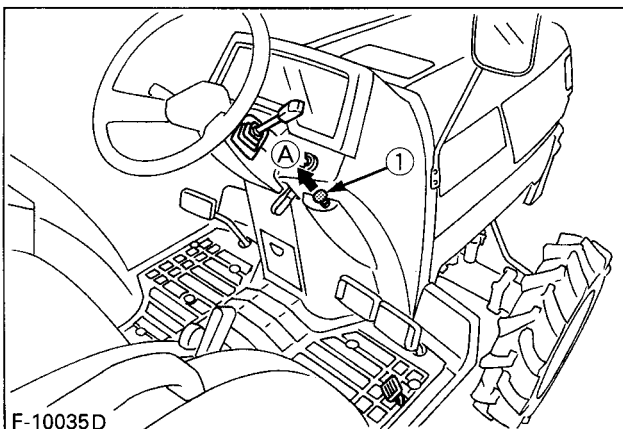
1.アクセルレバーをいっぱい前へ“押し”てアイドリング状態にします。

F-10035C

①アクセルレバー　Ⓐ“アイドリング”

2.キースイッチのキーを“切”の位置にすると，エンジンは停止します。

F-10080A

重　要

＊万一停止しないときは，エンジンストップノブをいっぱい引張ると止まります。

F-10035D

①エンジンストップノブ　Ⓐ“引張る”

補　足

＊エンジンストップノブは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では，エンジンは始動しません。
＊エンジンが停止して数秒後，カチッと音がしますが，これはエンジン停止装置が解除する音です。

3.キーは必ず“抜き”ましょう。

重　要

＊キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーは抜いてください。
＊バッテリプラスカットリレーは，キースイッチ**“切”**の位置で機能するため，トラクタの停止中は必ずキースイッチを**“切”**とし，キーを抜いてください。

暖機運転

注　意

＊換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

◆グライドシフト(F)仕様，S仕様

これらの仕様は，ミッション〔グライドシフト(F)仕様〕や，パワーステアリング〔S仕様〕を油圧で作動し，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しております。
そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

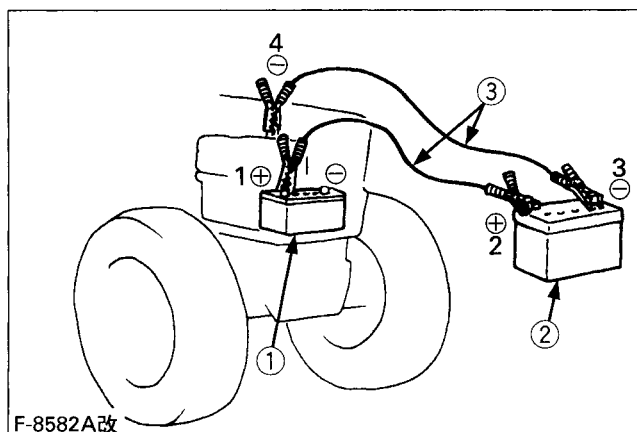
気　　温	暖機運転時間
０℃以上	約５分間
０℃以下	10分間以上

補　足

＊暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル(別売)があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

❶ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
　＊バッテリの⊕端子同士を接続します
　＊マイナスケーブルの他端[4]の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
　(マイナスケーブルの他端[4]を直接バッテリの⊖端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。)

①放電したトラクタバッテリ
②救援車バッテリ
③ブースタケーブル

❷救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
❸トラクタのエンジンを始動します。
　(始動手順は **“エンジンの始動と停止”** の項を参照)
❹ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

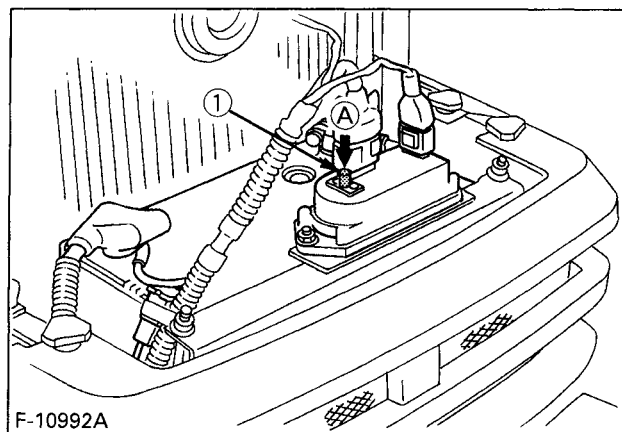
重　要

＊救援車は必ず12Vバッテリ車を使用してください。
＊ケーブル接続の際には，⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
＊ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。

バッテリプラスカットリレー

1. 格納時，配線のショートによる火災を防止する装置です。
2. キースイッチを **“入”** 位置にしても，イージーチェッカランプが全く点灯しないときは，プラスカットリレーがしゃ断されている場合があります。
〔リセット方法は **“トラクタの簡単な手入れと処置”** の章の **“必要に応じた点検・整備”** の **“プラスカットリレーのリセット方法”** の項を参照〕

重　要

＊バッテリの性能が低下した場合は，プラスカットリレーが作動し，エンジンが始動しない場合があります。このときは，バッテリの充電又は交換を行ない，リセットスイッチを押してください。
＊プラスカットリレーは，キースイッチ **“切”** の位置で機能するため，トラクタの停止中は必ずキースイッチを **“切”** とし，キーを抜いてください。

①リセットスイッチ　　Ⓐ “押す”

トラクタの運転

警 告

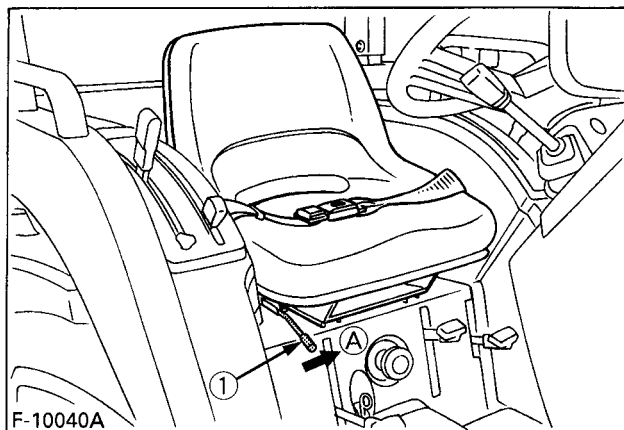
＊トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。また，安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。
ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

ならし運転(最初の約50時間)

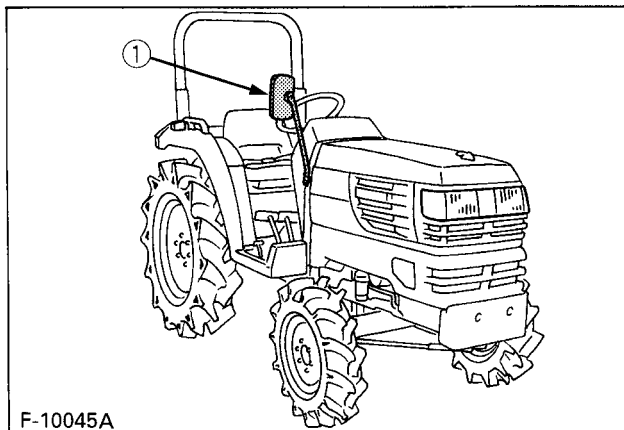
この期間中は，特に次のことを厳守してください。
1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50時間使用後，**“定期点検箇所一覧表”**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席回りの調節

■シート

1. 前後調節レバーでロックを**“解除”**すると，前後6段階に調節できます。

①前後調節レバー　　Ⓐ“ロック解除”

■バックミラー

後方視界が十分に確認できる位置に調節してください。

①バックミラー

■安全フレームとシートベルトについて

 警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

＊トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。

＊納屋の出入りなど，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，必ずシートベルトを着用してください。

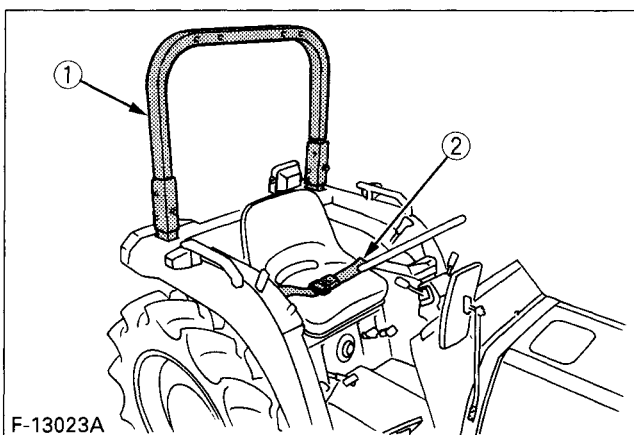
＊安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。

＊安全フレームの改造を絶対にしないでください。また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

＊安全フレームを立てたときは，左右のレバーを押し込んで確実に固定してください。また日常点検時，レバーにガタがないか確認してください。

＊安全フレームが確実に固定されているか確認してください。

＊シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

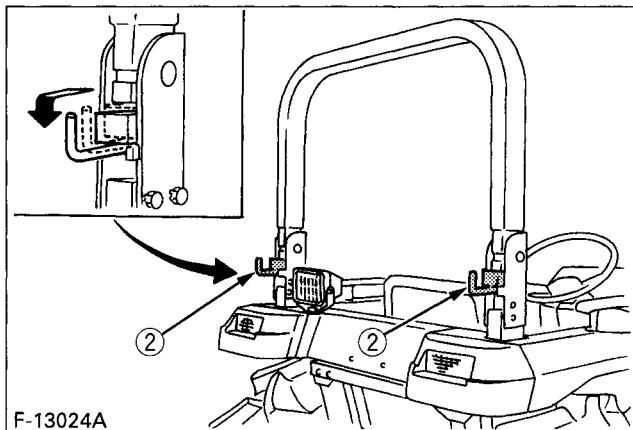
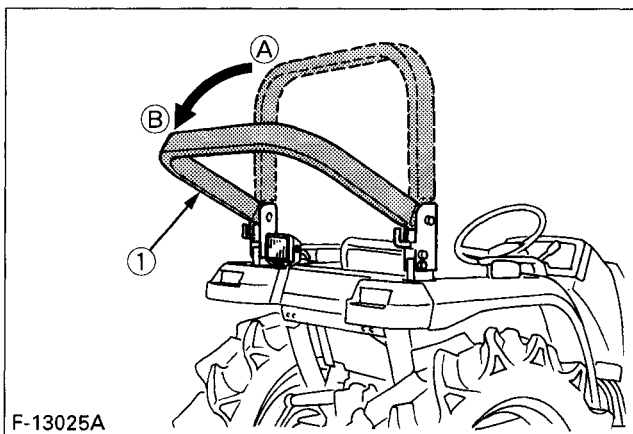
＊安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。

①安全フレーム
②シートベルト

◆折りたたみ方法

❶レバーを後方へ引き，そのまま少し下側に下げロックを解除します。(左右共)

❷次に，安全フレームをゆっくりと後方へ折りたたんでください。

補　足

＊安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。

①安全フレーム　　Ⓐ“固定位置”
②レバー　　　　　Ⓑ“折りたたみ位置”

◆起こす方法

❶安全フレームを前方へ動かなくなる位置まで完全に起こします。

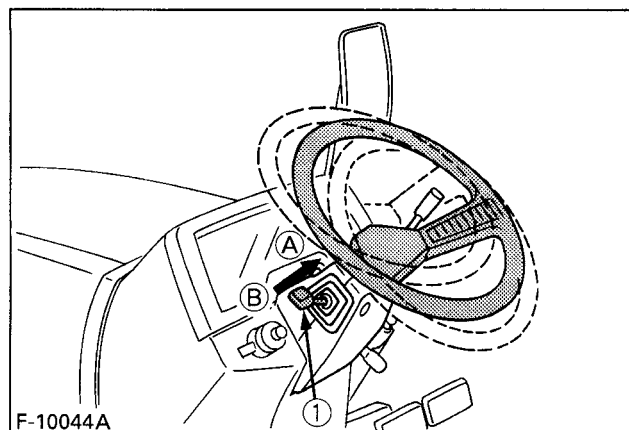
❷ロックレバーで安全フレームが確実にロックされているか(左右共)，また安全フレームにガタがないか確認してください。

■ステアリングハンドル

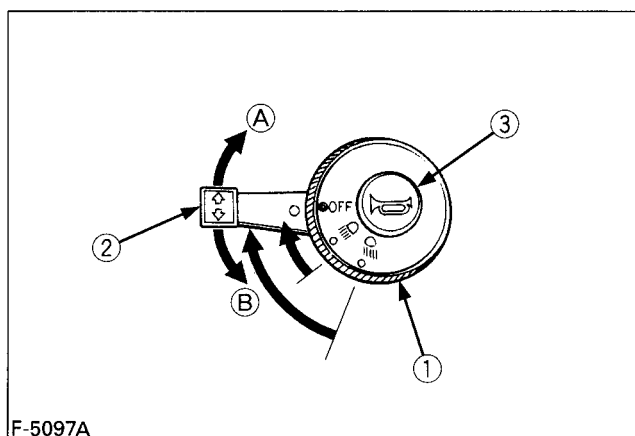
注　意

＊調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

＊走行中の調節はしないでください。

チルトレバーでロックを **"解除"** すれば，ステアリングハンドルが4段階の位置に調節できます。

①チルトレバー　Ⓐ"ロック解除"
Ⓑ"ロック"

灯火類の操作

■コンビネーションスイッチ

①ライティングスイッチ　Ⓐ"右点滅"
②ウインカスイッチ　Ⓑ"左点滅"
③ホーンボタン

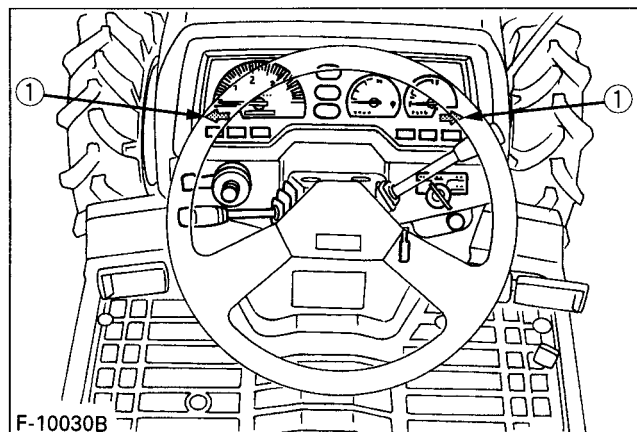
◆ライティングスイッチ

OFF……ヘッドランプ消灯位置。

≣D……ヘッドランプ上向き照射位置。

≣D……ヘッドランプ下向き照射位置。

◆ウインカスイッチ

1. スイッチを操作すると，ウインカランプ及びウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。

①ウインカパイロットランプ

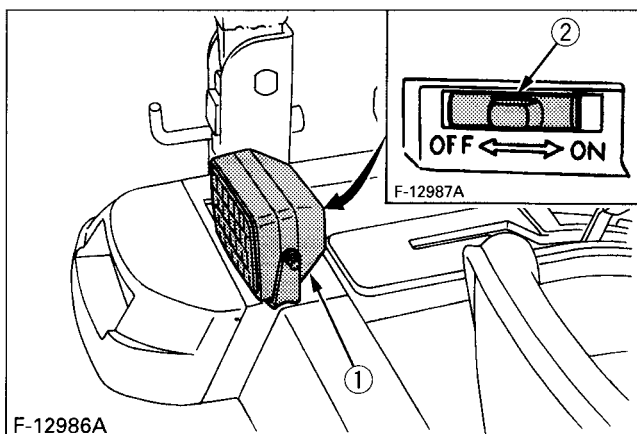
◆ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

■作業灯

キースイッチ **"入"** 位置にし，作業灯スイッチを左右方向にスライドさせることにより，スイッチが作動します。

"OFF"（左位置）………消灯

"ON"（右位置）…………点灯

①作業灯
②作業灯スイッチ

補　足

＊作業灯は **"道路運送車両の保安基準"** 第42条（灯火の色等の制限）において，**"走行中に使用しない灯火"** とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

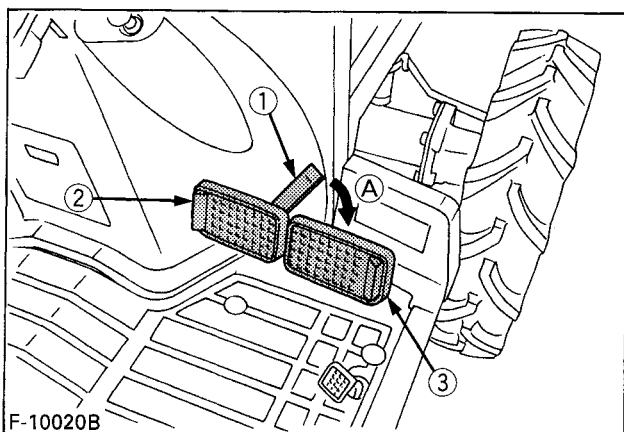
発進・走行

1.ブレーキペダルの確認

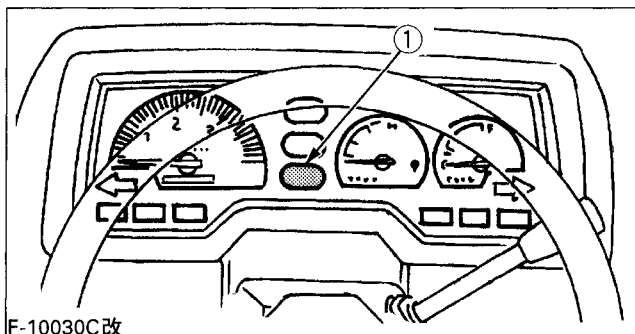
■ブレーキペダル

 警 告

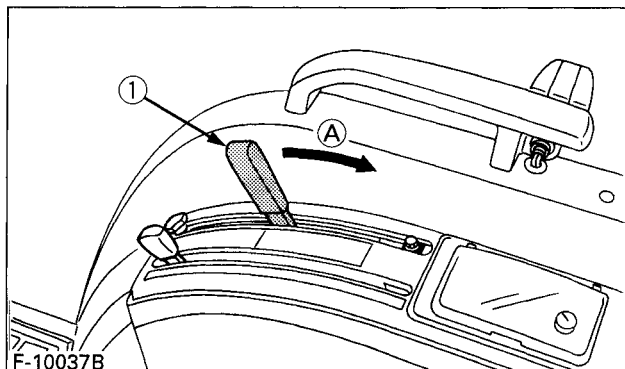
＊道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。
また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結金具をかけた状態………**道路走行時。**
連結金具を外した状態………**農作業時。**

①連結金具
②ブレーキペダル(左)
③ブレーキペダル(右)
Ⓐ“道路走行時は必ずかける”

◆ブレーキペダル連結解除ランプ

ブレーキペダル連結金具を外すとブレーキ連結解除ランプが点灯します。
道路走行時などでは連結金具をかけ，ブレーキ連結解除ランプの消灯を確認してから，走行してください。

①ブレーキペダル連結解除ランプ

2.油圧レバーを“後方に引き”作業機を上げます。

〔詳細は **“油圧”** の項を参照〕

①油圧レバー　Ⓐ“上げる”

3.クラッチペダルを踏込みます。

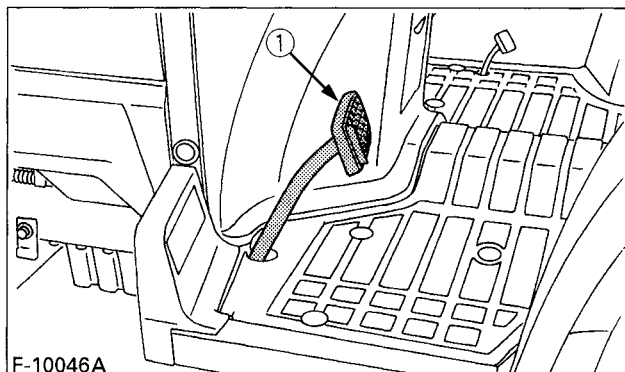
 注 意

＊急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。
ゆっくり行なってください。

■クラッチペダル

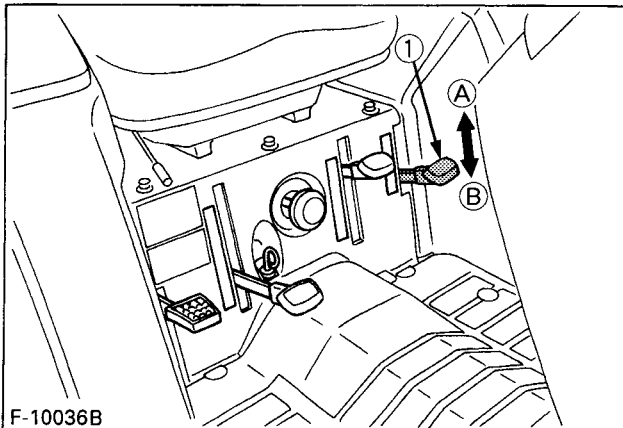
クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。
ペダルを踏込む…………クラッチが切れる。
ペダルから足を離す……クラッチがつながる。

補 足

＊下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。
・主変速レバー　**【マニュアルシフト仕様】**
・副変速レバー
・PTO変速レバー
・PTO正逆転切換レバー
・前輪駆動レバー

①クラッチペダル

4.作業に応じ必要なレバー，スイッチ類を操作します。

■前輪駆動レバー

前輪駆動を断続するレバーで，クラッチペダルを踏込み，
レバーを上げる……4輪駆動になります。
レバーを下げる……2輪駆動になります。

①前輪駆動レバー　Ⓐ“入”
Ⓑ“切”

重　要

＊前輪駆動レバーは，**“入”**か**“切”**位置にしてください。中間の位置で運転すると故障の原因になります。

◆前輪駆動の使いかた

注　意

＊前輪駆動を入れたままで，ほ場以外を走行すると危険です。走行前に必ず前輪駆動を“切”にしてください。

前輪駆動は，次のような場合にお使いください。

1. 傾斜地，湿田，トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. 固いほ場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

重　要

＊舗装道路や高速走行時の前輪駆動は避けてください。タイヤの摩耗を早めます。

■AD(オートディスクブレーキ)／倍速スイッチ

◆AD／倍速スイッチ【B仕様】

AD／倍速ターンを選択するスイッチです。
2輪駆動では倍速が作動しませんので，AD倍速使用時は必ず前輪駆動レバーを**“入”**にしてください。

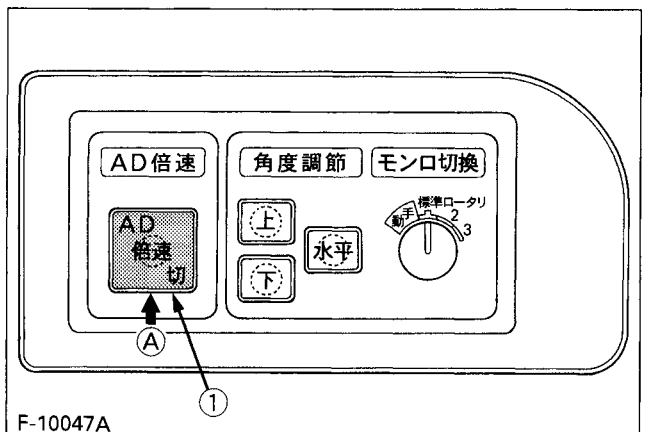
AD倍速スイッチを押すたびに，A→B→C→A…の順番で作動モードが変わります。

A．**“切”**モード

B．**“倍速”**モード　ランプ点灯
旋回時に倍速ターンが作動します。

C．**“AD倍速”**モード　AD ランプ点灯
ランプ点灯
旋回時に倍速ターンが作動すると同時にADが作動します。

①AD倍速スイッチ　Ⓐ“押す”

補　足

＊倍速は，危険防止のため，旋回開始時の車速が約5km/h以下のときのみ作動します。
＊AD倍速は，危険防止のため，旋回開始時の車速が約3.6km/h以下のときのみ作動します。

◆倍速スイッチ【ＥＢ仕様】

倍速ターンを選択するスイッチです。
２輪駆動では倍速が作動しませんので，倍速使用時は必ず前輪駆動レバーを“入”にしてください。

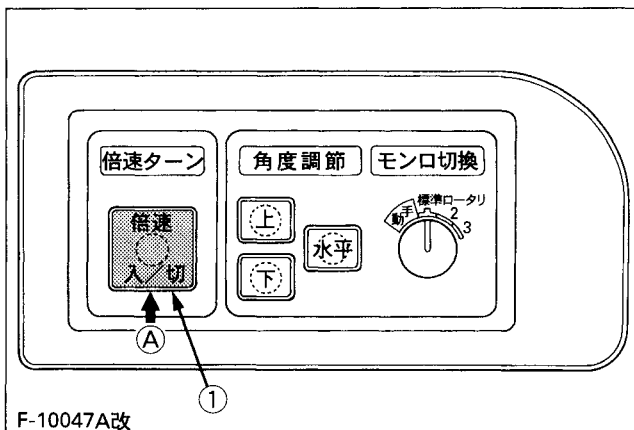
倍速スイッチを押すたびにＡ→Ｂ→Ａ…の順番で作動モードが変わります。

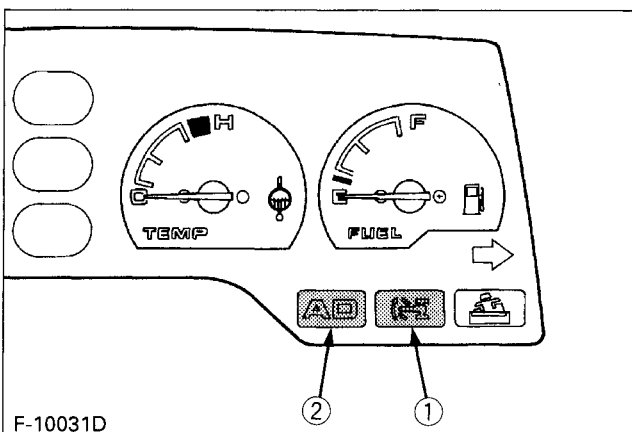
Ａ．**“切”**モード

Ｂ．**“倍速”**モード ランプ点灯

旋回時に倍速ターンが作動します。

①倍速スイッチ　Ⓐ“押す”

補　足

＊倍速は，危険防止のため，旋回開始時の車速が約５km/h以下のときのみ作動します。

◆AD／倍速ランプ

①倍速ターンランプ
②ADランプ

◆倍速／AD倍速の使い方

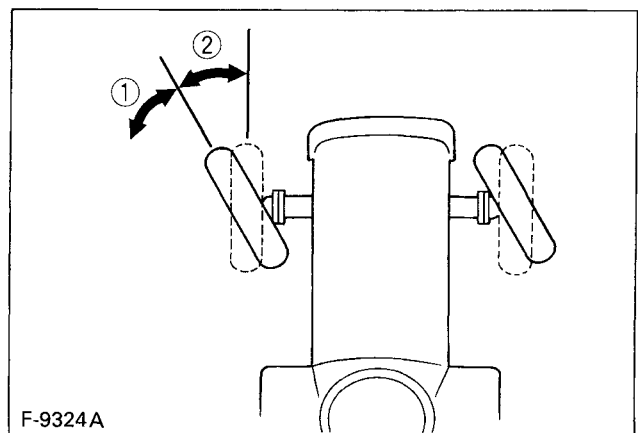
警　告

＊倍速やAD倍速に入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前にAD倍速スイッチでモードを“切”に切換えてください。
＊倍速やAD倍速は，畑，水田などのロータリ作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

1.“倍速”

倍速の作動は次のようになっています。
旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと，前輪の切れ角が，直進状態から約35度になるまでは，通常の４輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。更にステアリングハンドルを切り，約35度以上になると，倍速が作動し，前輪の回転数がそれまでの約２倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。

2.“AD倍速”

隣接耕うん作業をする場合に，枕地で軽く片ブレーキを踏み，旋回半径を小さくする操作が行なわれますが，AD倍速はこの操作を自動的に行なうものです。ADの作動は次のようになっています。
“AD倍速”モードで旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切って前輪の切れ角が約35度以上になると，ADが作動し，内側後輪に軽くブレーキがかかるとともに，倍速が作動し，前輪の回転数がそれまでの約２倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。なお，ADは，２輪駆動時にも作動しますが，４輪駆動時に使用すると最も効果を発揮します。

①倍速／AD倍速作動
②通常の４輪駆動(約35度)

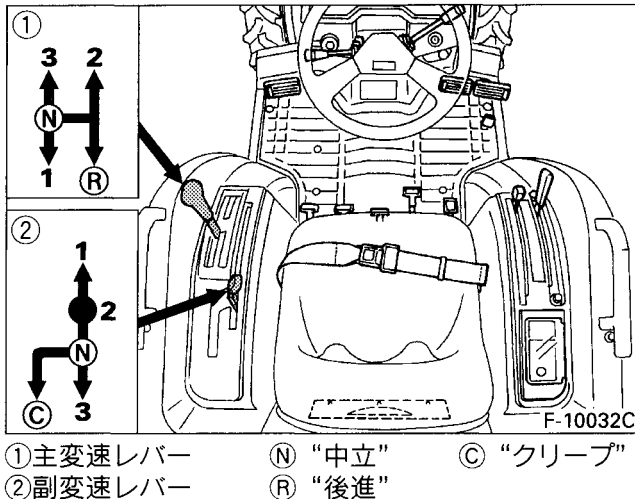
重　要

＊フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

以下，仕様により操作が異なります。

マニュアルシフト仕様

5 .走行速度を選択します。

①主変速レバー　Ⓝ“中立”　Ⓒ“クリープ”
②副変速レバー　Ⓡ“後進”

２本のレバー操作を組合せることにより前進12段，後進４段の車速が得られます。

重　要

＊操作はクラッチを切り，トラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

■主変速レバー

レバー１本で前進３段，後進１段の車速が選択できます。

■副変速レバー

“１”位置で低速，“２”位置で中速，“３”位置で高速が得られます。**“C”**位置ではクリープ速度(超低速)が得られます。

◆クリープの使い方

クリープ速度は，使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。

1. 使用できる作業
   ＊ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
   ＊ロータリで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
   ＊プランタによる移植作業。
   ＊農業用トレンチャによる作業(農業用に限る)。
   ＊車への積み・降ろしをするとき。
2. 使用できない作業(故障の原因になります)
   ＊湿田での沈没状態から脱出する作業。
   ＊けん引・トレーラ作業。
   ＊フロントローダ作業。
   ＊フロントブレード作業(除雪作業)。
   ＊土木作業。
   ＊ほ場への出入り。
3. クリープ速度を使用するときは，必ず次のことを守ってください。
   ＊変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
   ＊発進は，必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
   ＊クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
   停止は，必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

重　要

＊クリープ速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。
＊クリープ速度では，けん引作業をしないでください。超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。

補　足

＊副変速レバーをクリープ位置へ変速時，レバー操作が重くなるときがあります。そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度レバーを操作してください。
＊また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったん主変速レバーを**“中立”**(N)にしてから操作してください。

6．エンジンを加速します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆アクセルレバー

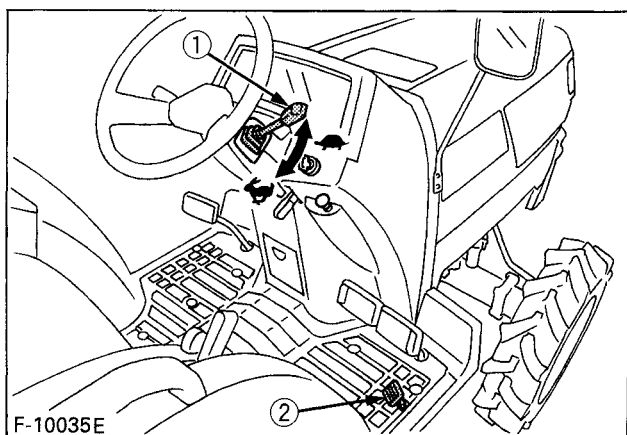
主に農作業時に使用します。

……レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。

……レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

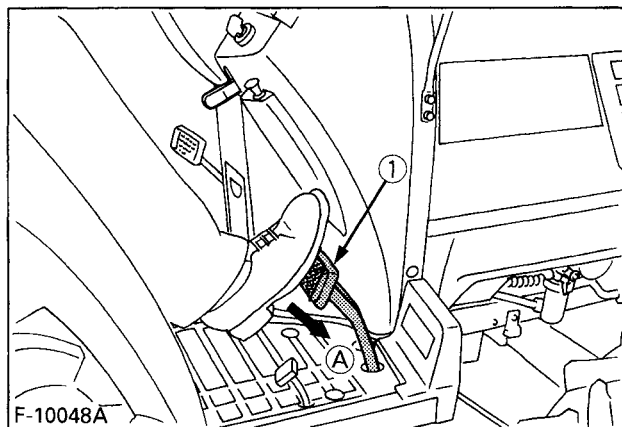
◆アクセルペダル

主に道路走行時に使用します。

ペダルを踏込む…………エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離す……アクセルレバーで設定しているエンジン回転まで下がる。

①アクセルレバー　　　"低速"
②アクセルペダル　　　"高速"

7．駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを **"踏込む"** と駐車ブレーキが解除されます。

①ブレーキペダル　　Ⓐ"踏込む"

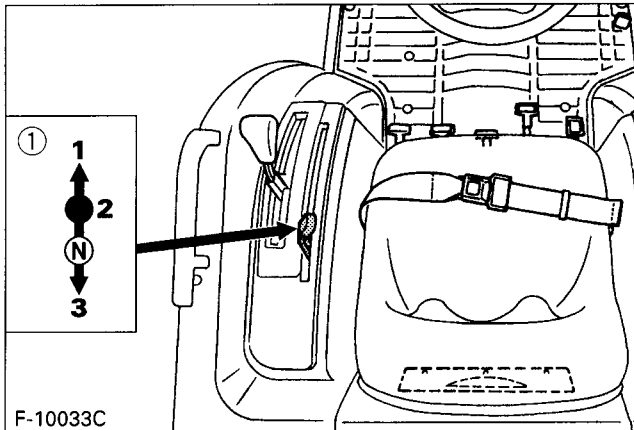
8．クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

重　要

＊クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。

- 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
- 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
- クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

グライドシフト(F)仕様

5.副変速レバーを“1，2”又は“3”に入れます。

①副変速レバー

■副変速レバー

“1”位置で低速，“2”位置では中速，“3”位置で高速が得られます。

重　要

＊副変速レバーの切換えは，走行中に変速することはできません。必ず主変速(グライドシフト)レバーを**“中立”**(N)の位置にし，トラクタを停止させてから行なってください。

＊副変速レバーの切換えはトラクタを停止させ，クラッチペダルを踏込んでから行なってください。

＊副変速レバーの操作時，レバーが入りにくくなるときがあります。そのときは，そのままグライドシフトレバーを少し動かしてから**“中立”**(N)に戻し，再度クラッチペダルを踏込み副変速レバーを操作してください。

6.エンジンを加速します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆アクセルレバー

主に農作業時に使用します。

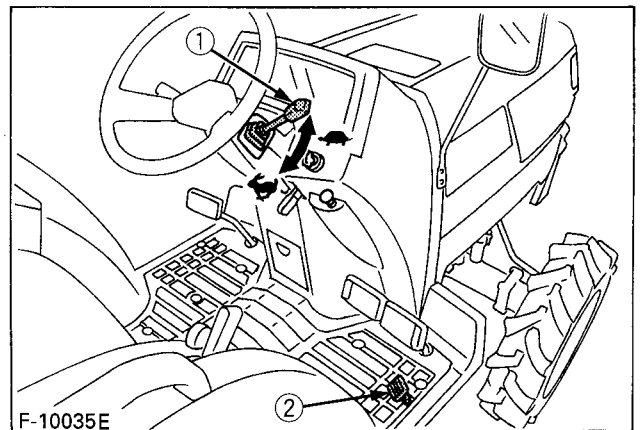
……レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。

……レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

◆アクセルペダル

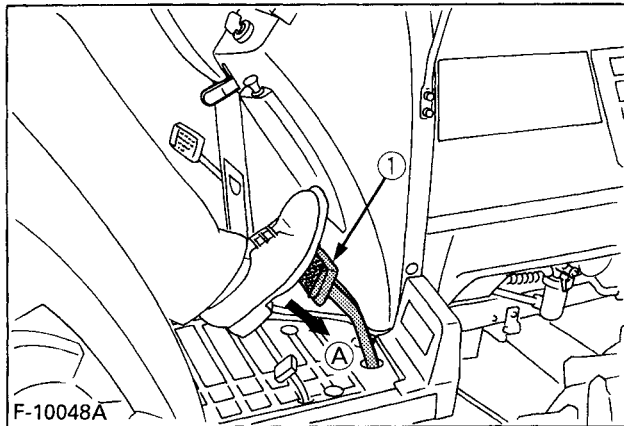
主に道路走行時に使用します。

ペダルを踏込む…………エンジン回転が上がる。

ペダルから足を離す……アクセルレバーで設定しているエンジン回転まで下がる。

①アクセルレバー　　“低速”
②アクセルペダル　　“高速”

7.駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ

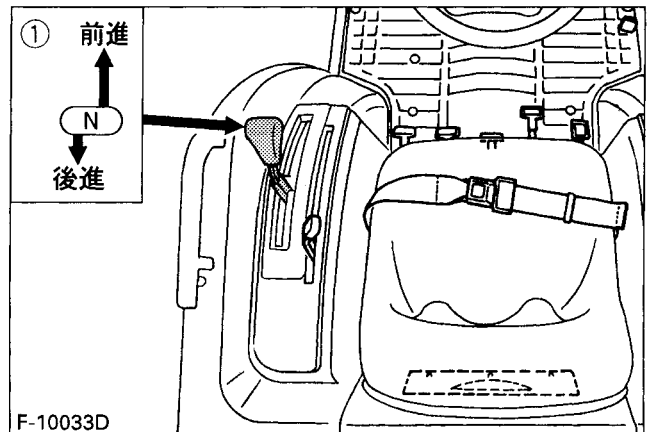
ブレーキペダルを **"踏込む"** と駐車ブレーキが解除されます。

①ブレーキペダル　　Ⓐ"踏込む"

8 .クラッチペダルをゆっくり離します。

重 要

＊クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。

- 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
- 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
- クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

9.主変速(グライドシフト)レバーをゆっくり操作し発進します。

①主変速(グライドシフト)レバー

■主変速レバー

 注 意

＊安全のため，主変速(グライドシフト)レバーの急激な変速は避けてください。また，前後進の切換えはレバーを"中立"(N)の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

前進と後進の車速が無段階で選択できます。レバーを前に押して **"前進"**，手前(後)に引いて **"後進"** です。発進及び走行中にクラッチペダルを踏まずに(ノークラッチ)，変速することができます。

補 足

＊主変速(グライドシフト)レバーは任意の位置に保持できます。ただし，急ブレーキ，トレーラ作業での急発進，フロントローダ作業でのシャクリ掘削，湿田沈没状態からの脱出時などに過負荷がかかった場合には減速側に戻ることがあります。これは機械を保護し，安全に作業するためのもので，構造上問題はありません。

停車・駐車

 警 告

＊グライドシフト(F)仕様は油圧ミッションのため，変速ギヤーを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキをかけてください。

 注 意

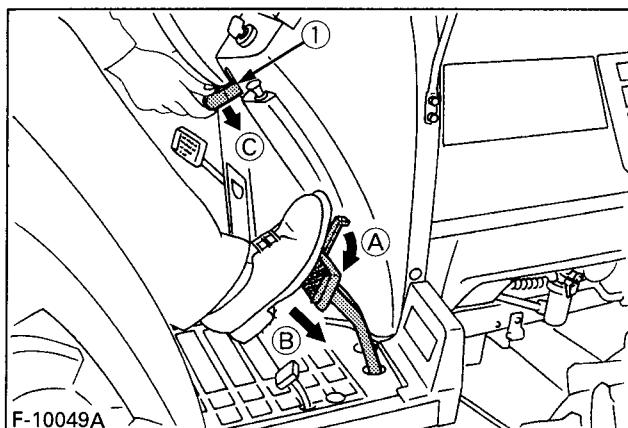
＊駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，各変速レバー（主変速・副変速・PTO）を"中立"(N)，作業機を"下げ"，駐車ブレーキを"掛け"，エンジンを"停止"してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。
＊格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。
＊停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火するおそれがあります。
＊トラクタから降りるときは，ロータリなどのPTO作業機が完全に止まるまで待ってください。

1 .アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。

2 .クラッチ及びブレーキペダルを"踏込み"ます。

3 .完全に停止してから，主変速，副変速及びPTO 変速レバーを"中立"(N)にします。

4 .作業機を取付けている場合は，油圧レバー(ポジションコントロール)をゆっくり"前方に倒し"作業機を下げます。

5 .駐車ブレーキを確実に"ロック"してください。

①駐車ブレーキレバー　Ⓐ"連結金具をかける"
Ⓑ"踏込む"
Ⓒ"下げる"

6 .キースイッチを"切"にして，エンジンを停止します。

運転中の作動確認

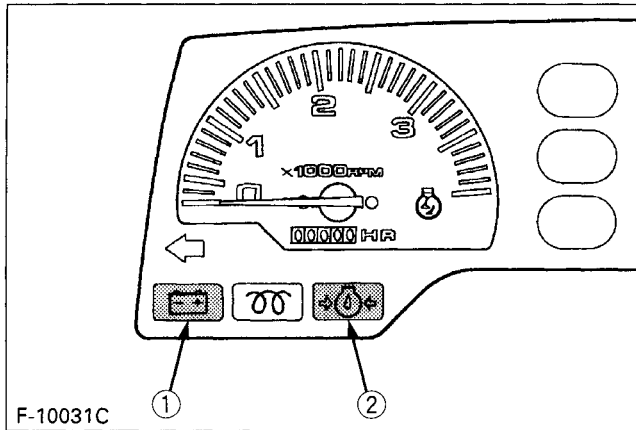
トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

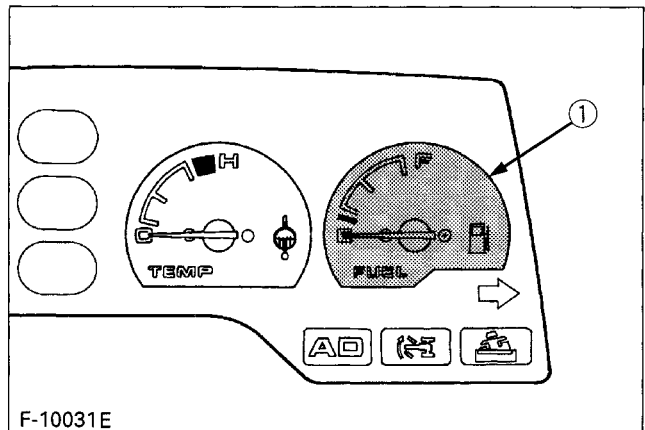
運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。

① バッテリチャージランプ
(バッテリ充電警告灯)
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
キースイッチを **"入"** にすると点灯し，始動すると消灯します。

② エンジンオイルランプ
(エンジン油圧警告灯)
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。キースイッチを **"入"** にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

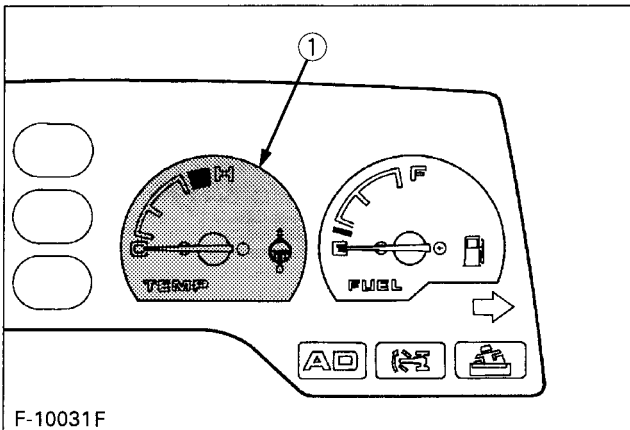
■燃料計

指針が **"E"** に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
〔**"必要に応じた点検・整備"** の **"燃料の空気抜きのしかた"** の項を参照〕

①燃料計

■水温計

 注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が **"H"** (レッドゾーン)を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。

①水温計

◆オーバヒートしたときの処置

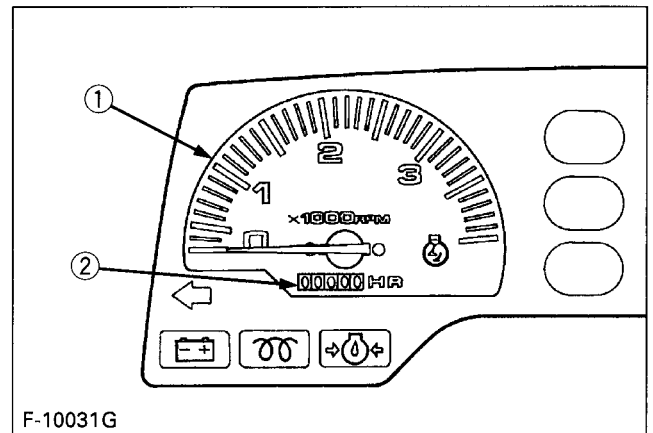
オーバヒート(水温計の針が **"H"** にあるとき)したときは，

❶作業を中止し，
❷エンジンを約5分間アイドリング回転してから，
❸エンジンを停止し，停止後30分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。

1. リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量(不足)，及び水もれがないか。
2. 防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
3. ファンベルトのゆるみがないか。

重 要

＊リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，上記 **"◆オーバヒートしたときの処置"** を行なってください。

■トラクタメータ

①エンジン回転計
②積算時間計

◆積算時間計

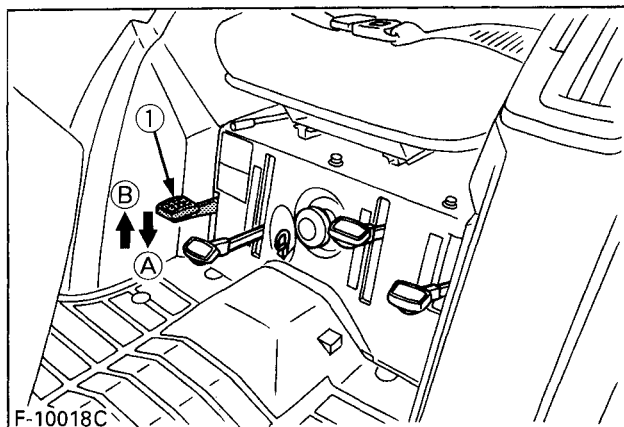
積算時間計は5桁になっており，初めの4桁は時間，最後の1桁は1/10時間(6倍すると **"分"** 単位)を示します。

◆エンジン回転計

1分間のエンジン回転速度を示します。

デフロックの使い方

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。
ペダルを踏込む………ロックされる。
ペダルから足を離す…自動的に外れる。

①デフロックペダル　Ⓐ踏む“ロック”
Ⓑ離す“解除”

◆デフロックの使い方

＊デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。
1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

旋回のしかた

＊高速で回ると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと回ってください。

坂道での運転

＊ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊坂道では主変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
＊急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。
＊グライドシフト(F)仕様は，油圧ミッションのため，標準仕様よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速(グライドシフト)レバーで減速してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

ほ場への出入り時の注意

警　告

＊左右のブレーキペダルは，必ず“連結”しておいてください。
＊ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
＊ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。
＊グライドシフト(F)仕様は，油圧ミッションのため，標準仕様よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速(グライドシフト)レバーで減速してください。

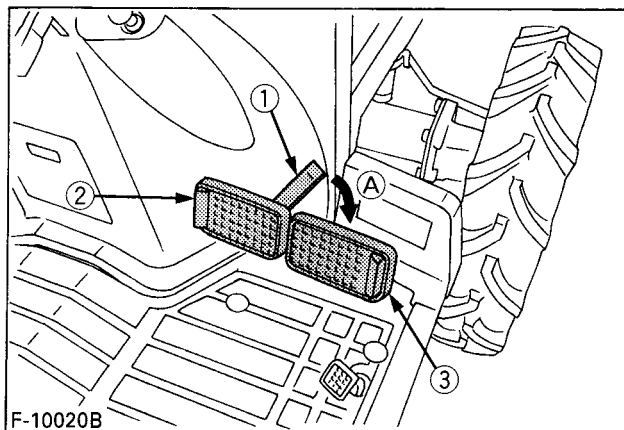
注　意

＊AD倍速スイッチは“切”にしてください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

道路走行中の注意

警　告

＊道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。

①連結金具
②ブレーキペダル(左)
③ブレーキペダル(右)
Ⓐ“道路走行時は必ずかける”

注　意

＊道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
【道路運送車両法の保安基準】
（作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。）
＊道路走行時にはモンロー切換スイッチを必ず“手動”にして走行してください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ヘッドランプを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
3. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

補 足

＊作業灯は **“道路運送車両の保安基準”** 第42条(灯火の色等の制限)において，**“走行中に使用しない灯火”** とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

トラックへの積み・降ろし

 注 意

＊アユミ板は，十分な強度・幅・長さ(傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを **“連結”** しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

パワーステアリングの取扱い【S仕様】

 注 意

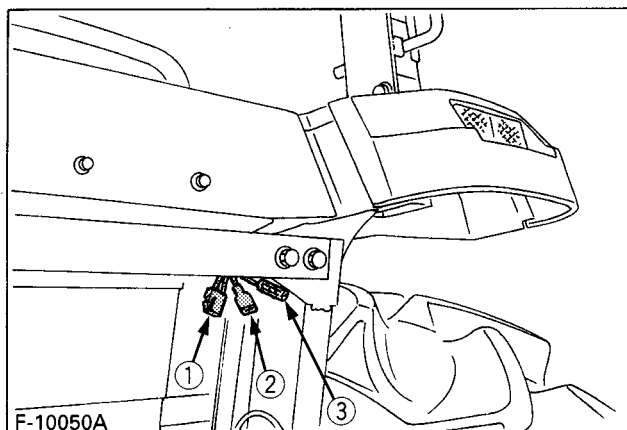
＊パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作は大変軽くなりますので，道路走行は慎重に行なってください。

重 要

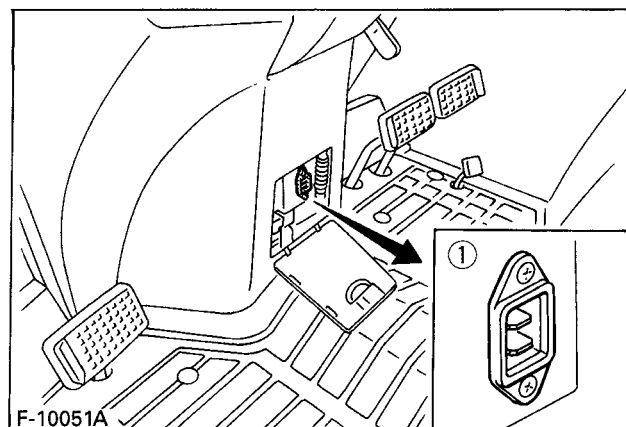
＊パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。
ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。
なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音(リリーフ音)が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)
また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

外部電源取出端子

■作業灯用カプラ，トレーラ尾灯用カプラ，予備電源カプラ

作業灯，トレーラ尾灯などを使用するときは，センタフレーム後部に接続カプラがあります。

①予備電源カプラ
②作業灯用カプラ
③トレーラ尾灯用カプラ

■燃料給油ポンプ専用電源コンセント

燃料給油ポンプ(オプション)を使用するときは，専用電源コンセントがあります。

①燃料給油ポンプ専用電源コンセント

重　要

＊予備電源と給油ポンプ電源は同時には使用できません。ヒューズ切れの原因となります。

油圧・三点リンク・ＰＴＯ

油圧

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■油圧(ポジションコントロール)レバー

油圧レバーは，油圧によって作業機を上下させる装置で，

レバーを後方に引く……作業機が上昇する。

レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に作動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。

①油圧レバー
②レバーストッパ
Ⓐ“上がる”
Ⓑ“下がる”
Ⓒポジション範囲
Ⓓフローティング範囲

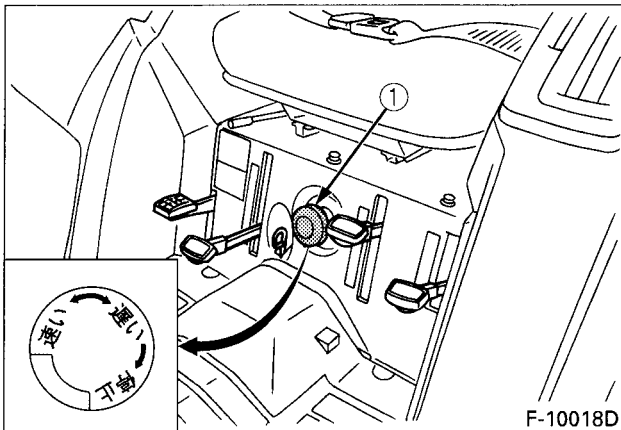
■レバーストッパの使い方

❶油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
❷その位置にレバーストッパを固定します。
❸その後は，油圧レバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

■作業機落下速度の調整

 注　意

＊ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下調整グリップで，作業機が落下しないようにロックしてください。
落下調整グリップでロックした後，油圧レバーを前方に倒して，作業機が落下しないことを必ず確認してください。

落下調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。

①落下調整グリップ

"速い" 方向に回す：
油圧回路が開き，作業機の落下速度が早くなります。

"遅い" 方向に回す：
油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。

"停止" 方向に軽く締込むと，油圧がロック(停止)します。

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。
特にオート耕うん時，落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重　要

＊グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。

◆油圧ロックの取扱い

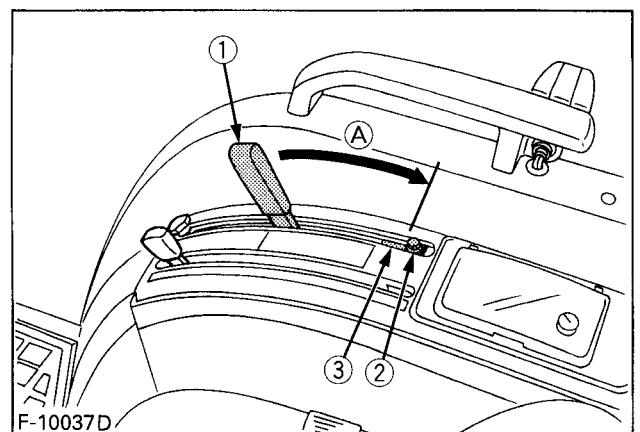
1. トラクタの格納は，作業機を降ろした状態にして保管してください。
作業機を上げた状態で長時間保管しますと，油圧ロックしていても下降することがあります。
2. 作業機を上げた状態で保管する場合は，次の要領で行なってください。
❶エンジンをかけた状態で落下調整グリップを油圧がロックする側に回して，軽く締込んでください。
❷油圧レバーを前方に倒して，作業機が下がらないことを確認してから，再度油圧レバーを上げておいてください。
❸エンジンを停止してください。

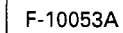
■油圧取出し

ダンプトレーラ等(単動式油圧作業機)の油圧を取出すときに使用します。

◆操作方法

❶ボルトをゆるめ，レバーストッパを後方へ移動します。
❷作業機側へ油を送りたいときは，油圧レバーを上げます。また，逆に油を戻したいときは，油圧レバーを下げます。
〔油圧ホースの接続や詳細な取扱い方法は，購入先にご相談ください。〕

①油圧レバー　　Ⓐ "上げる"
②ボルト
③レバーストッパ

重　要

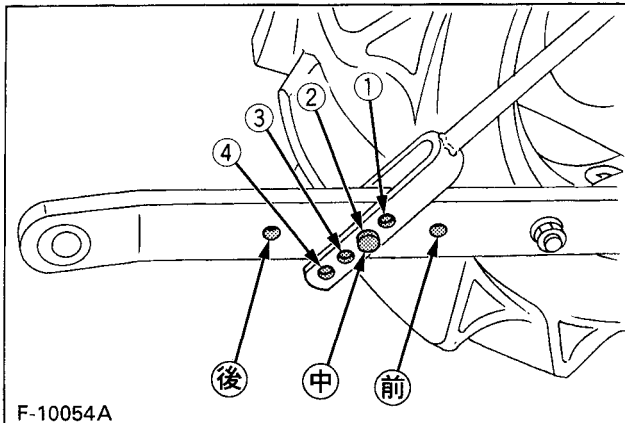
＊作業機側へ油を送った後は，必ず油圧レバーを下げてください。最上昇位置で保持すると油圧関係の故障原因となります。
＊油圧取出しを使用しないときは，必ずレバーストッパを元の位置に戻してください。油圧関係の故障原因になります。

三点リンク

①トップリンクブラケット
②リフトロッド左
③チェックチェーン
④ターンバックル
⑤ロアーリンク
⑥トップリンク
⑦リフトシリンダ（リフトロッド右）
⑧ドローバ(オプション)

1. 三点リンクは，JIS 1 形です。
2. 三点リンク用作業機を装着するときは，必要に応じて後輪輪距を広げてください。〔詳細は **“輪距の調整”** の項を参照〕

1.インプルメント取付け前の準備

■ロアーリンク取付け穴の選択

1. 特殊三点リンクロータリを使うときは，下表の取付け穴を使ってください。
2. 一般作業機を使うときは，作業機の説明書に従ってください。
3. 播種機を使うときは，ロアーリンクの**“後穴”**を使ってください。

◆特殊三点リンクロータリ装着時の取付穴

型　式	ロアーリンク穴	リフトロッド穴
T200(J) T220(J) T240	㊥	①
T240J	㊥	②

2.作業機の着脱

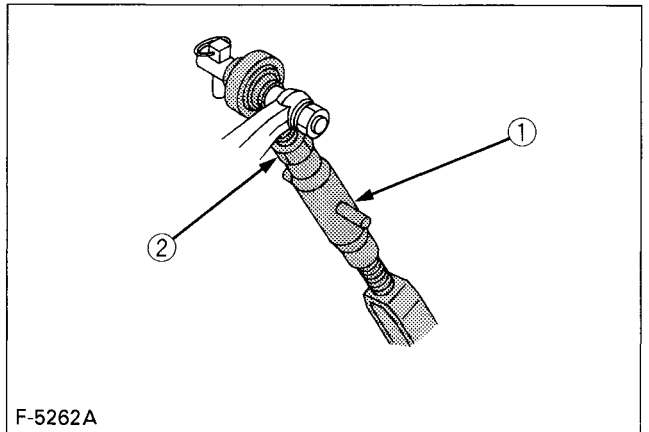
警　告

＊作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどのPTO作業機は完全に止まるまで待ってください。
＊駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。
＊作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。
＊作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

■トップリンクの調整

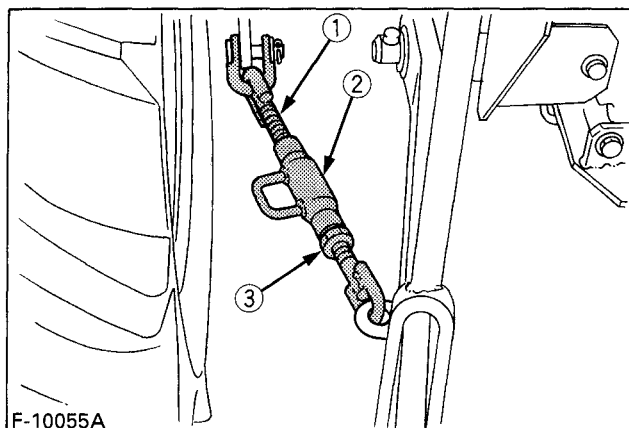
1. 伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
2. トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。
3. 調整後はロックナットでロックしてください。

■リフトロッドの調整

リフトロッド右を操作して，作業機の傾きを調整してください。
〔**M・MA仕様**の調整方法は**“モンローマチックの取扱い”**の項を参照〕

①リフトロッド右
②ナット

■チェックチェーン

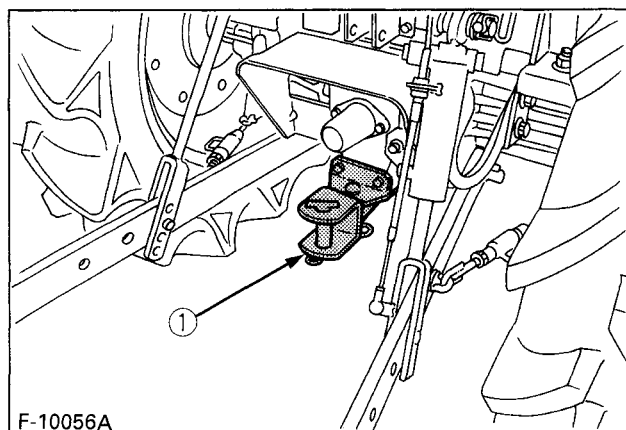
ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はロックナットで，ターンバックルを固定してください。

作　業　機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー， サブソイラ， ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に 5～6cm動く程度
ロータリ，モアー， ヘイレーキ，テッダ， リッジャ，カルチベータ	軽く締める

①チェックチェーン
②ターンバックル
③ロックナット

けん引ヒッチ（別売）

警　告

＊けん引作業をするときは，けん引ヒッチ(別売)を必ず使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。
転倒事故を引起こすおそれがあります。
＊三点リンクに取付け，PTO軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント(ロータリ，ブロードキャスタなど)を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。
そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し，事故を起こすおそれがあります。

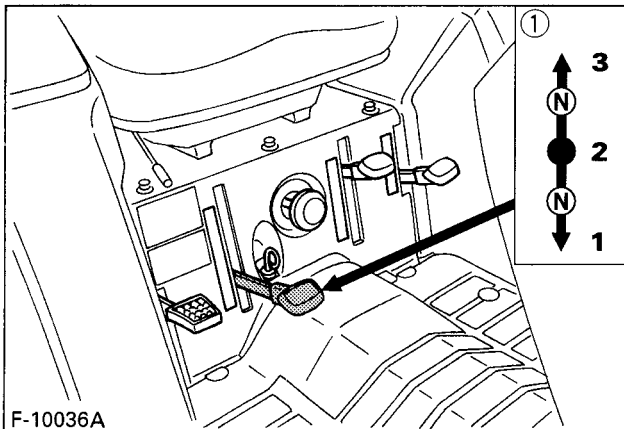
けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。

①けん引ヒッチ

PTO

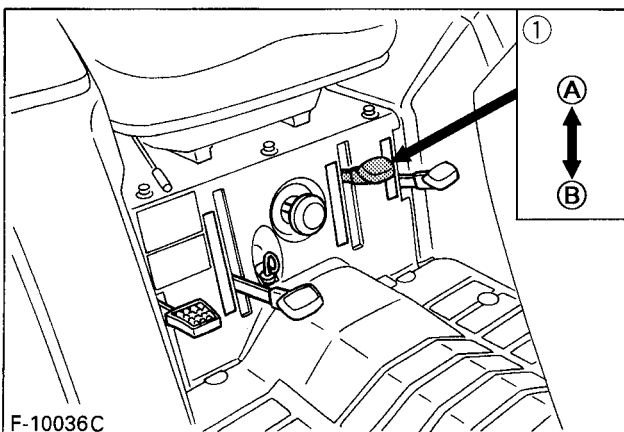
■PTO変速レバー

 注 意

＊作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。
低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用すると非常に危険です。

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度は，レバー操作により３段階に変速できます。
変速操作時は，必ずクラッチを切ってから行なってください。

①PTO変速レバー

■正逆転切換レバー【E仕様以外】

PTO軸(動力取出し軸)の回転方向を，レバー操作により正転⟺逆転に切換えできます。
変速操作時は，必ずクラッチを切ってから行なってください。

①正逆転切換レバー　　Ⓐ“正転”
　　　　　　　　　　Ⓑ“逆転”

◆PTO“逆転”の使い方

1. 使用できる作業機
   ＊メーカ指定のロータリに限ります。

   重 要

   ＊メーカ指定以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。

2. 使用できる作業とPTO速度段
   - 土寄せ作業……………………………PTO１速
   - 草やワラなどの巻きつきをほぐすとき……………PTO１～３速

   補 足

   - 土寄せ作業は，エンジン回転数1500rpm位で作業すると，泥飛びも少なく効果があります。

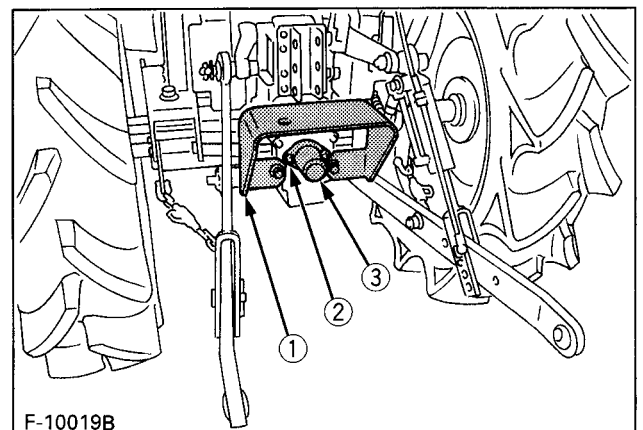
3. 使用できない作業
   - 逆転耕うん作業
   - 未耕地や石の多いほ場での土寄せ作業
   - ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

重 要

＊逆転耕うんでは，PTO“2”“3”を使用しないでください。
ロータリの故障の原因になります。

■PTO軸カバー，PTO軸キャップ

 注 意

＊PTO軸を使わないときは，PTO軸にグリースを塗布した後，PTO軸キャップを取付けておいてください。
そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起すおそれがあります。
＊PTO軸キャップを使用しないときは，PTO軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。
＊PTO軸カバーは常に取付けておいてください。
＊PTO軸カバーの上に乗らないでください。

①PTO軸カバー
②ボルト
③PTO軸キャップ

モンローマチック【M仕様】
モンローマチックオート【MA仕様】の取扱い

モンローマチックは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。
正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

スイッチの名称

重 要

＊スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

①モンロ切換スイッチ
②角度調節スイッチ

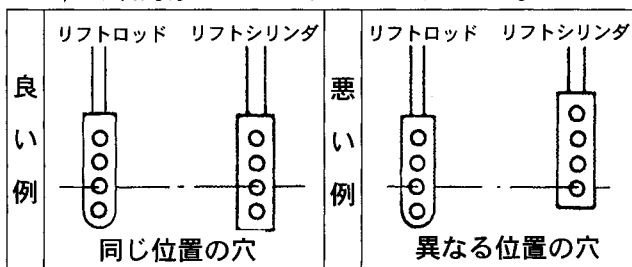
モンローマチックの使い方

■モンロ切換スイッチ

 注 意

＊ほ場以外では必ず“手動”にして走行してください。

補 足

＊リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対象になるようにしてください。

＊チェックチェーンを張りすぎると，モンローマチックでの作業時に三点リンクに無理な力がかかりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。但し，ロックナットはしっかり締めてください。

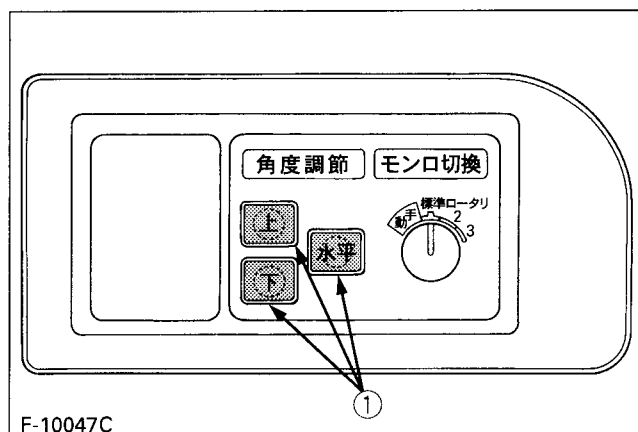
“標準ロータリ”“2”“3”の切換えは，作業機によって定まる三点リンクの取付け状態（ロアーリンク幅及びロアーリンク穴）に応じて選択してください。

モンロ切換スイッチ		ロアーリンク幅	リフトロッド穴位置	ロアーリンク穴位置	作業機例
自動	標準ロータリ	広 (718mm)	①	中	Aフレーム付 ロータリ 代かきハロー
			④	後	播種機
	2	広 (718mm)	―	前	プラウ，ロータリ等 標準3P作業機
	3	狭 (600mm)	―	前	プラウ，ロータリ等 標準3P作業機
手動	手動	モンローマチックの自動制御が解除され，**“手動”**になります。 作業機を常にトラクタに対して平行又は一定角度傾けた状態を保ちたいとき使用します。			

リフトロッド穴
① ② ③ ④
後 中 前
ロアーリンク穴
F-10054B

■角度調節スイッチ

作業機の姿勢を調節するときに使用します。

F-10047C

①角度調節スイッチ

1. モンロ切換スイッチが"自動"("標準ロータリ""2""3")のとき

(1) **"水平"**ボタンを押すと，作業機を水平(地平線に対して平行)にし，以後その状態を保持します。

(2) **"上"**ボタンを押している間，作業機の右側が上がり，スイッチより手を離した位置で作業機が傾斜状態で止まります。以後，このときの地平線に対する傾斜角を保持します。

(3) **"下"**ボタンを押している間，作業機の右側が下がり，スイッチより手を離した位置で作業機が傾斜状態で止まります。以後，このときの地平線に対する傾斜角を保持します。

補　足

* **キースイッチ"入"時に"自動"**モードになっていれば，**"水平"**ボタンを押した状態になっています。**つまり，作業機が傾斜していれば，エンジンの始動と同時に作業機が水平になるように動きます。従って，安全のため，作業終了後は必ず"水平"**ボタンを押して**作業機を水平にしてください。**
* **モンロ切換スイッチを"手動"**から**"自動"**に切換えたときは，**"水平"**ボタンを押した状態になります。
* **"自動"**のときに**作業機を上端付近まで上げる**と，**作業機がトラクタと平行になります。作業機を降ろすと，元の傾斜角保持状態に戻ります。**

2. モンロ切換スイッチが"手動"のとき

(1) **"水平"**ボタンを押すと，作業機をトラクタに対して平行にし，以後その状態を保持します。

(2) **"上"**ボタンを押している間，作業機の右側が上がり，スイッチより手を離した位置で作業機が傾斜状態で止まります。以後，このときのトラクタに対する傾斜角を保持します。

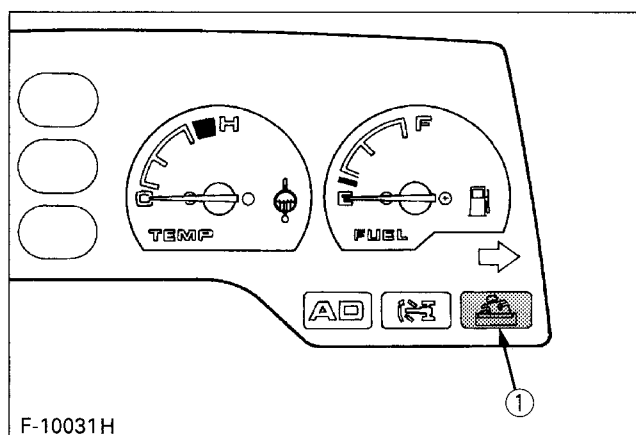
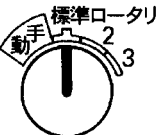
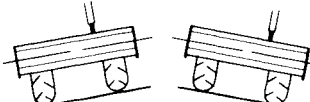
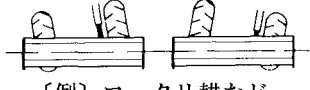
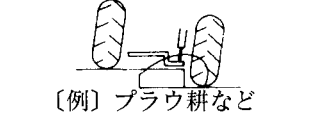
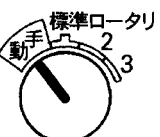
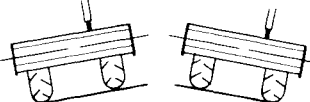
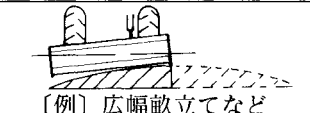
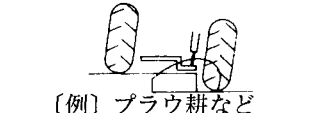
(3) **"下"**ボタンを押している間，作業機の右側が下がり，スイッチより手を離した位置で作業機が傾斜状態で止まります。以後，このときのトラクタに対する傾斜角を保持します。

補　足

* **"手動"**では，**作業機を上端付近まで上げても，作業機の姿勢は変化しません。従って，取付けている作業機を上げるときは注意してください。**
* **モンローマチックが不要の場合(フロントローダ作業など)には，"手動"で作業してください。**
* **"手動"で作業機を傾斜させて使う場合，作業機を上端まで上げると，ジョイント音が高くなる場合がありますので注意してください。**

■モンローマチックランプ

モンロ切換スイッチが**"自動"("標準ロータリ""2""3")の位置**で点灯します。

F-10031H

①モンローマチックランプ

■緊急時の対応方法

センサ類の故障でモンローマチックランプが点滅を繰返す場合，安全のためにモンローマチック系の制御を停止させています。この場合に脱出などで作業機を傾ける必要があるときは，モンロ切換を**"手動"**にすれば**"上""下"**ボタンのみ有効となり，作業機の角度を変えることができます。

但し，モンローマチックソレノイドの異常時には動かすことができません。

■モンローマチック用スイッチの操作と作業機の動き

<table>
<tr><th>モンロ
切換スイッチ</th><th>ポジション
レバー</th><th>角度調節スイッチ</th><th>作業機の動き</th><th>備考</th></tr>
<tr><td rowspan="4">標準ロータリ 手動 2 3
"自動"位置</td><td>作業機
上昇位置</td><td></td><td>本機と平行</td><td>作業機が上端付近まで上昇すれば本機と平行になります。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">作業位置</td><td>水平</td><td>水平
〔例〕ロータリ耕など</td><td>作業機が自動水平制御されます。</td></tr>
<tr><td>上</td><td>左下り
〔例〕広幅畝立てなど</td><td rowspan="2">本機の傾きが変わっても作業機は一定の姿勢(角度)を保ちます。</td></tr>
<tr><td>下</td><td>右下り
〔例〕プラウ耕など</td></tr>
<tr><td rowspan="3">標準ロータリ 手動 2 3
"手動"位置</td><td rowspan="3">——</td><td>水平</td><td>本機と平行</td><td>作業機を本機と平行に保ちます。</td></tr>
<tr><td>上</td><td>左下り
〔例〕広幅畝立てなど</td><td rowspan="2">本機と一定の角度を保ちます。</td></tr>
<tr><td>下</td><td>右下り
〔例〕プラウ耕など</td></tr>
</table>

F-10047

◆ **"自動"では次のような作業に効果があります。**

トラクタ本体の傾きにかかわらず，常に作業機を水平，又は一定の傾きに保持します。

(1)作業機角度が **"水平"** 位置の場合
- 水田でのあぜ際耕うん，枕地，凹凸地での均平耕うん。
- 整地板・代かきハローなどによる均平作業
- 畑での畝立て，畝崩し作業など

(2)作業機角度が **"水平"** 以外の場合
- プラウ作業，広幅畝立てなど

◆ **"手動"では次のような作業に効果があります。**
- メロンなどの高畝作り
- 作業機の着脱

メカオートの使い方【MA仕様】

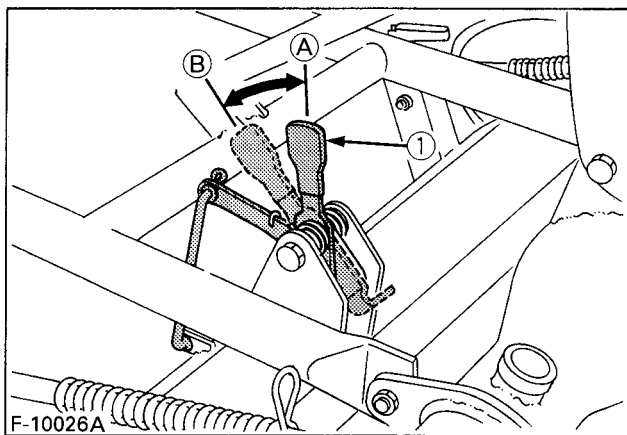
後２輪を外したオート耕うん作業で，より一層の小まわり作業ができ，後２輪跡のないきれいな仕上りが得られます。
正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

■オート切換レバー

 警 告

**＊オート切換レバーを操作する前には，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止してください。
作業機が落下し，事故を引起すおそれがあります。**

下表に基づきオート切換レバー位置を切換えてください。

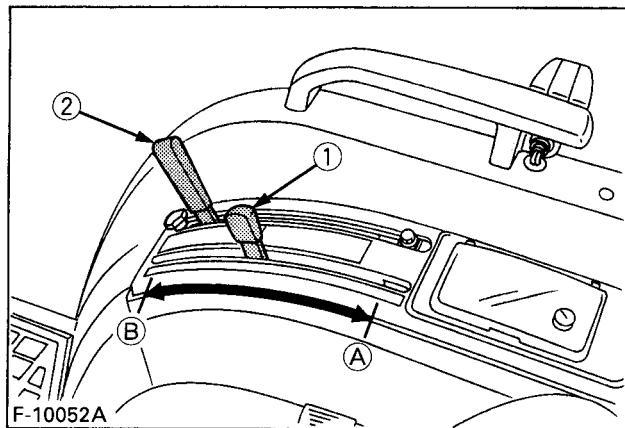
作業例	オート
一般耕うん 代かき	入
畝立て	切

①オート切換レバー　Ⓐ“オート入”
Ⓑ“オート切”

補 足

＊オート切換レバーを切換えるときは，油圧レバー及びオート耕深レバーを下げ位置にし，切換レバーを切換えてください。

■オート耕深レバー

オート切換レバーが **“オート入”** のとき，オート耕うんが行なえます。

1. オート耕深レバーを **“浅”** 方向にすると，作業機の耕深が浅く保持されます。
2. オート耕深レバーを **“深”** 方向にすると，作業機の耕深が深く保持されます。
3. 作業機の上げ下げは外側の油圧レバーで行ない，作業中は一番下にしておいてください。

①オート耕深レバー　Ⓐ“浅”
②油圧レバー　Ⓑ“深”

補 足

＊目盛りは深さの目安として表示しています。同じ目盛り位置でも，ほ場条件が変わると深さの設定が変わります。
＊畝立て作業や片培土作業などロータリカバーを持上げて作業を行なうとき，あるいは後２輪を取付けてロータリ作業を行なうときはオート耕うんが作動しない状態(オート切換レバーが **“オート切”** 位置)にしてください。

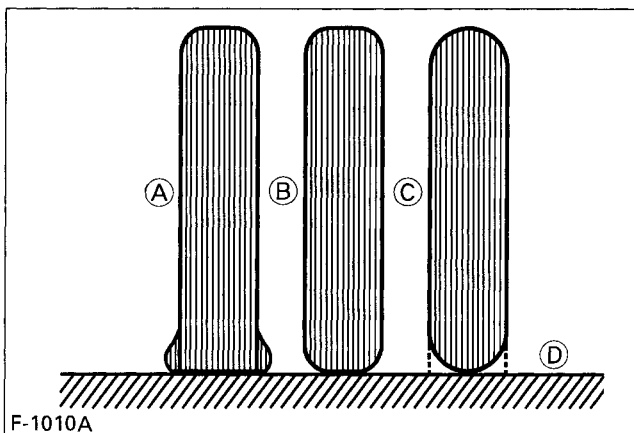
タイヤ・ウエイト

タイヤ

■タイヤの空気圧

警　告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。

Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い
Ⓓ接地面

◆標準空気圧

	空気圧kPa(kgf/cm²)	
	標　準	フロントローダ装着時
前　輪	120（1.2）	160（1.6）
後　輪	100（1.0）	100（1.0）

輪距の調整

注　意

＊けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

■前輪

前輪の輪距は変更できません。

■後輪

後輪の輪距は**2段階**に調節できます。

重　要

＊決められた輪距以外では使用しないでください。

補　足

＊タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。
＊後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられ ます。
＊輪距によりディスクの組換えも合せて行なってください。

型式(標準タイヤ)	輪距① (出荷状態)	輪距②
T200　(8.3-22)	915mm	1036mm
T200J T220　(8.3-24)	915mm	1036mm
T220J T240　(9.5-22)	950mm	1070mm
T240J (9.5-24)	950mm	1070mm

ウエイト

注　意

＊トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪(前輪)にかかる荷重がトラクタ質量の20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
＊装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪(前輪)にかかる荷重がトラクタ質量の20％以上を確保できない作業機は装着しないでください。
＊フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。(詳細は購入先にご相談ください。)

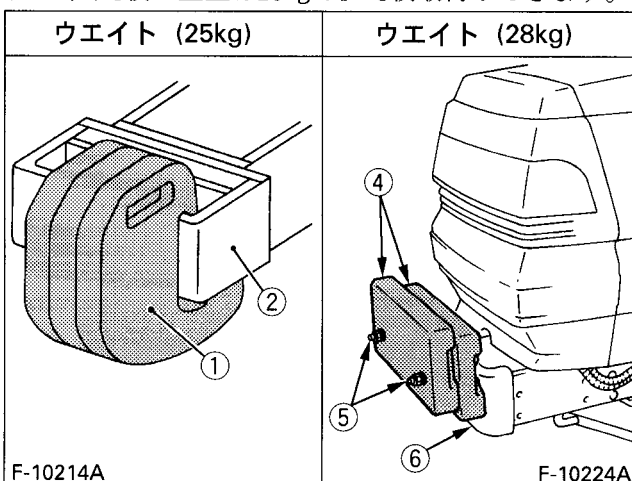
■ウエイト（オプション）

ウエイトは下記の２種類があります。
ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

◆前部ウエイト(25kg)の取付け方法

前車軸フレーム前面にウエイト取付台を取付け，ウエイトを装着します。ウエイト１枚の重量は25kgで１～５枚取付けできます。

◆前部ウエイト(28kg)の取付け方法

トラクタのフロントバンパにウエイトを付属のボルト，ナットで固定します。
ウエイト1枚の重量は28kgで1～3枚取付けできます。

①前部ウエイト
②ウエイト取付け台

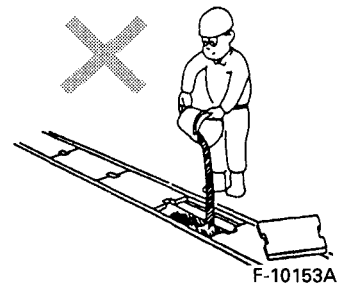
④前部ウエイト
⑤ボルト，ナット，ザガネ
⑥フロントバンパ

トラクタの簡単な手入れと処置

注　意

＊給油及び点検整備するときは
❶トラクタを平たんな広い場所に置き
❷作業機を降ろし
❸駐車ブレーキをかけ
❹エンジンを止め
❺キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃油処理について

＊抜取った廃油は廃油処理業者へ依頼し，処理してください。
＊廃油を溝や空地などに絶対に捨てないでください。

F-10153A

定期点検箇所一覧表〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	項目	時期	アワーメータ表示時間																それ以降	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
1	エンジンオイル	交換	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	57
2	エンジンオイルフィルタカートリッジ	交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	61
3	油圧オイルフィルタカートリッジ	交換		◎		○				○				○				○	200時間ごと	62
4	油圧ミッションオイルフィルタカートリッジ【F仕様】	交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	62
5	ミッションオイル	交換		◎						○								○	400時間ごと	64
6	ステアリングギヤーボックスオイル【マニュアルステアリング仕様】	点検								○								○	400時間ごと	64
7	前車軸ケースオイル	交換						○						○					300時間ごと	64
8	グリースの注入	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	53
9	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	53
10	タイヤ取付けボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	54
11	クラッチハウジングの水抜き	排水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	54
12	ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検と交換	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	54
13	パワーステアリングホース【S仕様】	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	55
		交換																	２年ごと	67
14	燃料パイプ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	55
		交換																	２年ごと	67
15	ADブレーキホース【B仕様】	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	56
		交換																	２年ごと	67
16	油圧ミッションホース【F仕様】	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	56
		交換																	２年ごと	67
17	バッテリ電解液	点検		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	57,58
18	エアクリーナエレメント	清掃		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	59
		交換																	１年ごと	66
19	燃料フィルタエレメント	交換								○								○	400時間ごと	65
20	ファンベルト	調整		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	59
21	クラッチペダル	調整	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	61
22	ブレーキペダル	調整		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	60
23	停止ソレノイドリンク	注油																	１年ごと	66

【注】◎はならし運転の50時間後又は100時間後に必ず行なってください。
バッテリ電解液は年間使用時間が100時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

No.	項目	時期	アワーメータ表示時間																それ以降	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
24	ラジエータホース	点検				○				○				○				○	200時間ごと	62
		交換																	2年ごと	67
25	トーイン，タイロッド	点検				○				○				○				○	200時間ごと	63
26	エンジンバルブクリアランス	点検																○	800時間ごと	66
27	前部デフケース前後遊び	調整												○					600時間ごと	65
28	ラジエータ(クーリングシステム)	洗浄																	2年ごと	67
29	冷却水	交換																	2年ごと	66
30	モンローシリンダホース【M·MA仕様】	交換																	2年ごと	67
31	バッテリプラスカットリレー	リセット																	必要に応じて	69
32	燃料の空気抜きのしかた	－																	必要に応じて	68
33	ヒューズ類	交換																	必要に応じて	68
34	ランプ類	交換																	必要に応じて	69

給油（水）一覧表

No.	給油（水）項目	容量（L）	備考
1	燃料	28	ディーゼル軽油
2	冷却水	6.1〔7.2〕(リザーブタンク含む)	清水 不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。
3	エンジンオイル	5.7（オイルゲージ上限全量）	クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30 CC級又はCD級
4	ミッションオイル(油圧オイル)	16.0	クボタ純オイル スーパーUDT 又は バイオスーパーUDT
5	ステアリングギヤーボックスオイル【マニュアルステアリング仕様】	0.17	
6	前車軸ケース	4.0	
7	グリースの注入 ●クラッチペダル ●ブレーキペダル	少量	シャーシグリース
8	グリースの塗布 ●関節球	塗布	
9	バッテリターミナル	塗布	
10	ウォッシャ液	〔2〕	自動車用ウォッシャ液

(注)〔 〕はT220·240キュービックボックス(ドア・エアコン付き)仕様を示す。

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル 前車軸ケースオイル ステアリングギヤーボックスオイル
日石三菱	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30	クボタ純オイル スーパーUDT　又は バイオスーパーUDT
コスモ石油		
ジャパンエナジー		
昭和シェル石油		
富士興産		

■グリース

メーカ	シャーシグリース
日石三菱	エピノックグリースAPNo.2
コスモ石油	ダイナマックスEPNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD
モービル石油	プレックス47,ラックスEP2
エッソスタンダード石油	シャーシグリースL
出光興産	シャーシグリース
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2

ボンネットの開閉
及びサイドカバーの外し方

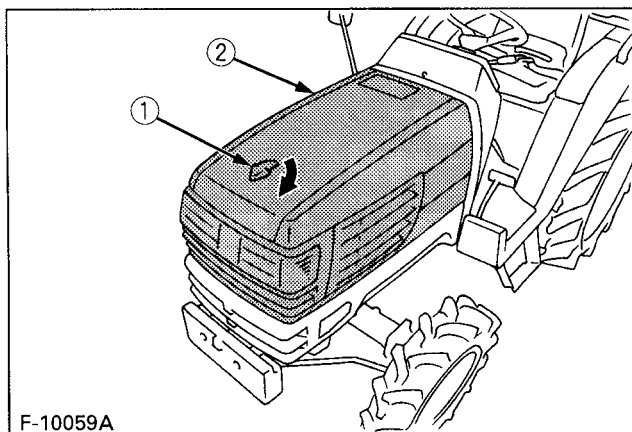
注　意

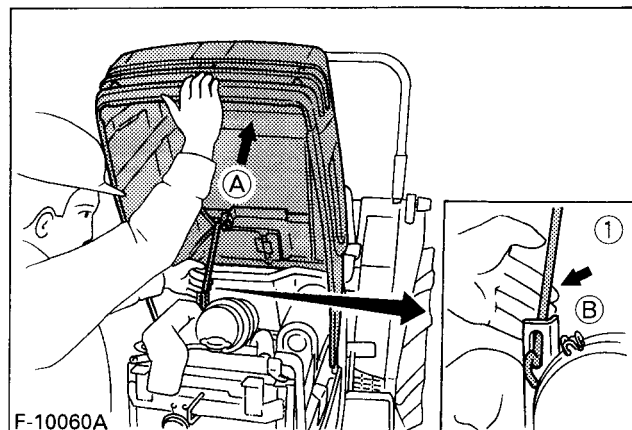
＊エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
＊マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■ボンネットの開閉

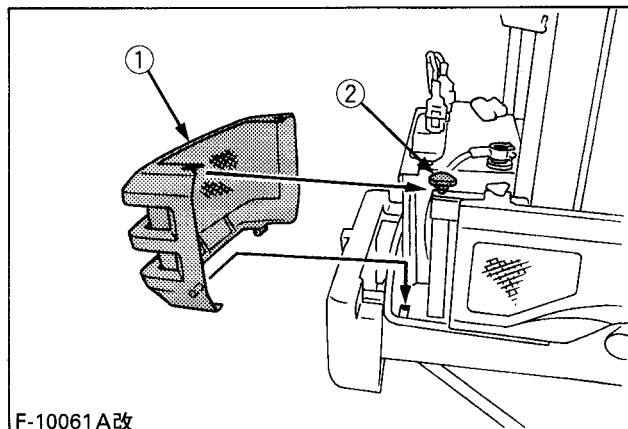
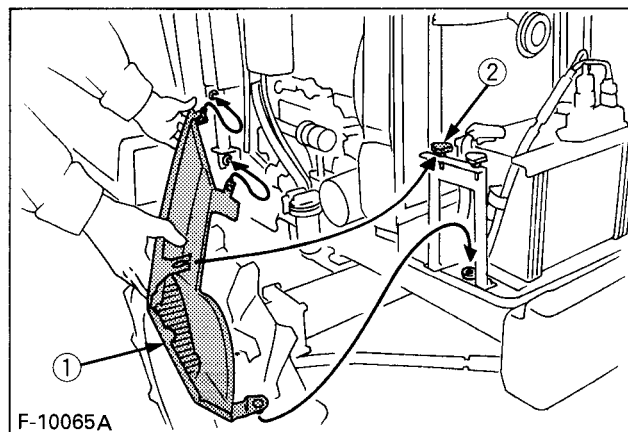
注　意

＊ボンネットを開き点検・調整するときは，必ずボンネット固定金具が“ロック”されたか確認してから作業をしてください。

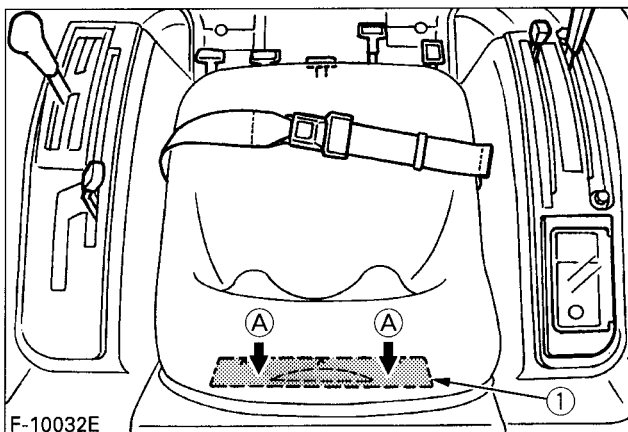
❶ボンネットを開けるときは，マスコットを**“矢印”**の方向に回すとロックが外れ，ボンネットの先端を持ち上げると開きます。

①マスコット
②ボンネット

❷ボンネットを閉めるときは，ボンネット固定金具を手前に引き**“解除”**してから閉じてください。

①ボンネット固定金具　　Ⓐ“ささえる”
　　　　　　　　　　　Ⓑ“引く”

■サイドカバー及びフロントカバーの外し方

❶ノブボルトをゆるめると，サイドカバー及びフロントカバーが外れます。
❷組付け時は，各カバーのピンをはめ込んでから，ノブボルトで取付けてください。
（フロントカバーはノブボルト部の座金の下にカバーを差込んでください。）

①フロントカバー
②ノブボルト

①サイドカバー
②ノブボルト

■工具箱の閉め方

工具箱のふたを閉める場合は，表示してある位置を押してください。

①工具箱　　　　　Ⓐ“押す”

日常点検

注 意

* ＊火気厳禁
* ＊点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
* ＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
* ＊トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
* ＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴き出してヤケドをすることがあります。
* ＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

1.前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

2.トラクタの回りを歩いて

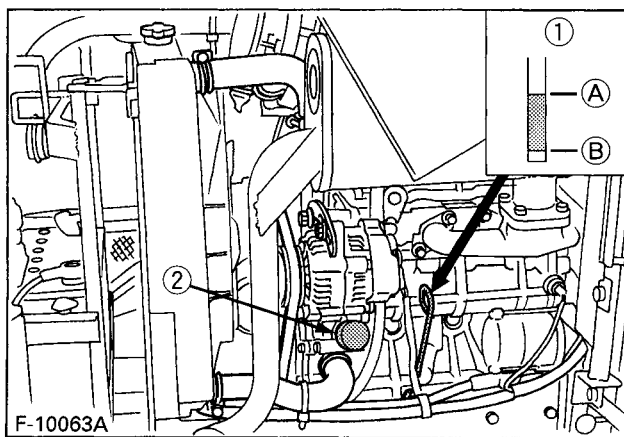
1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き **“下限と上限の間”** にオイルがあるかを調べます。

❷ **“下限”** 以下の場合は補給してください。ただし，**“上限”** 以上には入れないでください。

①オイルゲージ　Ⓐ “上限”
②給油口　Ⓑ “下限”

重 要

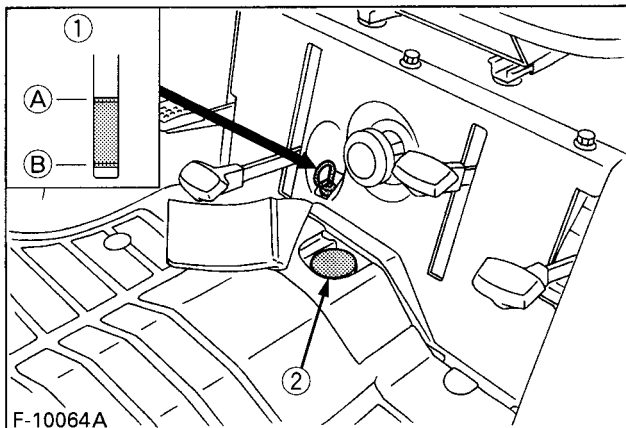
* ＊点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
* ＊オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約5分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。

❷**“下限”**以下の場合は補給してください。ただし，**“上限”**以上には入れないでください。

①オイルゲージ　Ⓐ“上限”
②給油口　Ⓑ“下限”

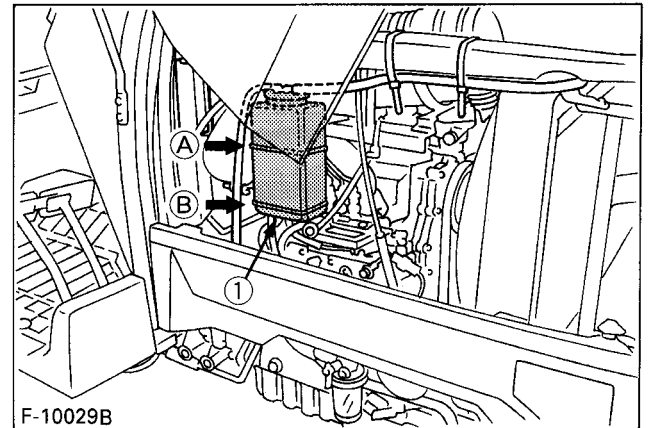
■冷却水の量

注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

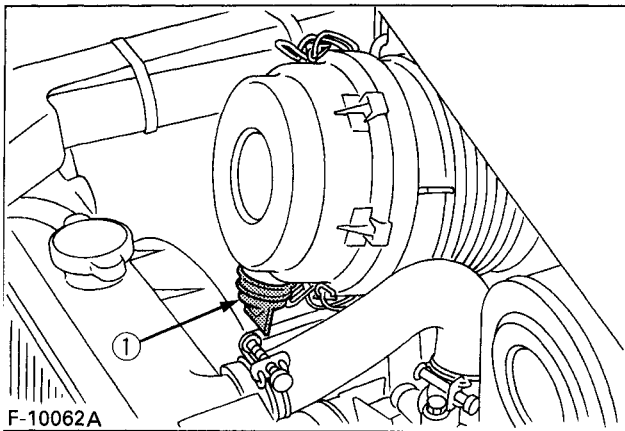
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**“FULLからLOWの範囲”**であれば正常です。冷却水がLOW以下の場合は，FULLのレベルまで補給してください。

FULL以上は入れないでください。

①リザーブタンク　Ⓐ“FULL”
　　　　　　　　　Ⓑ“LOW”

補 足

＊ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■バキュエータバルブの清掃

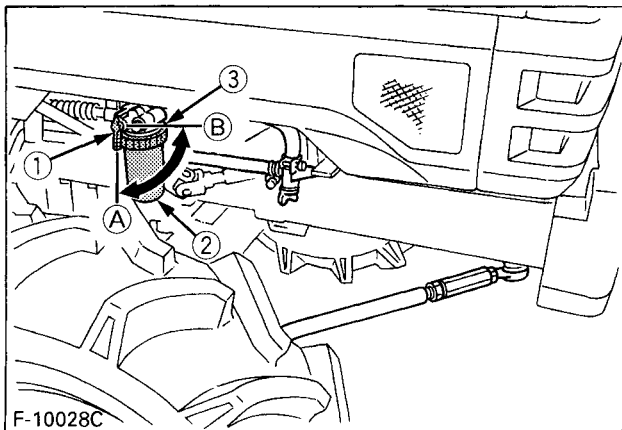
バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。

①バキュエータバルブ

■燃料フィルタの水，沈殿物の点検

燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったら燃料フィルタコックを閉じ，フィルタを外し，水・ゴミを取除いてください。このときは，必ず空気抜きをする必要があります。

❶燃料フィルタコックを **"閉"** にしてください。
❷カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。

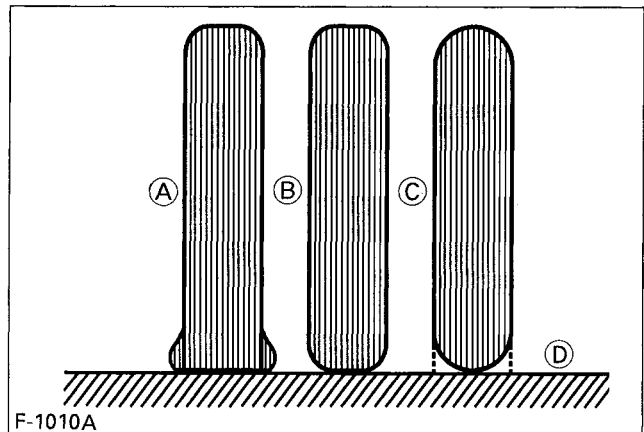
重　要

＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊エレメントを交換したのちは，必ず空気が抜けたことを確かめた後，運転してください。
〔**"必要に応じた点検・整備"** の **"燃料の空気抜きのしかた"** の項を参照〕

①燃料フィルタコック　Ⓐ "開"
②燃料フィルタ　Ⓑ "閉"
③リテーナリング

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。

Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い
Ⓓ接地面

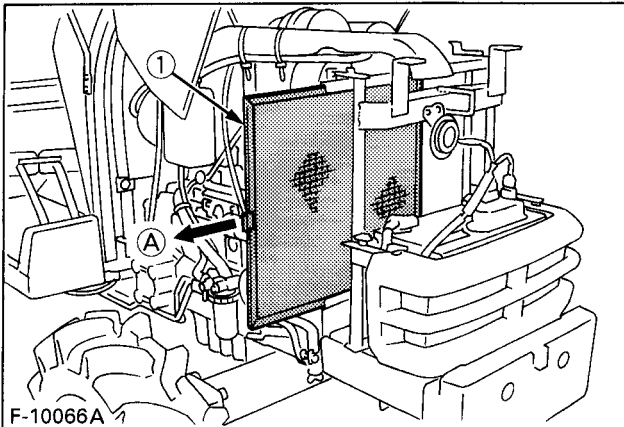
◆標準空気圧

	空気圧kPa(kgf/cm²)	
	標　準	フロントローダ装着時
前　輪	120（1.2）	160（1.6）
後　輪	100（1.0）	100（1.0）

■防虫網の清掃

注 意

＊エンジンを必ず停止して清掃してください。

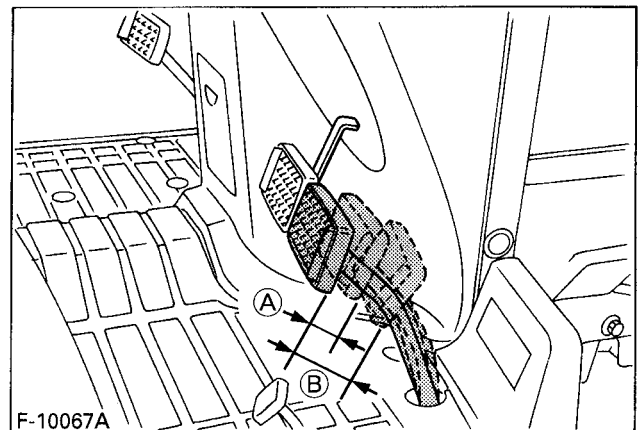
水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので，こんなときは防虫網を清掃してください。
サイドカバー(右)を外した後，防虫網を引出して掃除します。

①防虫網　Ⓐ“引出す”

3.運転席に座って

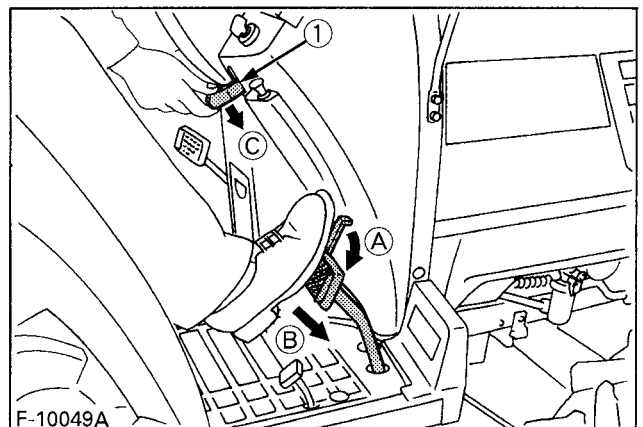
■ブレーキペダルの遊び・点検

警 告

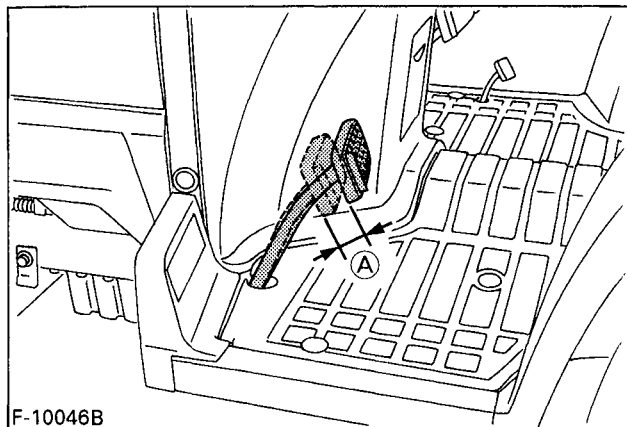
＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

ペダルを踏んで遊び量が **“20～30mm”** かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が**5mm以内**かどうかを調べます。
〔調整のしかたは **“100時間ごとの点検・整備”** の **“ブレーキペダルの点検・調整”** の項を参照〕

Ⓐ遊び
Ⓑこの位置での左右差5mm以内

■駐車ブレーキの作動点検

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを **“下げ”** たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

①駐車ブレーキレバー　Ⓐ“連結金具をかける”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“下げる”

■クラッチペダルの遊び・点検

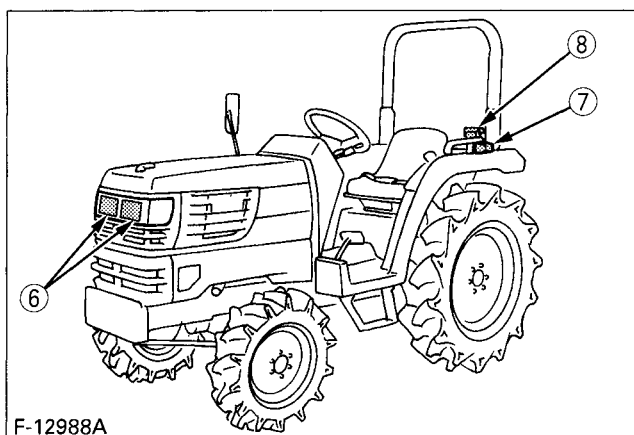
ペダルの遊び量が **"20～30㎜"** あるか確認してください。
〔調整のしかたは **"100時間ごとの点検・整備"** の **"クラッチペダルの点検・調整"** の項を参照〕

Ⓐ遊び

重 要

＊クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起こし損傷につながります。

4.エンジンを始動して

■メータ・ランプ類の作動

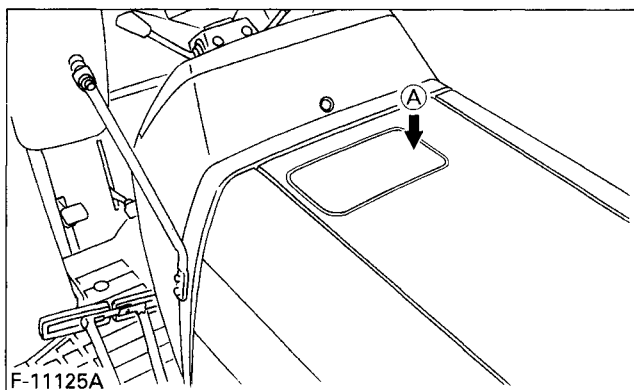
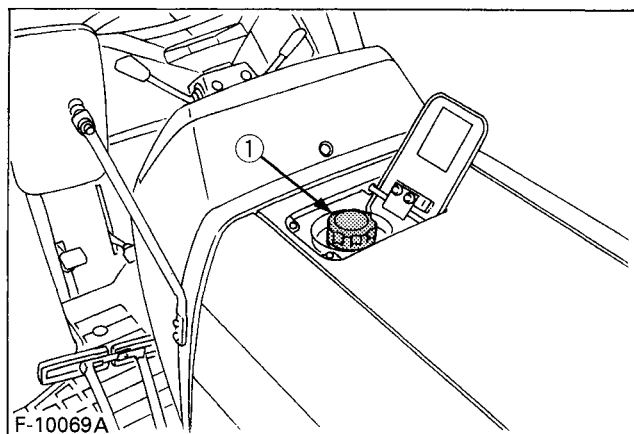
下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。
①燃料計
②水温計
③エンジン回転計
④ホーン
⑤イージーチェッカ
⑥ヘッドライト
⑦ウインカ
⑧作業灯

5.燃料の補給

注 意

＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊火気厳禁。

燃料には，**"ディーゼル軽油"** を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特 1 号	＋5以上
1 号	0及び－5
2 号	－10
3 号	－15及び－20
特 3 号	－25及び－30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。

Ⓐフタの左端を"押す"と開きます。

①燃料給油口

重 要

＊燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意してください。
＊燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

■燃料給油ポンプの取扱い【オプション】

 警 告

＊火気厳禁。
＊ガソリンエンジン搭載車（田植機，バインダーなど）やベンジンなどには使用しないでください。火災のおそれがあります。
＊給油中は離れないでください。万一クランプが外れて軽油があふれるおそれがあります。
＊使用後はスイッチを必ず“切”にしてください。スイッチが“入”のままでは，電源プラグを差込むだけでポンプが作動します。

 注 意

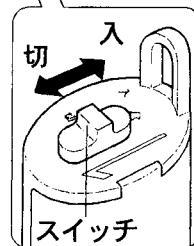
＊エンジンをかけながら給油しないでください。火災のおそれがあります。
＊ポンプはポリタンクに差込んだままにしないでください。転倒時に軽油があふれるおそれがあります。
＊ホース破れなど，もれたまま使用しないでください。噴出した軽油で目を痛めるおそれがあります。
＊クランプが浮いたまま使用しないでください。また，クランプの位置をずらさないでください。軽油があふれるおそれがあります。
＊分解，改造をしないでください。
＊センサや吸込み口を汚したり，傷をつけないでください。自動停止をせず軽油があふれたり，故障の原因になります。センサ部や吸込み口が汚れた場合は軽油で洗浄してください。
＊液もどし口より給油口が低いポリタンクは使用しないでください。軽油がもれるおそれがあります。
＊車体が傾いた状態では給油しないでください。吸込み不良やセンサの自動停止不良になるおそれがあります。
＊クランプ部は取外したり，下側へスライドさせないでください。軽油があふれるおそれがあります。
＊ゴミなどを吸込ませたり，水をかけないでください。自動停止せず軽油があふれたり，作動しなくなるおそれがあります。

❶使用時は，給油ポンプの吸込み口をポリタンクの底まで入れます。
❷クランプを燃料給油口へ差込みます。
①タンクよりこし網を外します。
②クランプを指で押えます。
③給油口にクランプを差込みます。
❸電源コードをコンセントに差込みます。
❹トラクタのキースイッチを“入”位置にします。
❺スイッチを入れます。
- “カチッ”と音がするまで押します。
- 軽油が満タンになると自動停止します。

❻給油が終わったら，ポンプのスイッチ，トラクタのキースイッチを切り，コンセントを抜いてポンプを収納してください。

補 足

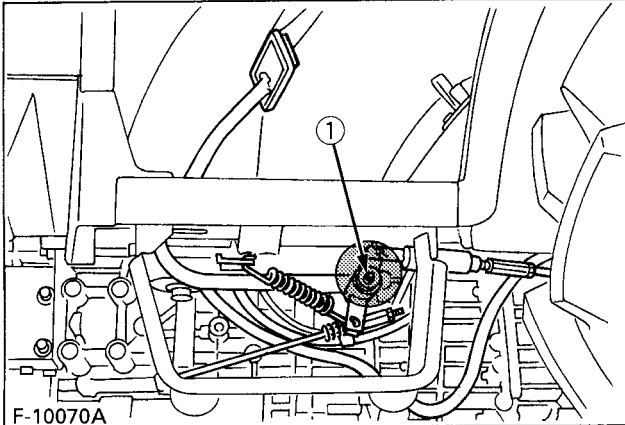
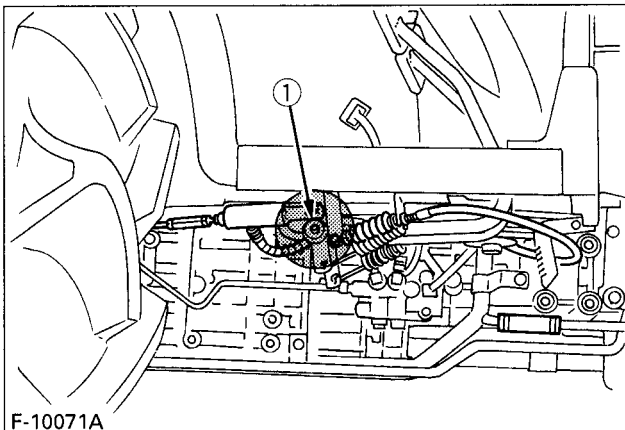
＊必ず，吸込み口を軽油の中に入れてからスイッチを入れてください。スイッチを入れてから吸込み口を軽油の中に入れると空気がたまり吸上げません。

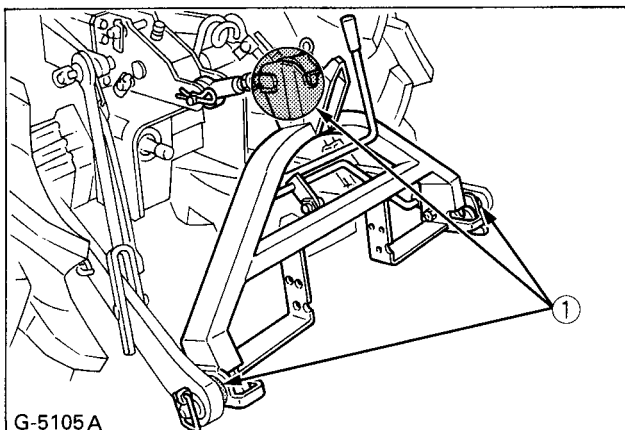
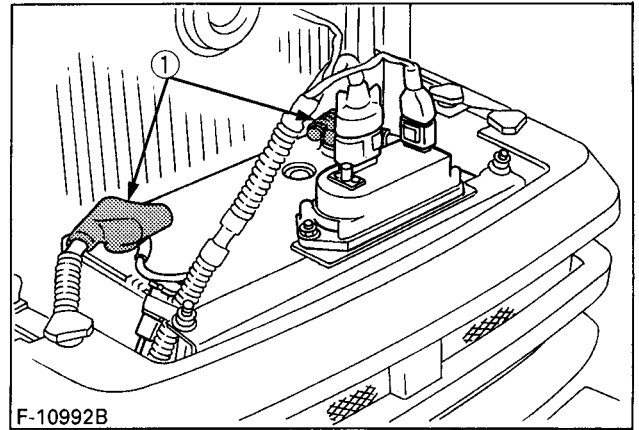
ご使用方法

補　足

*ポリタンク内のゴミは洗浄（除去）してご使用ください。
*自動停止後スイッチを切り，ホース内の残油を完全に流してからクランプを外し，油をよくきってください。
*ご使用後は，センサ部や吸込み口を布ぎれでふき取り，雨や直射日光の当らない所に保管してください。
*コードは電源プラグを持って引抜いてください。また，電源プラグを改造したり，AC100V電源に使用しないでください。

50時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**“クボタ推奨グリース”**を使用してください。

①グリースニップル(クラッチペダル)

①グリースニップル(ブレーキペダル)

①関接球

①バッテリターミナル

■エンジン始動システムの点検

＊点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。

＊装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆点検

❶運転席に座り，主変速，PTO変速レバーを**“中立”**(N)にします。

❷駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。

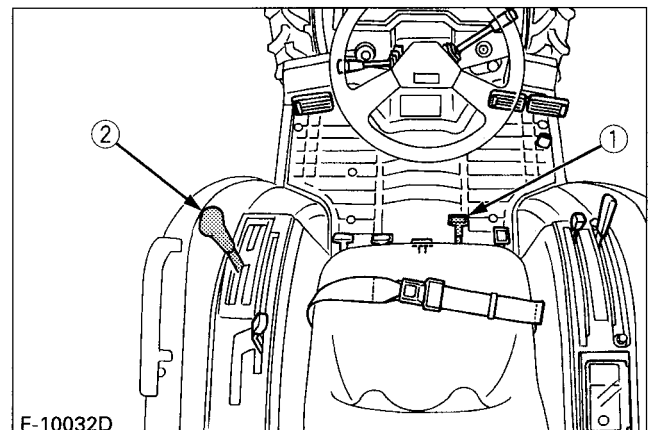
❸アクセルレバーを**“最低速”**位置にします。

❹クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**“始動”**位置に回します。

このとき，エンジンが回れば正常です。

❺次に，主変速又はPTO変速レバーをいずれかの位置に変速し，キースイッチを瞬時**“始動”**位置に回します。

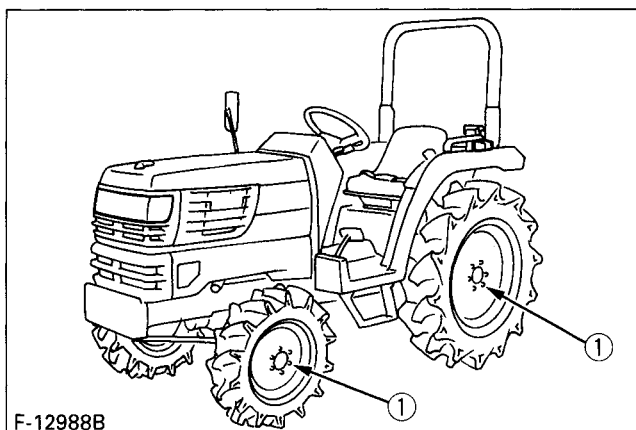
このとき，エンジンが回らなければ正常です。

❻もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

①PTO変速レバー

②主変速レバー

■タイヤ取付けボルトの点検

注意

**＊タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。
ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起こすおそれがあります。**

①ボルト／ナット

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

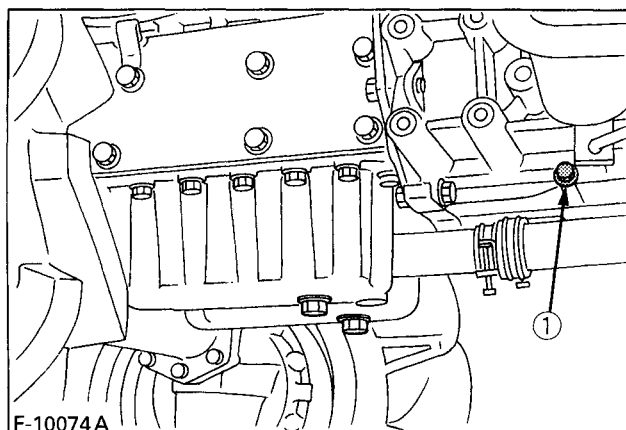
注意

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起こすので必ず点検してください。
＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

1. ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
2. ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
3. 各スイッチが確実に作動すること。

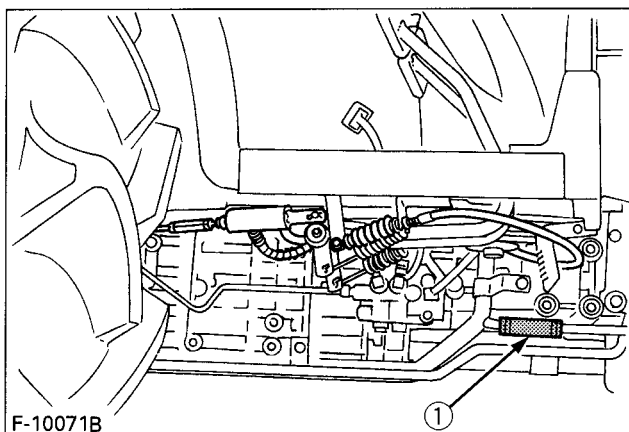
■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の侵入がないことを確認してください。
もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。

①ドレーンプラグ

■パワーステアリングホースの点検【S仕様】

注　意

＊ホースの傷みは，必ず点検しましょう。
ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。

①パワーステアリングホース

重　要

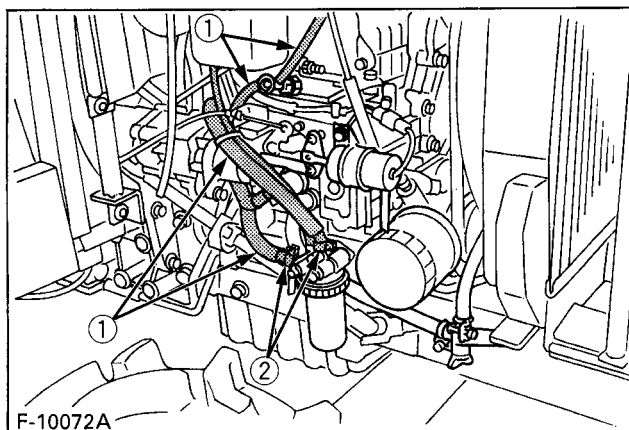
＊交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

■燃料パイプの点検

注　意

＊パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料パイプなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
2. 燃料パイプを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
〔**“必要に応じた点検・整備”**の**“燃料の空気抜きのしかた”**の項を参照〕

①燃料パイプ
②締付けバンド

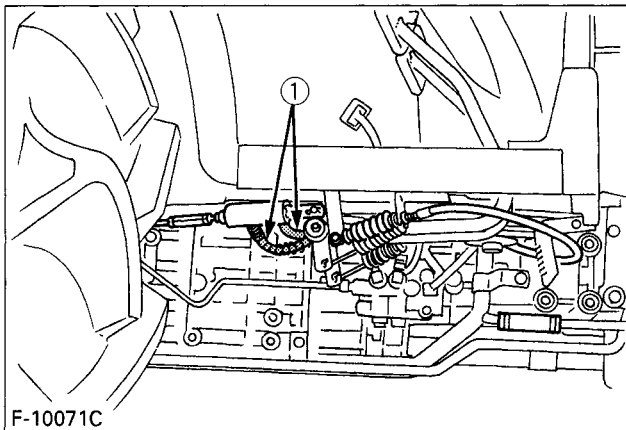
重　要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

■ADブレーキホースの点検【B仕様】

 注 意

**＊ホースの傷みは，必ず点検しましょう。
ホースが破損しADブレーキ操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。**

ホースは，使わなくても劣化する消耗品です。２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。

①ADブレーキホース

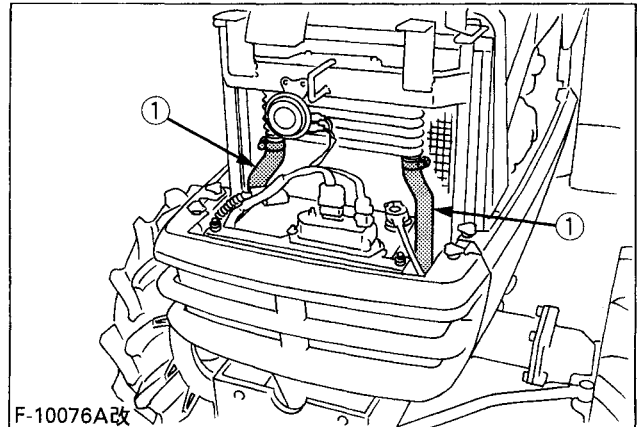
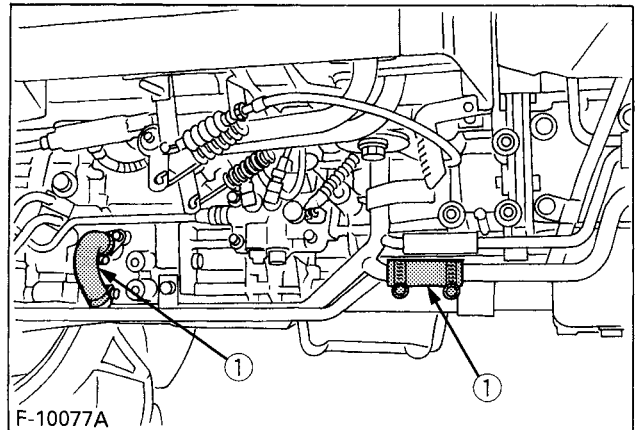
重 要

＊交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

■油圧ミッションホースの点検【F仕様】

油圧ミッションホースは，使わなくても劣化する消耗品です。２年ごと又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。

重 要

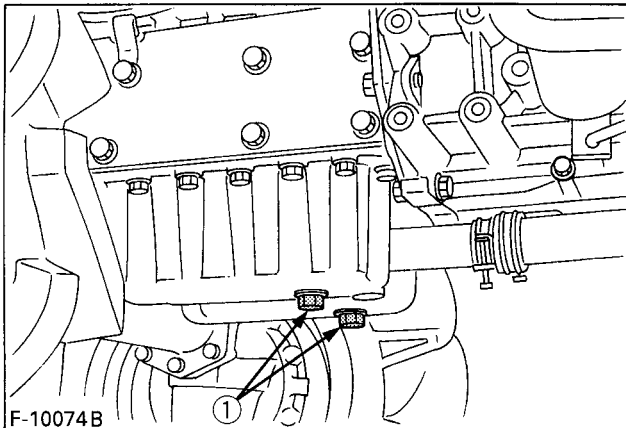
＊交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

①油圧ミッションホース

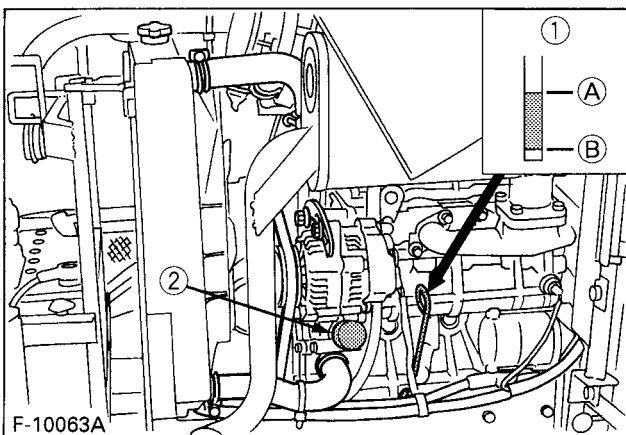
100時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

 注　意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグを両側共外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。

①ドレーンプラグ

❷エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。

①オイルゲージ　　Ⓐ "上限"
②エンジンオイル給油口　　Ⓑ "下限"

重　要

＊今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。

＊気温により次のように使いわけてください。

15°C以下	D10W30(オールシーズン用)
15°C以上	D30,又はD10W30

＊冬期は必ずD10W30を使用してください。

■バッテリ電解液の点検

 危　険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

 警　告

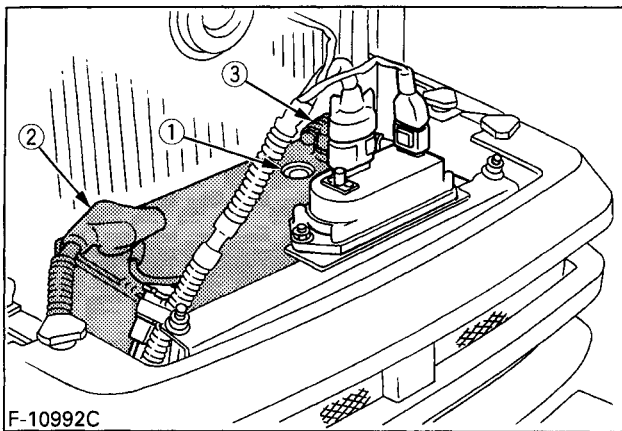
＊バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。
状況により医師の診断を受けてください。

＊バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止してください。

＊バッテリを取外すときは，短絡(ショート)事故を防ぐため，最初にバッテリ⊖コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ⊖コードを接続してください。

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。
バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆バッテリ液の点検

バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用しています。上面のインジケータの表示状態により補充電してください。

①インジケータ　②⊕コード ③⊖コード

◆インジケータの見方

インジケータ表示状態		
	緑	電解液比重，電解液量共に良好です。
	黒	要充電です。 6～7Aの普通充電電流で補充電を行なってください。
	白	交換時期です。

◆バッテリの取付け，取外し

 注 意

＊バッテリを取外すときは，バッテリ⊖コードを最初に外し，次に⊕コードを外してください。

＊取付けるときは，必ず⊕側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重 要

＊バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。

＊新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式（75D26L-MF）のバッテリを使用してください。

＊バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆補充電のしかた

 警 告

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。バッテリは充電中可燃ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

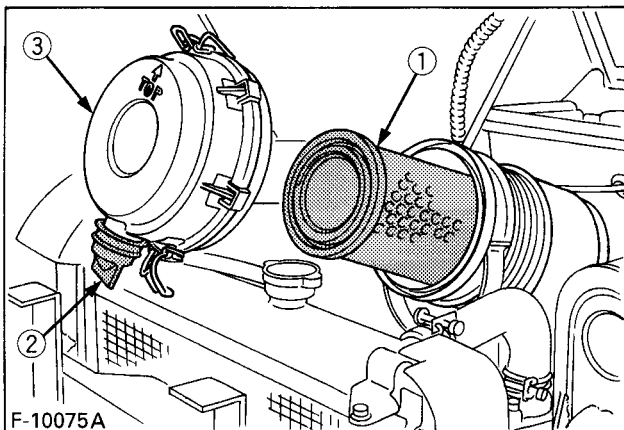
1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はしないでください。
2. バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがわないように注意してください。

■エアクリーナエレメントの清掃

◆エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアで吹き飛ばしてください。〔エアの圧力は0.49MPa (5kgf/cm²)を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。〕

◆エレメントの交換

エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。

①エレメント
②バキュエータバルブ
③ダストカップ

重　要

＊エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。
　変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。
　変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊ダストカップの（⬆マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

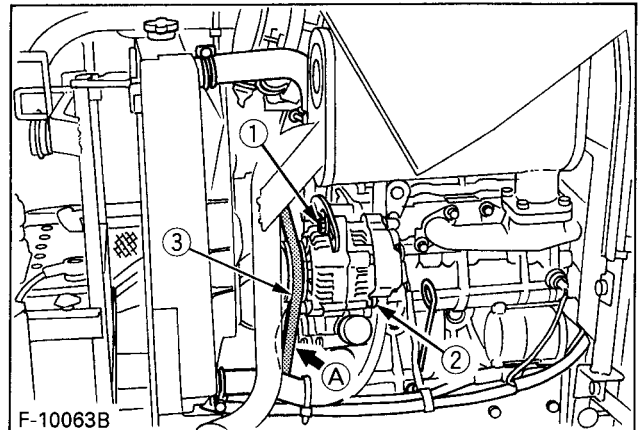
◆バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約98N(10kgf)の力で抑えて，約7mmたわむ程度

◆調整方法

❶ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
❷調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。

①ボルト　　Ⓐ“押す”
②ナット
③ファンベルト

重　要

＊ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊き裂やはがれがあれば交換してください。

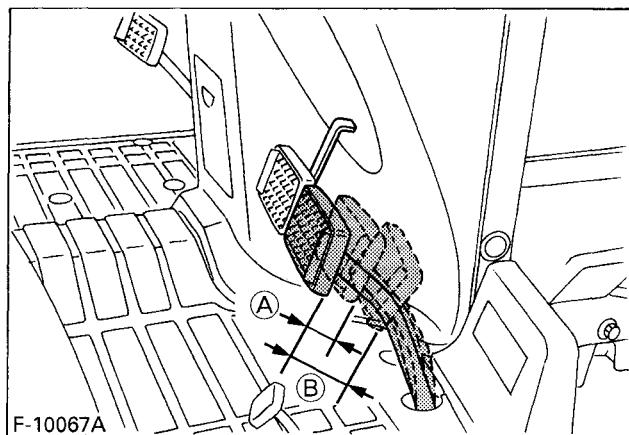
■ブレーキペダルの点検・調整

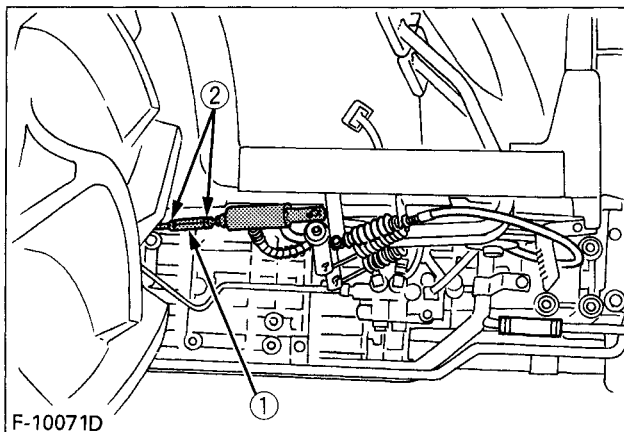
 警　告

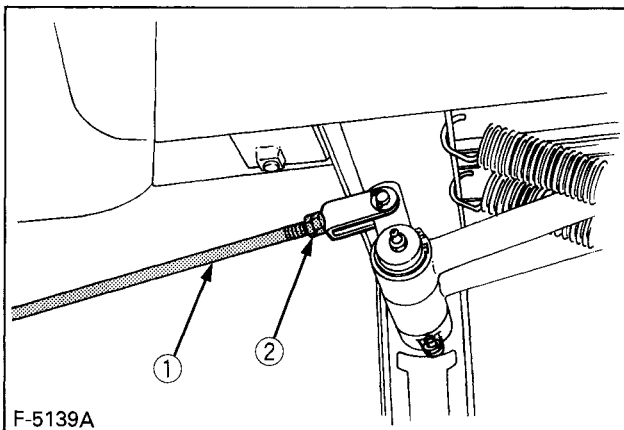
＊点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。
＊調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず“5㎜以内”にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。
ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起すおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで20～30mm

◆調整方法

❶駐車ブレーキを解除します。
❷ロックナットをゆるめターンバックルを回して，ペダルの遊びを調整します。調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。
❸ブレーキペダルを踏込んだとき，駐車ブレーキレバーが確実に作動するかを確認してください。

Ⓐ遊び
Ⓑこの位置でのペダルの左右差5㎜以内

【B仕様】

①AD倍速のブレーキロッド
②ナット

【B仕様以外，EB仕様】

①ロッド
②ナット

■クラッチペダルの点検・調整

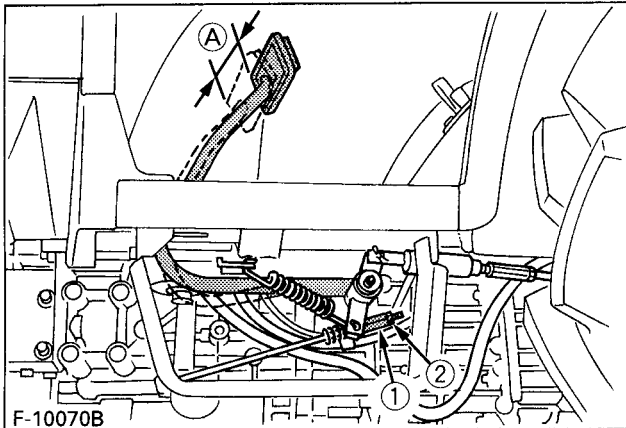
適正遊び量	ペダルで20～30mm

◆調整方法

❶ロックナットをゆるめターンバックルを回して，ペダルの遊び量を調整します。

❷調整後はターンバックルを固定し，ロックナットを確実に締付けておいてください。

①ターンバックル　　Ⓐ "遊び"
②ロックナット

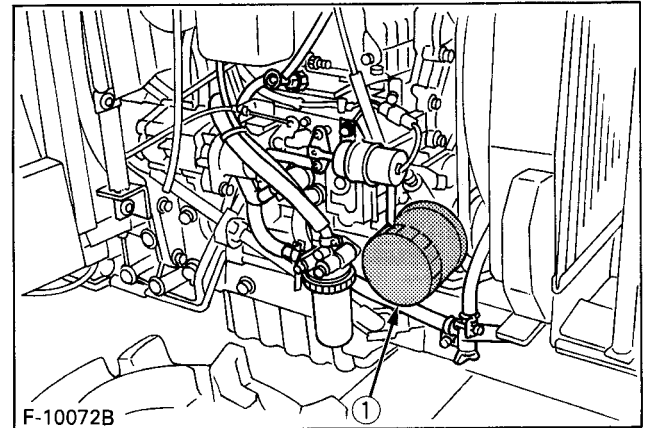
重　要

＊クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起こし損傷につながります。

200時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

オイルフィルタは，カートリッジタイプです。
このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

①エンジンオイルフィルタカートリッジ

❶フィルタレンチでフィルタを取外します。

❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。

❸エンジンオイルを規定量まで補給します。

❹約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。

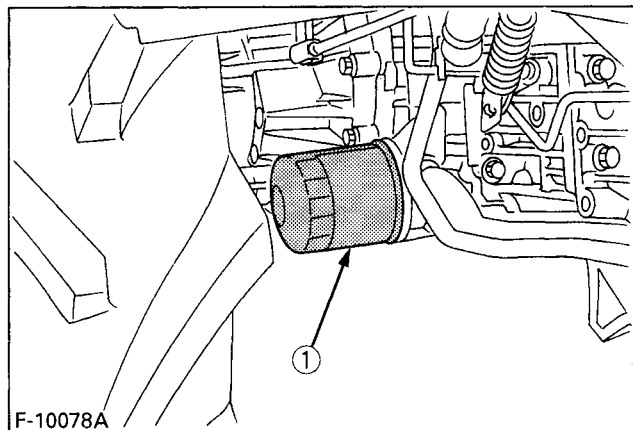
❺再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。

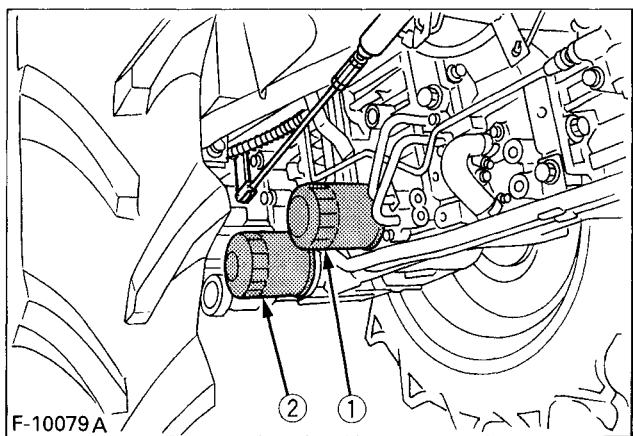
■油圧オイルフィルタカートリッジの交換
■油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換　【グライドシフト(F)仕様】

注意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。

【マニュアルシフト仕様】

①油圧オイルフィルタカートリッジ

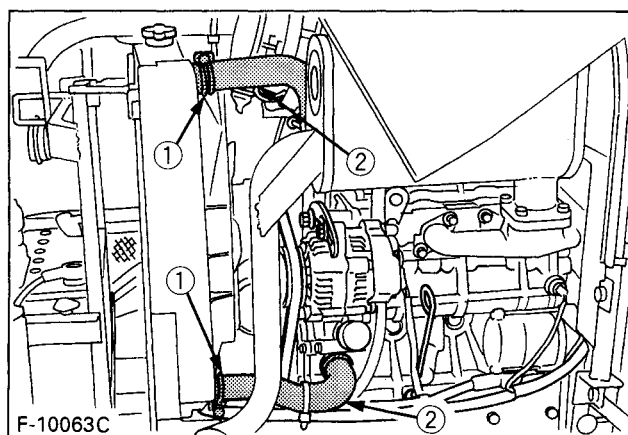
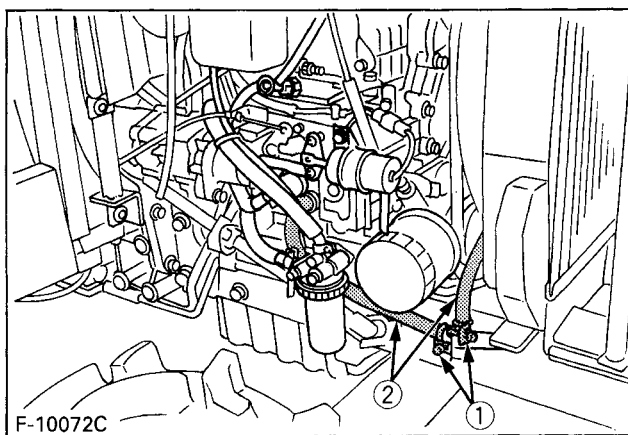
【グライドシフト(F)仕様】

①油圧ミッションオイルフィルタカートリッジ
②油圧オイルフィルタカートリッジ

❶ミッションオイルを抜きます。
❷フィルタレンチでフィルタを取外します。
❸新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❹ミッションオイルを規定量まで補給します。
❺約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
❻再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
〔ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは **“400時間ごとの点検・整備”** の **“ミッションオイルの交換”** の項を参照〕

■ラジエータホースの点検

注意

＊ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

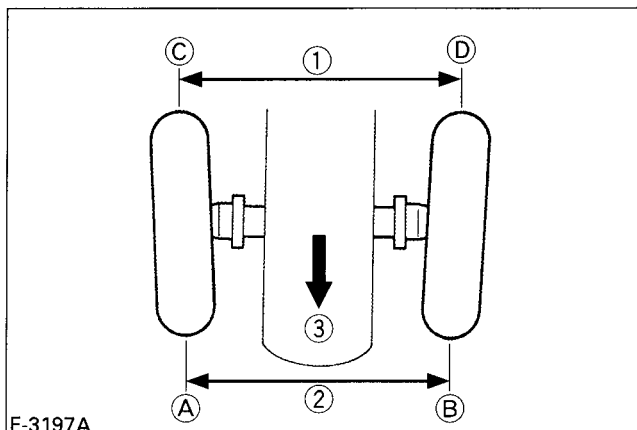
ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

①締付けバンド
②ラジエータホース

■ トーイン調整・タイロッドの点検

注 意

＊トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆点検

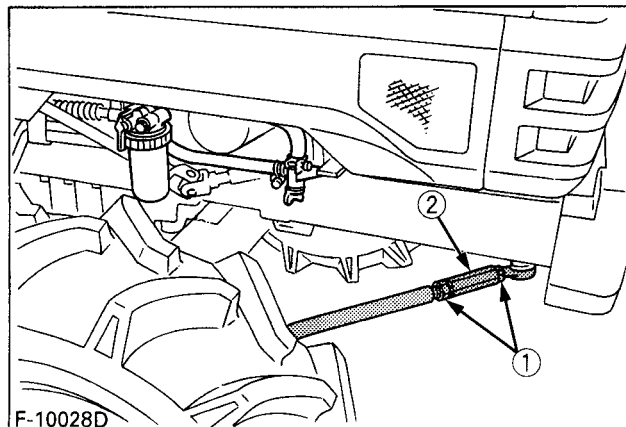
前輪の前幅Ⓐ Ⓑと後幅Ⓒ Ⓓを測り，Ⓒ Ⓓ－Ⓐ Ⓑ＝2～8㎜になっているかを調べます。

F-3197A

①後幅
②前幅
③前

◆調整方法

❶ロックナットをゆるめ，Ⓒ Ⓓ－Ⓐ Ⓑ＝2～8㎜になるように調整します。

❷調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。

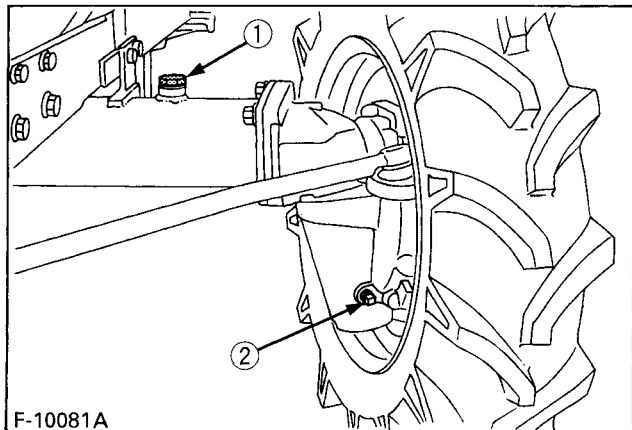
F-10028D

①ロックナット
②ターンバックル

補 足

＊トーインの点検・調整時，タイロッドエンド（関接球）やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。

300時間ごとの点検・整備

■前車軸ケースオイルの交換

❶給油プラグとドレーンプラグを外してオイルを排出します。

①給油プラグ
②ドレーンプラグ

❷ミッションオイルを給油口から，規定量入れてください。

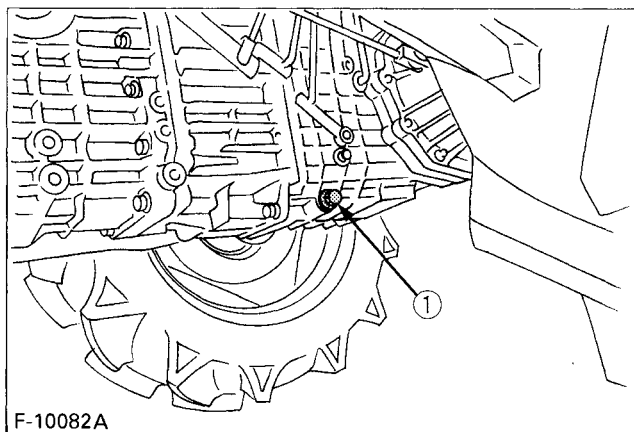
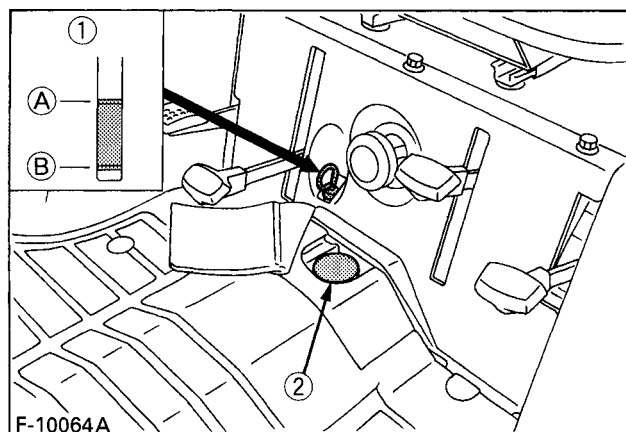
400時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

注　意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグを(１カ所)外してオイルを抜きます。

①ドレーンプラグ

❷ミッションオイルを給油口から規定量まで入れてください。

①オイルゲージ　Ⓐ“上限”
②給油口　Ⓑ“下限”

❸エンジンを始動して２～３分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。

補　足

＊ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。

■ステアリングギヤーボックスオイルの点検【マニュアルステアリング仕様】

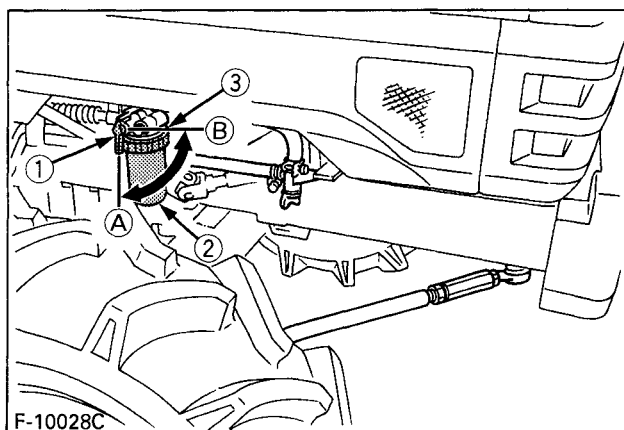
(パワーステアリング仕様はオイルを補給する必要はありません。)

購入先で点検・補給してもらってください。

■燃料フィルタエレメントの清掃交換

❶燃料フィルタコックを**"閉"**にしてください。
❷カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
❸新しいフィルタエレメントと交換します。

重 要

＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊エレメント交換後は，必ず空気抜きをしてください。〔**"必要に応じた点検・整備"**の**"燃料の空気抜きのしかた"**の項参照〕

①燃料フィルタコック　Ⓐ"開"
②燃料フィルタ　Ⓑ"閉"
③リテーナリング

600時間ごとの点検・整備

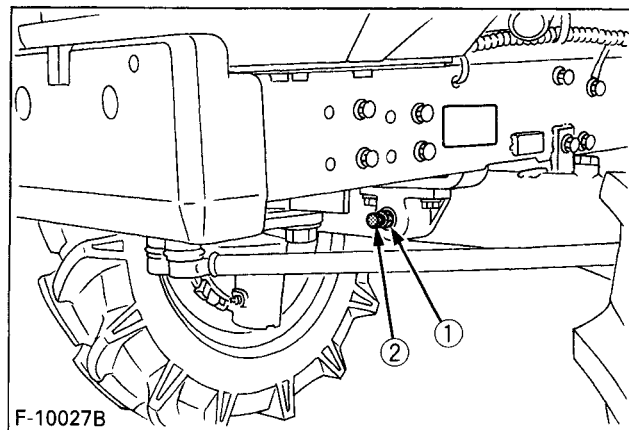
■前部デフケース前後遊びの調整

前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆調整

前輪タイヤ(両輪)を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込みガタを調整します。

①ロックナット
②調整ボルト

800時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

1年ごとの点検・整備

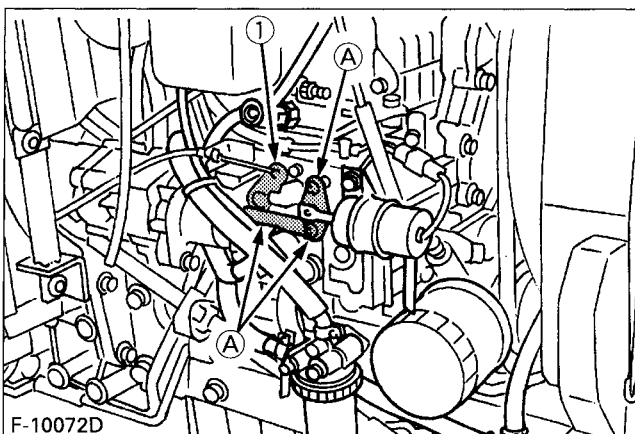
■エアクリーナエレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。
〔**"100時間ごとの点検・整備"**の**"エアクリーナエレメントの清掃"**の項を参照。〕

■注油

◆停止ソレノイドリンクへの注油

ソレノイドリンクの注油及び清掃は，1年に1回使用前及び長期格納時に行なってください。
注油後，アクセルレバーをアイドリングの位置にして，エンジンストップレバーが手で軽く動くことを確認し，更にエンジンを始動してキースイッチ**"切"**でエンジンが停止するか確認してください。

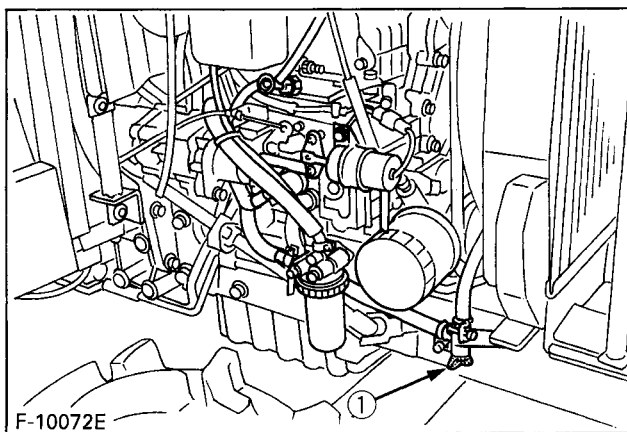
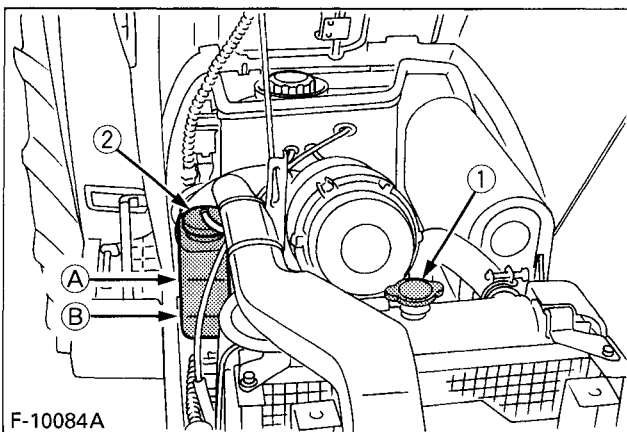
重 要
＊この部分は，キースイッチによるエンジン停止を行なう機構ですので，水田などに入って泥などが侵入したときは，適宜清掃を行なってください。

①エンジンストップレバー Ⓐ"注油"

2年ごとの点検・整備

■冷却水の交換

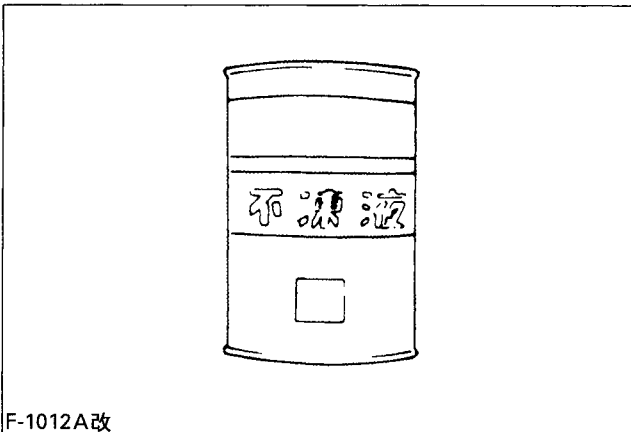
注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

❶ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は，リザーブタンクのキャップを外し排水します。

①排水コック

①ラジエータキャップ Ⓐ"上限"
②リザーブタンク Ⓑ"下限"

❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めオーバフローパイプを取付けます。
❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。
❹冷却水を交換した場合，冷却水をリザーブタンクの注入口まで一杯にし，ヒータ **"ON"**（温度コントロールレバーを**WARM**(右端)に寄せる）にして，しばらくエンジンを回し，冷却水を暖め，エンジンを止めてください。
冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸いこまれ，リザーブタンクの冷却水が適量になります。

◆不凍液の使い方

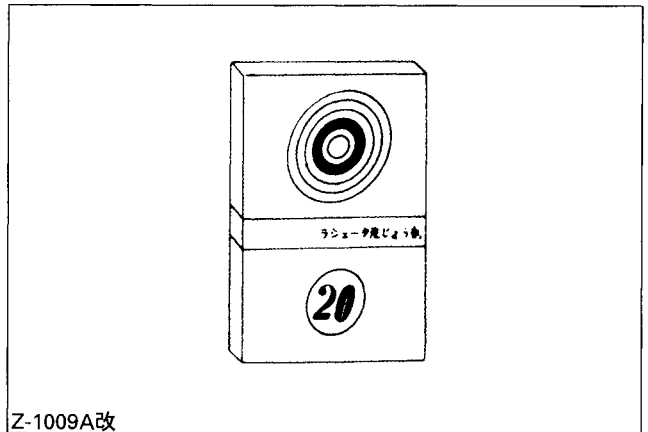
不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が０℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
〔工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕

F-1012A改

重　要
＊冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を50%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。
必ず２年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比	%	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度	℃	-4	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40

■ラジエータの洗浄

洗浄には，**ラジエータ洗じょう剤**を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
＊２年使用ごと
＊不凍液を混入するとき
＊不凍液混入から水だけに変えるとき
などに使用してください。

Z-1009A改

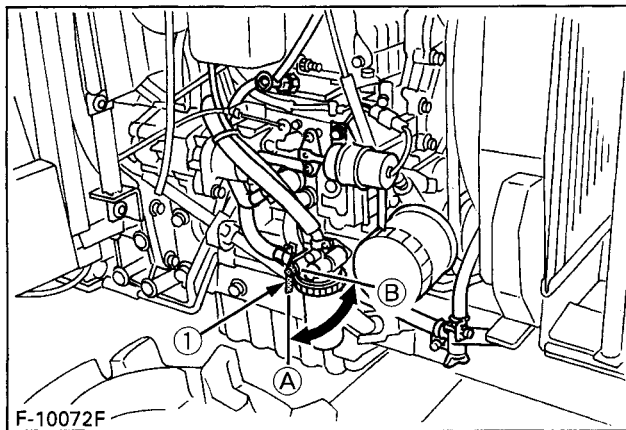
■ラジエータホースの交換
■パワーステアリングホースの交換【S仕様】
■燃料パイプの交換
■モンローシリンダホースの交換【M・MA仕様】
■油圧ミッションホースの交換【F仕様】
■ADブレーキホースの交換【B仕様】

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

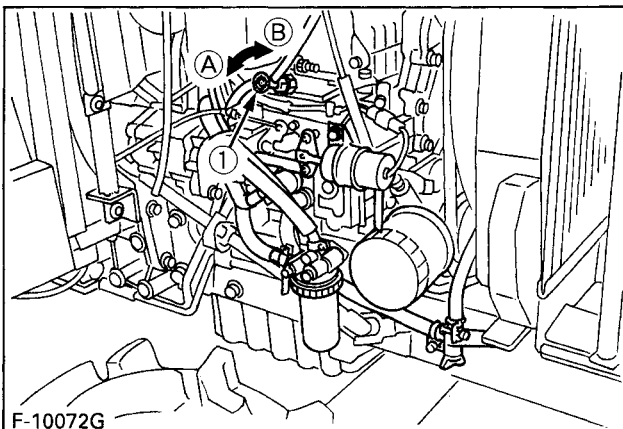
必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

❶燃料フィルタコックを**"開"**にする。

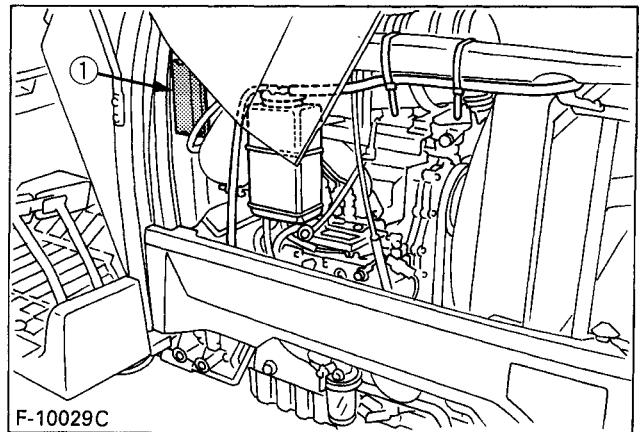
①燃料フィルタコック　Ⓐ"開"
Ⓑ"閉"

❷燃料噴射ポンプ上のコックを開く。

①エア抜きコック　Ⓐ"開"
Ⓑ"閉"

❸タンクに燃料を満たす。
❹エンジンを始動し，約1分間運転後停止する。
❺燃料噴射ポンプのコックを閉じる。

補　足

＊空気抜きするときのほかは燃料噴射ポンプのコックは，必ず閉じておいてください。エンストの原因になります。

■ヒューズの交換

①ヒューズボックス

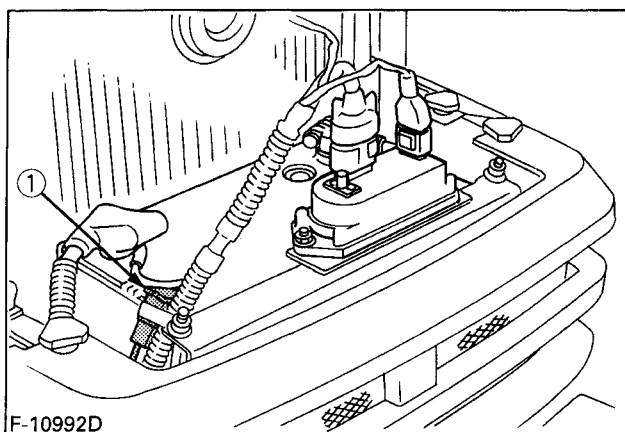
❶ヒューズボックスのふたを外す。
❷ヒューズを外す。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

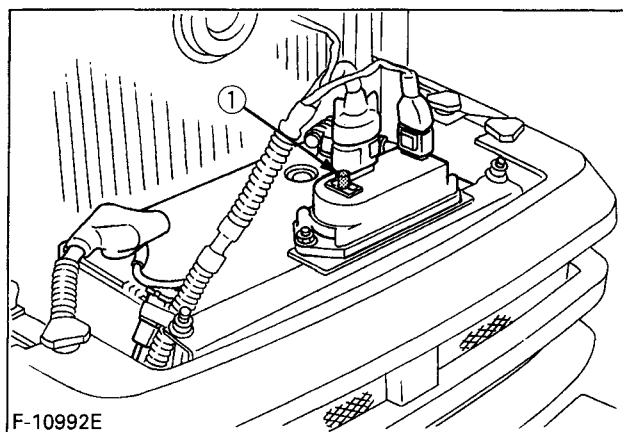
＊トラクタに作業灯などを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換

①スローブローヒューズ(40A)

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

■ランプ類の交換

1. ヘッドランプは，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
2. その他のランプ
   レンズを外し，バルブを交換します。

■プラスカットリレーのリセット方法

①リセットスイッチ

❶キースイッチを **“切”** にする。
❷リセットスイッチを押し，オレンジ色のスイッチが下に下がったのを確認する。
❸ 1 分以上休止してから，再度キースイッチを **“入”** にして，イージーチェッカランプが点灯するかを確認する。

重 要

＊リセットスイッチを押しても，すぐにスイッチが上がってしまう場合は，配線のショートのおそれがあるので，購入先に点検・整備を依頼してください。

格　　納

＊長期格納時は，クラッチ固着防止のため，クラッチ"切り"に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。

＊シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
火災を起こす原因になります。

長期格納時の手入れ

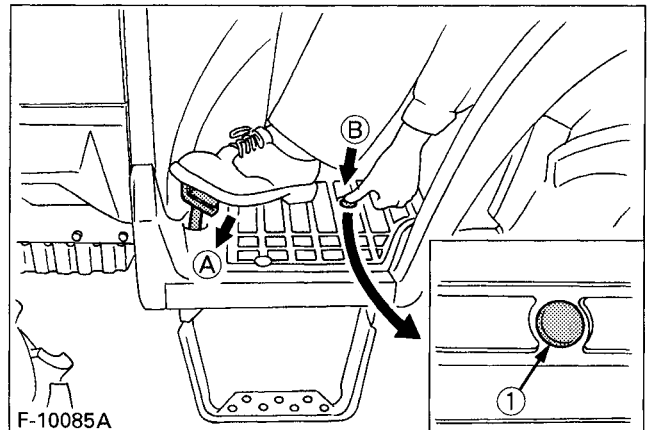
トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
   その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 燃料フィルタコックを **"閉"** にしておいてください。
6. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
7. クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

◆クラッチ"切"保持の方法

❶クラッチペダルをいっぱい踏込んでから，**"クラッチペダルロック"** を手で押下げます。

❷押下げたまま，クラッチペダルから足を離せば **"切"** の状態で保持されます。

❸使用するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込めば，ロックが解除されます。

①クラッチペダルロック　Ⓐ"踏む"
Ⓑ"押してロックする"

8. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が侵入していないことを確認してください。
9. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
10. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。
11. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
12. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
13. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
14. 格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
15. 格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

重　要

＊長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。

＊格納時は，必ず **"切"** の位置でキーを抜いておいてください。

付　表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

区分	型式名	クボタT200	クボタT200F	クボタT220	クボタT220F	クボタT240	クボタT240F
駆動方式		四輪駆動					
機体寸法	全長 mm	2805				2855	
機体寸法	全幅 mm	1150		1150〔1185〕		1185	
機体寸法	全高 mm	1875〔1895〕		1895		1895〔1925〕	
機体寸法	軸距 mm	1450					
機体寸法	輪距 前輪 mm	950					
機体寸法	輪距 後輪 mm	916, 1036		916, 1036〔950, 1070〕		950, 1070	
機体寸法	最低地上高 mm	300〔320〕		320		320〔330〕	
質量(重量) kg		850〔880〕	890〔920〕	880〔900〕	920〔940〕	900〔910〕	940〔950〕
エンジン	機関型式	クボタD1403-L-3T		クボタD1403-3T		クボタD1463-L-3T	
エンジン	形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル					
エンジン	総排気量 L(cc)	1.393 (1393)				1.463 (1463)	
エンジン	出力/回転速度 kW(PS)/rpm	14.7 (20) / 2500		16.2 (22) / 2600		17.7 (24) / 2600	
エンジン	使用燃料	ディーゼル軽油					
エンジン	燃料タンク容量 L	28					
エンジン	始動方式	セルモータ式(スーパーグロープラグ付)					
エンジン	バッテリ	75D26L　MF(メンテナンスフリー)					
タイヤ	前輪	6-12〔6-14〕		6-14			
タイヤ	後輪	8.3-22〔8.3-24〕		8.3-24〔9.5-22〕		9.5-22〔9.5-24〕	
車体	クラッチ方式	乾式単板(シングル)					
車体	制動装置	湿式ディスクブレーキ					
車体	かじ取り方式	ボールスクリュ式(インテグラルパワーステアリング又はマニュアルステアリング)					
車体	差動方式	2ピニオンかさ歯車式(デフロック付)					
車体	変速方式	コンスタントメッシュ	グライドシフト	コンスタントメッシュ	グライドシフト	コンスタントメッシュ	グライドシフト
変速段数(段)		前進12, 後進4	前・後進HST無段	前進12, 後進4	前・後進HST無段	前進12, 後進4	前・後進HST無段
走行速度 (km/h)	前進	0.41〜14.40〔0.43〜14.33〕	0〜13.00〔0〜13.41〕	0.45〜14.86	0〜13.90	0.42〜14.59〔0.44〜14.80〕	0〜13.91〔0〜14.63〕
走行速度 (km/h)	後進	0.60〜9.66〔0.61〜9.61〕	0〜9.26〔0〜9.56〕	0.64〜10.00	0〜9.94	0.61〜10.57〔0.64〜10.73〕	0〜9.91〔0〜10.43〕
最小旋回半径(ブレーキ使用時) m		1.80		1.85			
PTO	回転速度 rpm 正転	533, 771, 1136	471, 682, 1061	554, 802, 1182	490, 709, 1103	525, 760, 1182	490, 708, 1102
PTO	回転速度 rpm 逆転	526 (760, 1121)	498 (720, 1121)	547 (791, 1166)	518 (749, 1166)	518 (749, 1166)	518 (749, 1166)
PTO	軸寸法 mm	JIS 35					
作業機昇降装置	制御方式	ポジションコントロール					
作業機昇降装置	装置方式	3点リンク　JIS　1形					
安全フレーム型式名		クボタ　SF-GT26S					

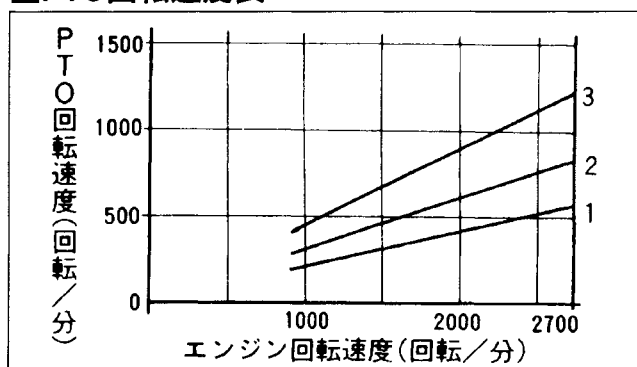
(注)〔　〕はJ(大径タイヤ)仕様を示す。

■走行速度表

(km/h)

マニュアルシフト仕様													
副変速 レバー	主変速 レバー	T200		T200J		T220		T220J		T240		T240J	
		前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
C	1 2 3	0.41 0.61 0.82	0.60	0.43 0.63 0.85	0.61	0.45 0.65 0.88	0.64	0.45 0.65 0.88	0.64	0.42 0.62 0.84	0.61	0.44 0.65 0.88	0.64
1	1 2 3	1.13 1.66 2.24	1.62	1.17 1.71 2.31	1.68	1.21 1.78 2.41	1.74	1.21 1.78 2.41	1.74	1.15 1.68 2.28	1.65	1.21 1.77 2.40	1.74
2	1 2 3	2.81 4.11 5.57	4.03	2.90 4.25 5.75	4.16	3.02 4.42 5.98	4.33	3.02 4.42 5.98	4.33	2.86 4.18 5.66	4.10	3.01 4.40 5.95	4.31
3	1 2 3	6.73 9.85 14.40	9.66	6.70 9.80 14.30	9.61	6.97 10.20 14.86	10.00	6.97 10.20 14.86	10.00	6.84 10.01 14.59	9.82	6.94 10.16 14.80	9.96

グライドシフト（F）仕様												
副変速 レバー	T200F		T200FJ		T220F		T220FJ		T240F		T240FJ	
	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	0～2.80	0～2.16	0～2.89	0～2.23	0～3.01	0～2.31	0～3.01	0～2.31	0～2.99	0～2.31	0～3.15	0～2.42
2	0～5.78	0～4.45	0～5.97	0～4.59	0～6.21	0～4.78	0～6.21	0～4.78	0～6.18	0～4.75	0～6.50	0～5.00
3	0～13.00	0～9.26	0～13.40	0～9.56	0～13.90	0～9.94	0～13.90	0～9.94	0～13.91	0～9.91	0～14.63	0～10.43

■PTO回転速度表

標準付属品

品　　名	数量/台	備　　考
ドライバー	1	+，－差し換え式
10－12　スパナ	1	
14－17　スパナ	1	
19－22　スパナ	1	
24－27　スパナ	1	
17－24　メガネレンチ	1	
プライヤ	1	
メインスイッチキーアッシ	1	キー２コ
取扱説明書	1	
PTO軸カバー	1	
フランジボルト	2	PTO軸カバー用

主な消耗部品一覧表

図番	品　　名	品　番	図番	品　　名	品　番
1	フィルタコンプ(エアクリーナ)	T0270-1632-0	9	オイルフィルタカートリッジ	17321-3243-0
2	フューエルフィルタアッシ	16271-4301-0	10	デンキュウ	34070-9901-0
3	エレメントアッシ	16271-4356-0	11	デンキュウ	37410-5272-0
4	フィルタ	3A431-8263-0	12	デンキュウ	99061-9106-0
5	ヒューズ10A	36730-7555-0	13	ランプ	6C040-5514-0
6	ヒューズ15A	35820-7556-0	14	オイルフィルタカートリッジ	66021-3606-0
7	ヒューズ5A	37410-5552-0	15	スローブローヒューズ	34670-3453-0
8	ヒューズ20A	36919-5665-0			

アタッチメント一覧表

分類	品番	品名	用途・仕様	併用 アタッチメント	T200	T200J	T220	T220J	T240	T240J
補助車輪	96023-08490	ストレーク 取付台アッシ	●片側にストレーク ５枚取付け用 ●8.3-22用	P15,P200,P25,P30 の何れかを ５組／台	○					
	99742-21000	ストレーク 取付台アッシ	●片側にストレーク ５枚取付け用 ●8.3-24用	P15,P200,P25,P30 の何れかを ５組／台		○	○			
	99752-21000	ストレーク 取付台アッシ	●片側にストレーク ５枚取付け用 ●9.5-22用	P15,P200,P25,P30 の何れかを ５組／台				○	○	
	99762-21002	ストレーク 取付台アッシ	●片側にストレーク 6枚取付け用 ●9.5-24用	P15,P200,P25,P30 の何れかを ６組／台						○
	96023-07192	P15反転 ストレークアッシ	シュー幅　15cm プレート式 機械はR,L各１個	上記のストレーク取付台アッシ	○					
	99023-07192	P15反転 ストレークアッシ	シュー幅　15cm プレート式 機械はR,L各１個			○	○	○	○	○
	99036-25000	P200反転 ストレークアッシ	シュー幅　20cm プレート式 機械はR,L各１個		○	○	○	○	○	○
	99576-26902	P25反転 ストレークアッシ	シュー幅　25cm プレート式 機械はR,L各１個			○	○	○	○	○
	96023-07392	P30反転 ストレークアッシ	シュー幅　30cm プレート式 機械はR,L各１個		○					
	99516-27902	P30反転 ストレークアッシ	シュー幅　30cm プレート式 機械はR,L各１個			○	○	○	○	○
ウエイト	99221-12000	フロントウエイト アッシ	28kg		○	○	○	○	○	○
	99291-17000	ウエイト 取付台アッシ	前部ウエイト５枚 取付可		○	○	○	○	○	○
	99261-11000	前部ウエイト	25kg		○	○	○	○	○	○
	96312-28100	後輪ウエイト	28kg		○					
	99261-15110	後輪ウエイト	28kg			○	○	○	○	○
その他	99061-91000	作業灯アッシ	12V27W　１個		○	○	○	○	○	○
	T0030-39100	トップリンクアッシ	GL240用トップリンク		○	○	○	○	○	○
	99273-75000	延長ヒッチアッシ	T200·200J·220·220J· 240·240J		○	○	○	○	○	○
	99433-8750-0	キャノピアッシ (オリタタミ,GT)			○	○	○	○	○	○
	99233-87003	簡易天蓋	幌製日よけ 安全フレームに 追加装着		○	○	○	○	○	○
	96397-15100	洗車ポンプアッシ	PTO軸に取付け		○	○	○	○	○	○
	T0270-19803	燃料給油ポンプ アッシ			○	○	○	○	○	○

インプルメントー覧表

＊トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪(前輪)にかかる荷重がトラクタ質量の20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。

＊装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪(前輪)にかかる荷重がトラクタ質量の20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。

＊フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装備してください。(詳細は購入先にご相談ください。)

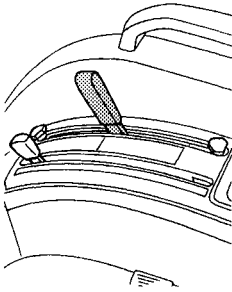
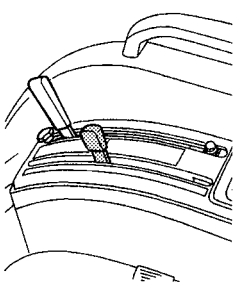
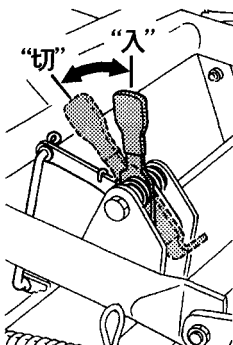
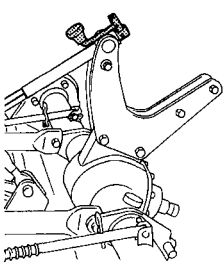
サイド

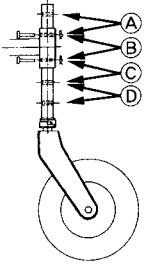
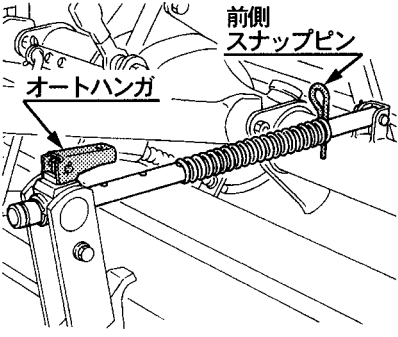
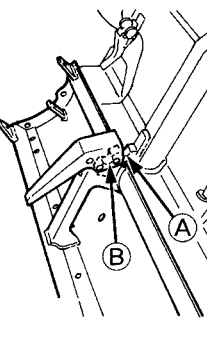
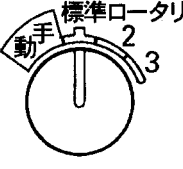
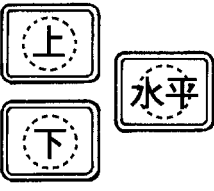
品　番	品　名	T200	T220	T240
7A104-00010	RL140T	○	○	
7A104-00020	RL140T-V	○	○	
7A134-00080	RL140T-SC	○	○	
7A134-00050	RL140T-SCV	○	○	
7A105-00010	RL150T	○	○	○
7A105-00020	RL150T-V	○	○	○
7A135-00080	RL150T-SC	○	○	○
7A135-00050	RL150T-SCV	○	○	○
7A106-00010	RL160T	○	○	○
7A106-00020	RL160T-V		○	○
7A136-00080	RL160T-SC		○	○
7A136-00050	RL160T-SCV		○	○
7A107-00010	RL170T		○	○

センタ

品　番	品　名	T200	T220	T240
7A185-00010	R150T	○	○	○

E仕様

品　番	品　名	T200	T220	T240
7A108-00010	RL140T-E	○	○	
7A108-00020	RL140T-VE	○	○	
7A109-00010	RL150T-E	○	○	○
7A109-00020	RL150T-VE	○	○	○
7A102-00010	RL160T-E	○	○	○
7A102-00020	RL160T-VE		○	○
7A103-00010	RL170T-E		○	○

補　足

V　：Vカットカバー付
SC　：マッドレスカバー
SCV：マッドレスカバーVカット付
R　：センタドライブ
RL　：サイドドライブ

品　番	品　　名	適　用　型　式					
		T200	T200J	T220	T220J	T240	T240J
7A100-01000	UGT19-5RF補助ユニット (スーパージョイントなし)	○	○	○	○	○	
7A100-02000	UGT19Q-5RF補助ユニット (スーパージョイント付)	○	○	○	○	○	
7A100-05000	UGT23J-5RF補助ユニット (スーパージョイントなし)						○
7A100-06000	UGT23JQ-5RF補助ユニット (スーパージョイント付)						○
L1014-00000	NLH300グレイタスローダ	○	○	○	○	○	○
L1903-00000	GT30 油圧取出しキット	○	○	○	○	○	○
L2300-00000	RT-112(M1) 小うねマルチロータリ	○	○	○	○	○	○
L2301-00000	RT-112(M3) 高うねマルチロータリ	○	○	○	○	○	○
L2302-00000	RT-112(M4) 平高うねマルチロータリ	○	○	○	○	○	○
L2303-00000	RT112(M6) 高うねマルチロータリ	○	○	○	○	○	○
L2500-00000	RT-212　2うねマルチロータリ	○	○	○	○	○	○
78485-00000	RT-2D　2軸マルチロータリ	○	○	○	○	○	○
L2000-00000	RT-112(GL)　取付キット	○	○	○	○	○	○
74251-18030	SD42N　スーパーディスク	○	○	○	○	○	○
74251-18020	SD423DJ　スーパーディスク	○	○	○	○	○	○
74242-18120	SD423DKU　スーパーディスク	○	○	○	○	○	○

耕うん作業の一般的な調整要領

<table>
<tr><th colspan="3">作業内容</th><th>油圧(ポジション)レバー
“切” “入”
F-10037E</th><th>オート耕深レバー
F-10052B</th><th>オート切換レバー
“切” “入”
F-10026B</th><th>後2輪ハンドル
G-5101D</th></tr>
<tr><td rowspan="6">ポジションコントロール</td><td colspan="2">浅耕こし(5～8cm)</td><td rowspan="6">最下げ位置</td><td rowspan="6">――</td><td rowspan="6">“オート切”位置</td><td rowspan="6">希望耕深になるよう調整</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般耕うん(8～15cm)</td></tr>
<tr><td colspan="2">深耕こし(15cm以上)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">代かき</td><td>一般ほ場</td></tr>
<tr><td>湿田ほ場</td></tr>
<tr><td colspan="2">畝立て</td></tr>
<tr><td rowspan="5">メカオート(MA仕様)</td><td colspan="2">浅耕こし(5～8cm)</td><td rowspan="5">最下げ位置</td><td rowspan="5">希望耕深になるよう調整</td><td rowspan="5">“オート入”位置</td><td rowspan="5">――</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般耕うん(8～15cm)</td></tr>
<tr><td colspan="2">深耕こし(15cm以上)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">代かき</td><td>一般ほ場</td></tr>
<tr><td>湿田ほ場</td></tr>
<tr><td rowspan="3">モンローマチック(M･MA仕様)</td><td colspan="2">水田の耕うん</td><td rowspan="3">――</td><td rowspan="3">――</td><td rowspan="3">――</td><td rowspan="3">――</td></tr>
<tr><td colspan="2">傾斜畑の耕うん</td></tr>
<tr><td colspan="2">プラウ作業など</td></tr>
</table>

※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。
土質など作業条件に合せて適宜調整してください。

<table>
<tr><th>後2輪
G-3651C</th><th colspan="2">ロータリカバー
G-5121D</th><th>フラップカバー
G-5125B</th><th>水平切換スイッチ
F-10047D</th><th>角度調節スイッチ
F-10047E</th></tr>
<tr><td rowspan="3">Ⓑ位置にセット</td><td rowspan="4">作業によりカバーを上げるときはオートハンガをロック位置にしセットする。</td><td rowspan="4">希望の接地圧になるよう調整

スナップピンのセット位置を後方に下げ，押付け力を強くすると，均平·整地に効果があります。</td><td>Ⓑ位置にセット
(GT26J,30(J)はA位置)</td><td rowspan="5">—</td><td rowspan="5">—</td></tr>
<tr><td>Ⓐ位置にセット</td></tr>
<tr><td>外す</td></tr>
<tr><td>Ⓐ位置にセット</td><td>Ⓑ位置にセット</td></tr>
<tr><td>後2輪を外す</td><td>カバーを上げ
オートハンガで固定</td><td>一番前方の穴にセット</td><td>外す</td></tr>
<tr><td rowspan="4">後2輪を外す</td><td rowspan="4">カバーをフリーにする</td><td rowspan="4">一番前方の穴にセット

スナップピンのセット位置を後方に下げ，押付け力を強くすると，カバーの動きが悪くなり，オートが作動しにくくなります。</td><td>Ⓑ位置にセット
(GT26J,30(J)はA位置)</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="4">—</td></tr>
<tr><td>Ⓐ位置にセット</td></tr>
<tr><td>外す</td></tr>
<tr><td>Ⓑ位置にセット</td></tr>
<tr><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">—</td><td>標準ロータリ</td><td>—</td></tr>
<tr><td>手動位置</td><td>希望の角度になるよう調節</td></tr>
</table>

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

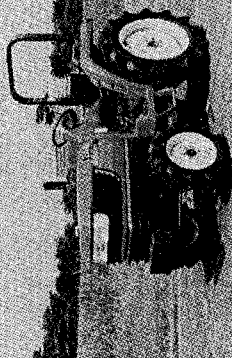
型式名：クボタ　SF－GT26S

合格番号：201008

種　類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型　式　名　※

クボタ　GT26F	クボタ　GT26	クボタ　T240F	クボタ　T240
クボタ　GT23F	クボタ　GT23	クボタ　T22F	クボタ　T220F
クボタ　T22	クボタ　T220	クボタ　GT21F	クボタ　GT21
クボタ　T200F	クボタ　T200	クボタ　GT19F	クボタ　GT19

※クボタ GT26F，クボタ GT26は，タイヤサイズが前輪6-14 2PR，後輪9.5-24 4PRの場合のみ装着可能。

2．主要諸元（最大トラクター）

■ 型　式　名　：　クボタ　GT26F
■ 種　類　：　4輪駆動
■ 質　量（フレーム付き）　kg　：　939
■ 軸　距　mm　：　1500
■ 機関出力／回転速度　kW{PS}/rpm　：　19.1{26}/2600

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（2点式）

3．主要寸法　※

■ 座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	88.0 cm
■ フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	129.0 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		：	76.5 cm
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	－ cm
■ 戸口の幅	（上部）	：	－ cm
	（中部）	：	－ cm
	（下部）	：	－ cm
■ 戸口の高さ	（フートプレートから）	：	－ cm
■ 最低位ステップの高さ		：	38.0 cm
■ フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	：	193.0 cm
■ フレームの全幅	（フェンダーを含む）	：	108.0 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	22.0 cm

※1．クボタ　GT26F（タイヤサイズ：前輪 6-14 2PR　後輪 9.5-24 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：コクユ，T0430-4771

4．主要材料

■ 主フレーム　：　STKR 400，STK 400，SS 400，SPHC，SGD 400-D
■ 装着ブラケット　：　STK 400，SS 400
■ 組立・装着ボルト　：　SGD 400-D，S 43 C，S 40～45 C，SCM 435

Ⅲ　検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。
■ 基　準　質　量　：　940 kg
■ 所要吸収エネルギー　：　後部負荷　1.51 kJ {154 kgf·m}
　　側部負荷　2.42 kJ {247 kgf·m}
■ 圧　壊　力　：　13.83 kN {1410 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位
■ 後　部（前方へ）　：　右側　12.5 cm　左側　12.0 cm
■ 側　部（右側方へ）　：　16.0 cm
■ 上　部（下方へ）　：　右側　2.5 cm　左側　-1.0 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差　：　8.5 cm

2．騒　音　※

■ 88 dB(A)［クボタ　GT26F］

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ　付　記

本フレームは，既合格機（合格番号 98033）であり，装着トラクター6型式（クボタ T240F，クボタ T240，クボタ T220F，クボタ T220，クボタ T200F，クボタ T200）の追加にともなって受検したものである。このため，以下の試験成績を転用した。
強度試験，分解調査

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　―
ご購入日	型式名	区分
車台番号（製造番号）	エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

部署	電話	郵便番号	住所
機械札幌事務所	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目1番1号
機械東日本事務所	電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所	電(072)241-8506	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
機械福岡事務所	電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘2丁目2番76号

クボタ機械サービス株式会社

部署	電話	郵便番号	住所
本社営業技術部	電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目1番1号
秋田営業技術推進部	電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部	電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部	電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部	電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部	電(076)275-1121	〒924-0038	松任市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部	電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部	電(072)241-8551	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
米子営業技術推進部	電(0859)33-5011	〒683-0804	米子市米原7丁目1番1号
岡山営業技術推進部	電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部	電(087)874-5091	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部	電(092)606-3673	〒811-0213	福岡市東区和白丘2丁目2番76号
熊本営業技術推進部	電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

株式会社クボタアグリ東日本

部署	電話	郵便番号	住所
東北系統推進部	電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部	電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市西堀5丁目2番36号

株式会社クボタアグリ西日本

部署	電話	郵便番号	住所
中部・近畿系統推進部	電(072)241-8550	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
中四国系統推進部	電(087)874-5091	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

部署	電話	郵便番号	住所
九州系統事業推進部	電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘2丁目2番76号

T200・220・240

AG.●.2－4.15.K

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　〒556-8601

品番　T0421-1920-2

Kubota